

唐古・鍵遺跡 考古資料目録 I

—土器編 1（絵画・記号・文様）—



田原本町教育委員会

2015.3

例　　言

1. 本書は、唐古・鍵遺跡の出土品のうち、特に重要と思われる遺物について種別ごとに報告するものである。今回は、第1冊目として「土器編1(絵画・記号・文様)」とした。
2. 本書に収録した遺物は、唐古・鍵遺跡第3次から第115次までの調査で出土した遺物の中から選定したものであるが、一部は遺跡において表面採集した遺物も含んでいる。発掘調査は、第3次から第12次までが奈良県立橿原考古学研究所、第13次以降は田原本町教育委員会が実施したもので、いずれの調査の出土品も田原本町教育委員会所蔵の遺物である。
3. 遺物写真の撮影は、亀村俊二・佐藤右文・田原本町教育委員会事務局文化財保存課職員による。
4. 遺物観察表の作成は清水琢哉・柴田将幹・西岡成晃・江浦至希子がおこなった。
5. 本書は、藤田三郎が執筆し、中尾澄子・清水・柴田・江浦・小松博子・榎原初美・中谷利枝・服部文子の協力を得た。編集は、藤田・西岡がおこなった。

目 次

第Ⅰ部 唐古・鍵遺跡の調査概要

| | |
|---------------|---|
| 1. 遺跡の位置と立地 | 1 |
| 2. 遺跡調査の経過 | 1 |
| 3. 弥生集落の構造と変遷 | 1 |
| 4. 墓域と衛星集落 | 6 |

第Ⅱ部 出土資料の全容と個別資料の概要

| | |
|------------|----|
| 1. 出土資料の全容 | 7 |
| 2. 絵画土器の概要 | 8 |
| 3. 記号土器の概要 | 14 |
| 4. 土器文様の概要 | 16 |

第Ⅲ部 考古資料目録

凡例

| | |
|---------|----|
| 1. 絵画土器 | 20 |
| 2. 記号土器 | 58 |
| 3. 土器文様 | 82 |

附

| | |
|---------------|-----|
| 1. 遺物図版 | 96 |
| 2. 遺物一覧表 | 100 |
| 3. 文献(発掘調査関係) | 110 |

第Ⅰ部 唐古・鍵遺跡の調査概要

1. 遺跡の位置と立地

唐古・鍵遺跡は、弥生時代の代表的な環濠集落跡である。奈良県北西部にあたる東西15km、南北20kmほどの奈良盆地の中央部に位置し、寺川と初瀬川に挟まれた標高47～49mの沖積地に立地する。古くは「唐古遺跡」として知られていたが、1977年の第3次調査の成果により、奈良県磯城郡田原本町大字鍵地区まで集落が拡がることが明らかになった。このことから、両地名をとり遺跡の名称が「唐古・鍵遺跡」へと変更されている。

遺跡の大半は、一辺約109mの方形区画の水田によって削平されている。これら水田は、古代以降から中世にかけて整備された条里制と呼ばれる土地区画であり、現状では弥生時代の地形を判別できない状況になっている。しかしながら、微地形復元から、東南から西北方向に緩傾斜した微高地上に集落が經營されていたことが判明している。現在の水田下、約0.5mに弥生時代の遺物包含層があり、弥生時代前期から古墳時代前期に至る集落関係の遺構・遺物が良好な状態で保存されている。その範囲はおよそ東西700m、南北750mの不整円形を呈し、約42万m²を占めている。

2. 遺跡調査の経過

この遺跡は、1901年の高橋健自の採集資料の報告に始まり、その後の資料紹介と小規模な発掘調査を経て、1936・7年の末永雅雄博士らによる唐古池発掘調査を第1次とし、第2次調査（第2次1967・第3次1977～）から奈良県立橿原考古学研究所、第13次調査（1982～）以降は田原本町教育委員会によって継続的な調査がおこなわれている。2015年3月現在、第115次を数えるが、これまでの調査面積は約36,200m²で、遺跡全体の8.6%に過ぎない。

第3次調査は町立北幼稚園建設に伴う調査で、集落を囲む南側の環濠を検出するとともに銅鐸の鋳型などの出土によってその後の範囲確認調査を継続的に実施する契機になった。それから第33次調査までの間、緊急調査と並行して範囲確認調査をおこない、集落を囲む多条環濠、竪穴住居や井戸などの生活遺構の検出により、遺跡の全体像がぼんやりと見えるようになった。第61次調査（1996）から第98次調査（2004）までの11調査では、集落の構造解明のための遺跡内容確認調査を実施した。それら調査のなかで青銅器工房跡や大型建物跡などを検出し、唐古・鍵遺跡は近畿地方の盟主的な集落として位置づけられるようになった。また、1999年には国史跡の指定を受け、公有化を図るとともに史跡公園として整備を進めているところである。

3. 弥生集落の構造と変遷

唐古・鍵遺跡は、弥生時代前期から古墳時代前期まで営まれた集落であり、検出された遺構には竪穴住居、大型建物、井戸、木器貯蔵穴、環濠、区画溝などの居住関係、集落の周辺に形成された方形周溝墓、土器棺などの墓関係、また、集落内部を縱断する突發的な流路（河川）などがある。

これまでの調査成果から、集落は弥生時代前期初頭に成立し、古墳時代前期まで営々と断続することなく営まれたことがわかっている。長期にわたる集落形成の中で、集落構造は大きく4つの画期が認められ変遷する。

第Ⅰ部 唐古・鍵遺跡の調査概要

第1の段階は弥生時代前期で、集落の成立・分立期である。遺跡中央部には微高地が存在し、集落縁辺には河川（南方砂層）が存在するようである。集落構造は微高地に立地し、それぞれの微高地（北地区、南地区、西地区）の3ヶ所に集落は分立していた。北・南地区は約130×250m、西地区は規模が大きく約170×450mの居住範囲を有している。その内部では、多数の木器貯蔵穴が検出され、鎌や鋤の農耕具、斧の柄などの工具、高杯や鉢などの容器など、各種木製未成品が多量に出土している。特に西地区と北地区では、密集度が高い。また、前期段階の石窓丁の石材は遺跡の南方6kmにある耳成山産の流紋岩を利用しており、西地区的第16次調査で、多量の流紋岩石材が出土している。原石から石窓丁の製品までの各製作工程がわかるものが出土しており、唐古・鍵遺跡では弥生前期の集落成立段階から単に稻を作るだけでなく、木器や石器の製作などさまざまな手工業製品を手がけ、唐古・鍵ムラで自給し、周辺のムラに製品を供給していたと推定される。このようなことから、前期段階から地域の中核的な存在であったと推定される。

前期の新しい段階には、各地区的微高地縁辺に幅2～3mの溝（環濠か）が掘削されるが、この溝は短期間で埋没し、次への発展段階を迎えることになる。この時期の西地区において、弥生時代としては、最も古い総柱の大型建物跡が検出されている。梁行き7m、桁行き13.4m以上の南北棟建物で、独立棟持柱をもつ。残存する柱は直径0.6mのケヤキ材3本とヤマグワ（棟持柱）1本である。附属施設は未調査であるが、この建物は西地区的中枢建物と考えられる。

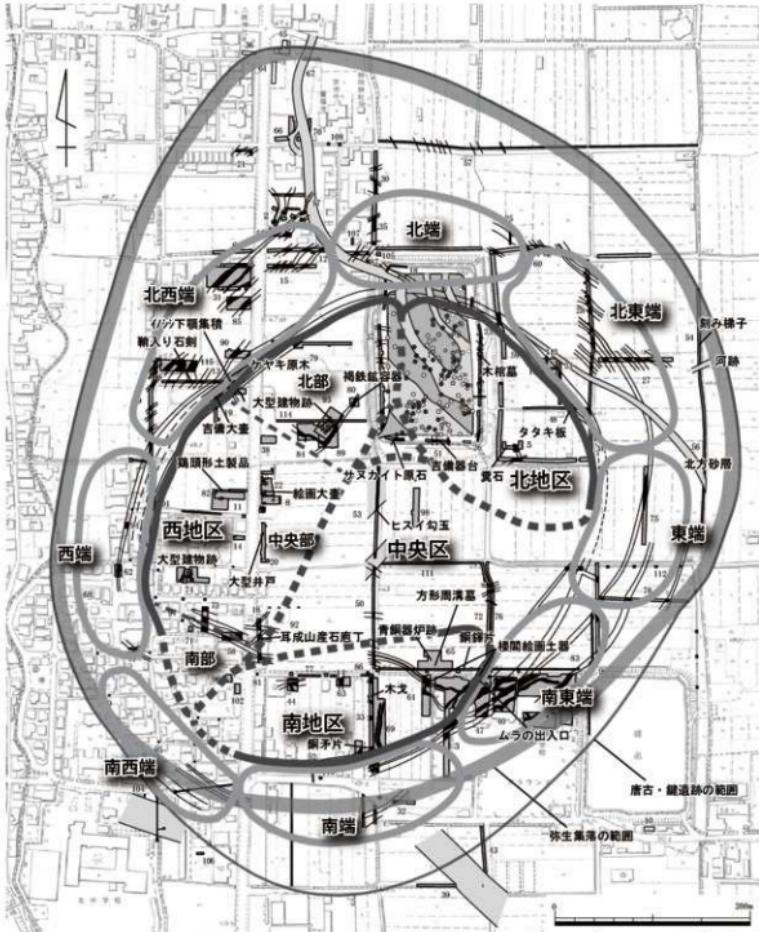
第2の段階は弥生時代中期で、大環濠集落の成立・発展期である。この時期が環濠集落として最も繁栄し、集落の内容も充実している。3ヶ所に分立していた弥生時代前期集落を取り囲むように大環濠が掘削された。1つとなった巨大な集落内部は、地形や環境が改変され、居住環境が整えられることになった。ムラを囲む大環濠は、幅7～10m前後の規模を有し、直径400mの居住区を規定している。さらに環濠は外側へ3～5条と多条化を図られる。これら環濠群は、居住区の外縁を幅150～200mで囲み、「環濠帯」を形づくることになり、集落景観が一変したと考えられるのである。

居住区の内部は、多数の溝で区画された様々な地区で構成されていたと考えられるが、各地区的特殊性は、未調査部分が多く現段階では不明である。西地区的北部では、大和第III-2様式の大型建物跡が検出されているが、その周辺にも大柱が存在しており、複数棟の大型建物の存在がうかがえる。南地区的中央部では、中枢部を区画すると考えられる2条の小溝が検出されている。この区画溝は弥生時代中期後半から後期末まで維持され、その内部は高床建物群、外側は竪穴住居群で構成されていた可能性が高い。このような傾向は、区画された他の地区でも同様にみられる。また、出土遺物においても南地区では木器の未成品や青銅器鋳造関連遺物や炉跡、北地区ではサヌカイトの原石や剝片がまとまって出土するところなどがあり、今後、集落構造や構成員などを想定することも可能になってくるであろう。このように、大環濠によって統合されたムラ内部では、居住区内の性格が定まっていたと考えられる。

第3の段階は弥生時代後期で、環濠集落の再建・発展期である。唐古・鍵遺跡では、中期後半から末にかけての洪水堆積層を各所で検出している。これは、ムラを囲む環濠や凹地に厚い砂層堆積があり、ムラ全体を襲った災害であったと考えられる。中期末の災害は、ムラを放棄させるには至

3. 弥生集落の構造と変遷

らなかった。中期の大部分の環濠は埋没したが、規模を縮小しすぐに再掘削された。その後、後期の期間を通じて、中期と同様、あるいはそれ以上の環濠群でムラが囲まれることになる。ここで重要なのは、低地における中期の拠点的な大集落の大半が、断絶・解体あるいは、位置を変え縮小するのに対し、唐古・鍵ムラでは解体せずにさらに規模を拡大することにある。非常に定住性の強い遺跡であるといえ、ここに唐古・鍵遺跡の弥生時代を通しての特質が見られる。後期の遺構は多数の井戸が検出され、完形土器が多量に出土しているが、それ以外の遺構は不明なところが多い。



第1図 唐古・鍵遺跡の調査成果と地区区分図 ($S = 1/5,000$)

第1部 唐古・鍵遺跡の調査概要

第1表 唐古・鍵遺跡の地区別遺構・遺物変遷表

| 時期 | 集落全体 | | 北地区 | | 西地区 | |
|------------------|--------|-----------------------|---------------------|-------------------------------|------------------------|-------------------------------|
| | 遺構・遺構 | 遺物 | 遺構 | 遺物 | 遺構 | 遺物 |
| 弥生時代前期 大和第Ⅰ様式 | I-1 | 集落の形成 凸形土器 彫文土器 | 南方移墾・中央移墾 木桶貯藏穴群 | 黒水施設（大型・17次） 石（31次） | 本耕野籠六群 | |
| | I-2 | | | | | 設置（20次） |
| | II-1 | | | 木棺墓（23次） | | 木製骨牙のあるイノシシ下槽（37次） |
| | II-2 | 伊勢湾岸地域産の土器 | | 麻布切れ（23次） | | 渡社石塚石・石龜T製作（16次） |
| | II-3 | | | 大木刳葉井戸（1次） | | |
| | III-1 | 大堤防の剥離 | | 大型井戸（59次） | 大型井戸（20-37次） | ケヤキ木・イノシシ下槽施設（13次）・サクライ盆（30次） |
| | III-2 | | | | | |
| | III-3 | | | 大木刳葉井戸（23次） | | 大型圓筒形（93次） |
| | III-4 | 堤道の多量化 灰水層 | | 船山式土器（24次） 船山式骨壺の束丁焼附（39次） | | |
| | IV-1 | 結園土器 | | | | 石製圓筒形（93次） |
| 弥生時代中期 大和第Ⅳ様式 | IV-2 | 灰水層・堤道の埋没 | 北方移墾 | | | 縄繩文匁瓦を入れた場石器（80次） |
| | V-1 | 堤道の再剥離 | | | 吉備移器台（51次） | 鏡入リ石器・萬字高杯・火鉢口（13次） |
| 弥生時代後期 大和第V様式 | V-2 | | | | | |
| | VI-1 | | | | | |
| | VI-2 | 記号土器 | | 巴形削器（32次） | | |
| | VI-3 | | | タラキ板（48次）・糞み桶子（54次） | | 圓筒形土器品（11次） |
| | VI-4 | 堤道の放棄 盆地東南隅産の土器 | | | | |
| 古墳時代初期 庄内式 | 0式 | | | | | |
| | 1式 | | | | | |
| | 2式 | 堤道再剥離 | | | 方彌圓溝墓（74次） | ヤリガシナ（74次） |
| | 0式 | | | 内盛り器・壺（5次） | | |
| | 1式 | | | 大形土坑（24次）・井戸・窓（26次） | 井戸（3次） | 山陰系壺（5-26次） |
| 古墳時代前期 布留式 | 2式 | | | 圓筒形（24次） | | |
| | | 集落の形成 | | 大形井戸（59次） | 馬首・田下款・圓筒・平底・子持丸玉（59次） | 子持丸玉（38次） |
| | | | | 土坑（1-58次） | | 方壺（11-18-20-34-35） |
| 古墳時代中期 | | | | | | 彫象埴輪（84次） |
| 古墳時代後期 | 古墳群の形成 | | | | | |

3. 弥生集落の構造と変遷

| 時期 | 南地区 | | 中央区 | | 周辺集落・墓 |
|---------------------|--------|-----------------------------------|---------------|----------------|--|
| | 遺構 | 遺物 | 遺構 | 遺物 | |
| 弥生時代前期 大和第Ⅰ様式 | I-1 | | | 近畿大墓 (53次) | |
| | I-2 | | 木器附窓穴 (53次) | | |
| | II-1 | | | | |
| | II-2 | 方形周溝墓 (31次) 櫛に利用された複形櫛手片 (32次) | 玉作り関係遺物 (88次) | | |
| | II-3 | 天竜川流域の墓 (50次) | | | 清水廻塚跡1次 (方形周溝墓) |
| | III-1 | | 高水施設 (大墓・50次) | | |
| | III-2 | | 高水施設 (大墓・50次) | | 法貴寺古墳前遺跡7次・坂手東遺跡2次 (方形周溝墓) |
| | III-3 | 大日大墓井戸跡 (69次) | | | |
| | III-4 | 木炭 (33次)・網脚片 (77次) | | | |
| | IV-1 | 横闊曲面土壁 (47次)・横 軸施設石 (52次) | 横軸曲面土壁 (53次) | | 清水廻塚跡1-2次・法貴寺古墳前遺跡7次・坂手西遺跡2次・八尾丸原遺跡1次 (底立柱施物・井戸・土坑、周溝) |
| 弥生時代中期 大和第IV・V様式 | IV-2 | 青銅器鍛造工房 (55次) | 浜水層 (53次) | | |
| | V-1 | 横闊曲面土壁 (61次) | | 鐵製大型勾玉 (53次) | |
| | V-2 | | | | |
| | VI-1 | | | | |
| | VI-2 | | | | |
| | VI-3 | 方形周溝墓 (61・65・77 次) | 板状施序 (40次) | | 清水廻塚跡2次・坂手西遺跡5次ほか・八尾丸原遺跡1 次ほか (底立柱施物・井戸) / 法貴寺北遺跡1次 (方形周溝墓) |
| | VI-4 | | | | |
| | 0式 | | | | |
| | 1式 | 井戸 (40次) | 木棺 (40次) | | |
| | 2式 | | | | |
| 古墳時代初期 庄内式 | 0式 | | | | |
| | 1式 | 土坑 (3・68・76次) | | | |
| | 2式 | | | | |
| | 古墳時代中期 | | | | |
| 古墳時代前期 布留式 | 古墳時代中期 | | | | |
| | 古墳時代後期 | | 形象埴輪 (40次) | 前方後円壇 (72・76次) | 馬・人物・圓形等身像・笠 形木製品等 |
| | | | | | |

※ゴシックは時期確定遺構・遺物、明朝は時期不確定遺構・遺物を示す

第Ⅰ部 唐古・鍵遺跡の調査概要

第4の段階は、弥生時代終末から古墳時代前期の時期で、それまで維持されてきた「環濠帯」機能の消失期である。後期初頭に再掘削された中期の環濠群は、溝さえ、あるいは再掘削されながら維持されたが、後期末には多量の土器の投棄をもって完全に埋没することになる。この現象は環濠の各所でみられ、それも完全な土器を多く投棄していることから、環濠集落の解体（放棄）にともなう儀礼的行為を考えることもできる。ただし、ムラが完全に廃絶したわけではなく、集住度は低いながらも井戸などの居住構造を検出している。また、南地区においては、集落内部に方形周溝墓が造られるようになっており、集落構造が変質しているようである。次の古墳時代前期（庄内期）には、弥生時代前期と同様3ヶ所の地区を中心に居住構造が展開する。続く布留期には遺構数も増加する傾向がある。ここで重要なことは、弥生時代の環濠を利用（再掘削）してムラを囲むことである。弥生時代中期以来、環濠集落という形態が長期間営まれてきたが、周辺地域では環濠を放棄することで新たな時代へと展開していった。しかし、唐古・鍵遺跡の布留期の環濠は、その点において重要な問題をもっている。

4. 墓域と衛星集落

墓域については不明な点が多い。北地区の縁辺で弥生時代前期の木棺墓2基、また、南地区的東南部側や西地区的北西側の集落の縁辺では、大環濠掘削前に前後する時期に方形周溝墓が造られている。環濠内部の居住区内では、南地区で弥生時代後期後半の方形周溝墓3基、西地区で庄内期のもの1基が検出されているが、大規模なものではない。また、弥生時代中期の土器棺や土壙墓は散発的に環濠帯付近とムラの中央部で検出されているが、いずれも居住区からは離れており、墓域を形成するというようなものでない。このような状況から、墓は、中期中葉以降は集落からかなり離れた場所で築造されたと推定され、唐古・鍵遺跡から北500mの清水風遺跡（弥生時代中期初頭・後期末）や東北東400mの法貴寺北遺跡（弥生時代後期末）、南600mの法貴寺斎宮前遺跡（弥生時代中期初頭・中葉）、同じく南1kmの阪手東遺跡（弥生時代中期中葉）などが墓域としてあげられる。

これら唐古・鍵遺跡の墓域に想定される衛星的なムラでは、それぞれの遺跡間で時期を違えた生活構造を検出している。このほかに衛星集落とみなせる南300mの小阪里中遺跡、西800mの八尾九原遺跡なども弥生時代中期後半と後期の小集落であり、いずれも唐古・鍵遺跡から谷1つ隔てた所に立地している。これら小集落は単独では維持されず、おそらく唐古・鍵遺跡と運命共同体的存在であり、「唐古・鍵遺跡群」として把握できるものである。このような立場からみれば、唐古・鍵遺跡から半径1kmほどをその領域とすることができるであろう。

生産域についても全く不明である。しかしながら、唐古・鍵ムラを維持するにはかなりの領域を必要としており、前述した唐古・鍵ムラの分村を含めた「唐古・鍵遺跡群」の領域に存在していたと推定しておく必要があろう。

第Ⅱ部 出土資料の全容と個別資料の概要

1. 出土資料の全容

唐古・鍵遺跡の様々な遺構は2つ乃至3つの遺構面から掘削されており、各遺構面を覆うように遺物包含層が形成されている。このような遺物包含層は、長期にわたる集落形成により黒色土が土壤化したもので厚さ20～40cmほどで遺跡全体を覆っている。最上部の遺物包含層は酸化が進むとともに鉄分の凝縮で堅密になり、遺物の状態は劣悪であるが、これ以外の部分での保存状態は概ね良好で当時の状態を示すものが多い。遺物は多種多様な遺構および遺物包含層から出土しているが、唐古・鍵遺跡の構造が居住区とそれを取り囲む環濠帯であるため、遺物の包含量は居住区から環濠1～2条目までが多く、その外側に掘削された環濠の遺物量は激減するという状況がみられる。また、径400mの居住区内においても時代によっては粗密がみられる地区もある。弥生時代前期から古墳時代前期までの遺物が濃密に分布するのは、西地区の中央部と北地区の北西部である。南地区は中期から後期にかけて、特に後期の遺物量は膨大になる。最も多いところでは、調査面積1m²に対して遺物箱(W34cm×D54cm×H15cm)2箱の出土を見る。第3～115次の遺物量は約13,000箱であり、大半が弥生土器で、次いで木製品、石器である。

本遺跡から出土する弥生時代の遺物としては、弥生土器・土製品・石器・木製品・金属器・ガラス製品・骨角器などの人為物と獸骨・種子類などの自然遺物があり、なかでも弥生土器は膨大な量を占める。これら遺物は、土坑や溝などから良好な一括資料として出土するとともに、水分を含んだ粘土質の土壤から出土するため保存状態が良好なものが多い。このほか、複合遺跡のため、弥生時代以外の遺物も出土している。弥生に比べれば少量で、繩文土器・土師器・須恵器・埴輪などの古墳時代遺物、黒色土器・瓦器・瓦質土器・瓦・錢貨などの中近世遺物などがある。

ここでは、本目録にかかる弥生時代遺物について、その様相を概略することにする。多種多様な弥生時代遺物であるが、一般的には廃棄された破損品がこれらの大半を占めている。一方、このような状況と異なり、完形品として出土する特殊なものもあり、特に多いのが井戸からの出土遺物である。大環濠が掘削された中期初頭以降、集落内部では多数の井戸が掘削され、その井戸にさまざまな遺物が供献された。完形土器は中期段階では数点であったが、後期以降では多量に供献される。今回、第Ⅲ部で目録として掲載した記号土器もこのような出土状況のものが多い。また、後期以降は完形品の割合が高くなり、環濠にも多量の土器が完形で投棄されている状況がみられる。これ以外では、鍬や鎌などの農具や容器などの完存する木器未成品が出土するが、これらは木器貯蔵穴内で製作途中品として貯木されていたものがそのまま残されたものである。いずれにしても井戸や土坑、環濠などの深く掘削された大規模な遺構からの出土であり、水分を含んだ粘土質の土中に埋没しており、保存状態が良好で時期的にも一括性が高い資料群として取り扱えるものである。発掘調査時には、このような状態のものを選択し、遺構内堆積土を1mmメッシュの篩で水洗し遺物の抽出をおこなうようにしている。

2. 絵画土器の概要

唐古・鍵遺跡における絵画土器は、弥生土器にヘラ状工具などを用いて描いたもので大半が線刻画であるが、一部タタキによる陽出のもの（絵画067）もある。唐古・鍵遺跡では、1900年代前半に採集された絵画土器が報告され、その後の第1次調査から現在までの発掘調査で出土したものと合わせると、およそ370点を数える。また、唐古・鍵遺跡の分村と推定される清水風遺跡では約50点、法貴寺斎宮前遺跡で1点、八尾九原遺跡で3点の出土があり、唐古・鍵遺跡の衛星集落と目される遺跡も、絵画土器の出土頻度が高い傾向が見受けられ、唐古・鍵遺跡を中心とした地域が絵画土器分布の一中心地になっている。

（絵画土器の所属時期） 絵画土器は小破片のため、詳細な時期を決定できるものは少ないが、出土遺構の時期から大半は弥生時代中期後半（大和第IV様式）～後期初頭（大和第V様式）に所属すると考えられ、特に大和第IV様式のものが多い。その他のものは、それに前後する時期のもので少数である。土器型式上、時期の判別できるものとして古く位置づけられるものに、絵画047・100などがあり、大和第III-2・3様式頃が初出の資料となる。時期が新しい絵画土器としては、絵画096や124の大和第VI-3・4様式で、絵画の描き方も稚拙なもので退化傾向がみられる。

（絵画土器の状態と出土遺構） 唐古・鍵遺跡では、完形で出土した絵画土器ではなく、すべて破片となって出土している。ただし、全体の2/3程度まで復元できたものが絵画024や089などごく僅かに存在する。これら絵画土器の出土遺構は、井戸や土坑、柱穴、環濠、区画溝、遺物包含層などさまざまに偏ることなく、他の一般的な土器と混在して出土していることから、日常生活の中の土器廃棄に伴って一緒に廃棄されたと想定される。このことから最終的な取り扱われ方は、一般土器と同様に日常生活の中で使用されていたと考えられ、出土遺構からは絵画土器の性格は類推できない。ただし、唐古・鍵集落内での地区別の出土傾向をみると、全ての地区で出土しているが、居住遺構が多く検出されている南地区が最も多く、次いで北地区になる。西地区は比較的少ない。

（絵画土器の器種） 前述したとおり、絵画土器の大半は破片で器種を特定できるものは少ないが、破片の傾きや調整手法から壺が大半とみられる。さらに壺のなかでは、大和第IV様式の短頸壺（絵画002・024など）や有段口縁壺（絵画003・089など）のような無紋の飾らない壺に描かれる場合が多い。それらの壺の中には、口縁部に片口を有するものがあることから、液体貯蔵用（水壺・酒壺）と考えられる。反対に櫛描文様で飾られる壺に描かれるものは大和第III様式の壺（絵画047・100）である。これら壺以外では、壺蓋（絵画007）、甕（絵画066）、器台（絵画016・078など）、鉢（絵画124）などがあるが、数点程度である。また、搬入土器と推定されるものもある。絵画010・047は摂津地域、絵画048は生駒西麓産の可能性がある。

（土器製作と絵画線刻の関係・描法） 土器製作と絵画の線刻の関係については、いつ描かれたのかという点において絵画の性格を考えるうえで重要である。一般的には、絵画は土器が製作された後に描かれている。しかし、少數であるが土器製作途中に絵画を描いているものがあり、絵画が消えても新たに加筆せず、絵画が消えているもの（絵画015）がある。また、一度描いたものを消して新たな別の意匠を描くもの（絵画004・014）、書き直すもの（絵画077）もある。絵画を描くため

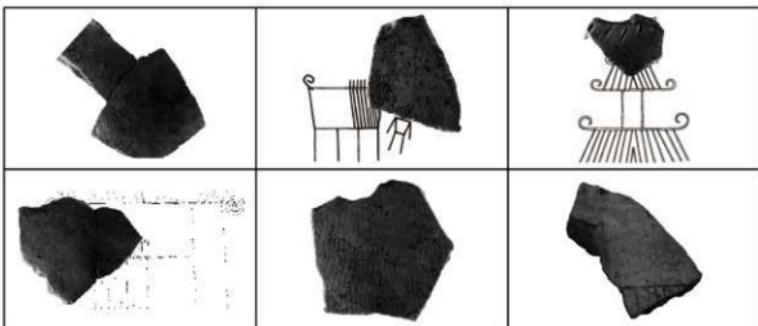
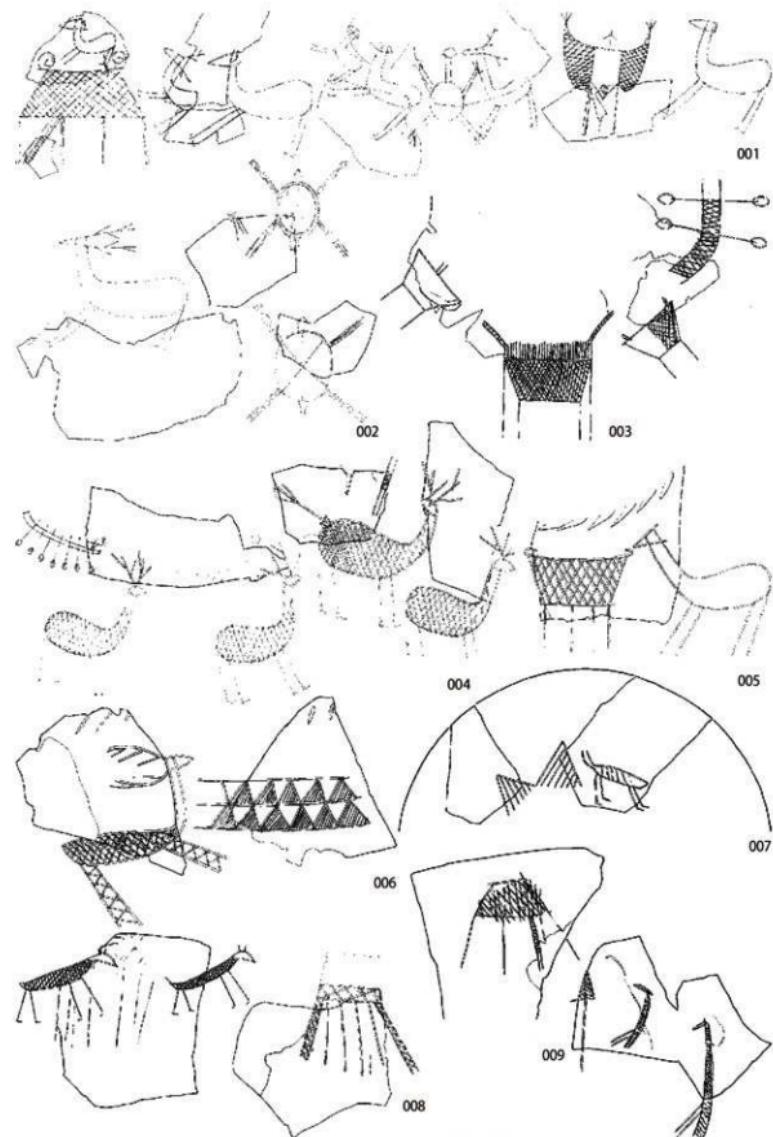


写真1 清水風遺跡（上段）・八尾九原遺跡（下段左・中）・羽子田遺跡（下段右）の絵画土器

に土器表面を敢えて整えることはせず、タタキ痕跡やハケ調整痕のままでその上に描いているものが多い。また、極細の針描きのような細線の絵画（絵画111）もあり、普通では見過ごしてしまうようなものも存在する。壺蓋の絵画007は内面に描かれており、使用時には見えない。

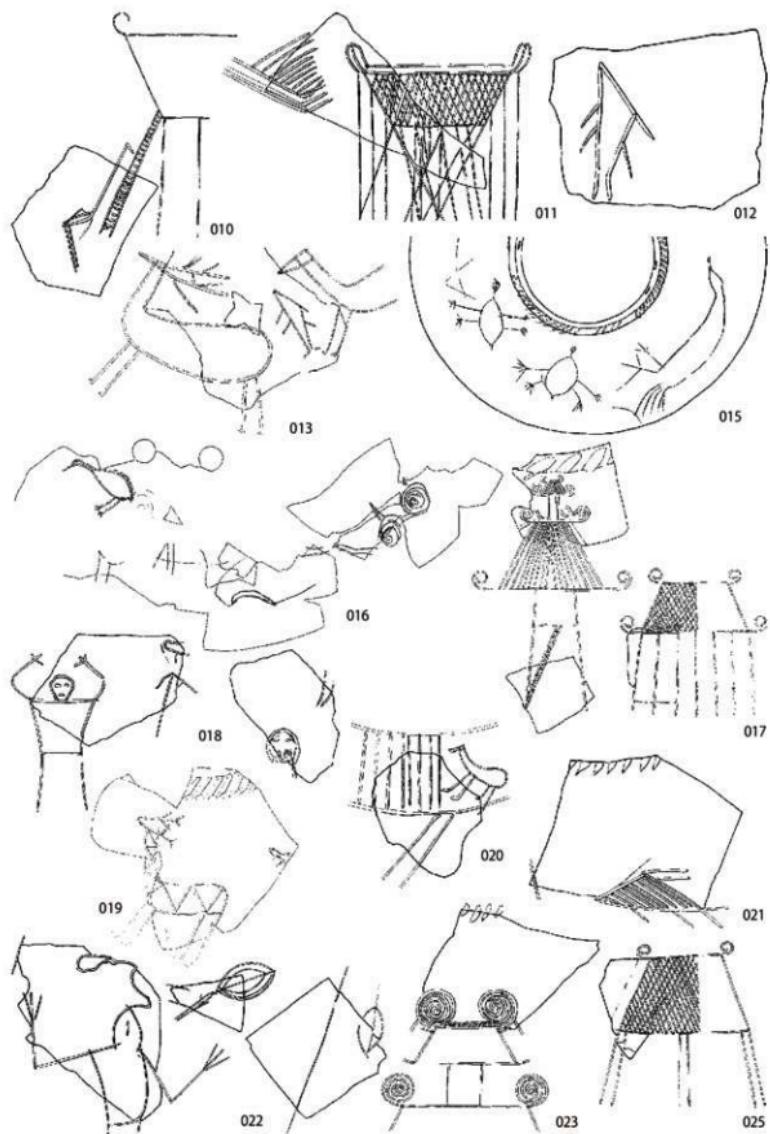
以上のように、出土状況や絵画の描き方や見え方からすれば、第三者に絵画を見せるのではなく、土器に絵画を描く行為が重要なのであって、土器に絵画のもつている意味を封じ込める行為とみなすことができよう。つまり、土器製作者自身が、その後に執行されるであろう祭祀の内容を想定して土器を製作し、絵画を線刻しているということである。マツリの場に供えられた後は、日常の土器として利用されたと考えられる。ただ、結果的に絵画が消えなければ、第三者も見ることが可能であり、絵画の意味は理解されるのである。

（絵画の意匠） 絵画土器の意匠としては、建物・船・武器・人物・鹿・魚・スッポン・龍が見られ、龍を除き、集落やその周辺に存在するものである。これらは弥生風景の中でみれば、特定の主題に限られており、その意匠は選択されていたと考えられる。鹿が圧倒的に多く、次いで建物、人物である。鹿は複数の群れで描くことが多いことから、実質的には鹿、建物、人物の3つの画題が絵画土器の重要な構成要素になっていると考えられる。建物では、寄棟や切妻造りの高床建物、大型建物、楼閣などの種類がある。人物では、手を擧げる人物、盾と戈を持つ人物、船を漕ぐ人物がある。鹿は、角の有無で牡鹿と牝鹿が区別できるが、表現上、判断の困難なものもある。唐古・鍵遺跡では、鹿の描き方に特徴がみられる。大和第IV様式の鹿が最も表現力があり、頭部は杏仁形、角は主幹と角枝、頸部は長く、胸部が膨らみ、臀部を丸く、脚は突っ張るような左向き鹿（絵画001・019）が描かれる。大和第V様式の鹿は、表現力が稚拙になる。角の表現から辛うじて鹿と判別できる絵画（絵画080～085）へと変遷する。相対的に弥生時代後期以降の絵画は、描き方が稚拙になり難解不明なものが多くなっている。また、並列的構図で、鹿と建物が対になるもの（絵画005）があるが、その絵画が文様へと置換されたと考えられるもの（絵画006・007）や、戈を表現した絵画（絵画045）は盾と戈を持つシャーマンを戈のみで省略・象徴化したもの、絵画の一部が象徴化され記号となつたと考えられるもの（絵画096・記号073）など、絵画の多様な変化がみられる。

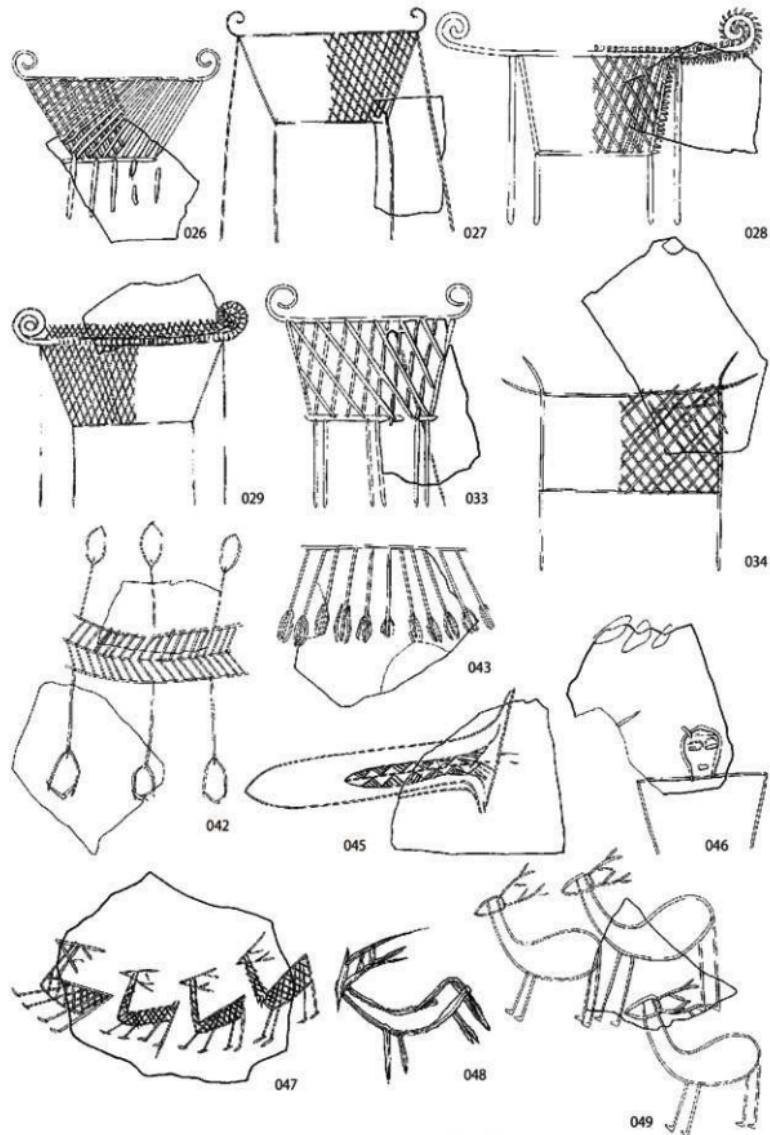


第2図 唐古・鍵遺跡の土器絵画 1

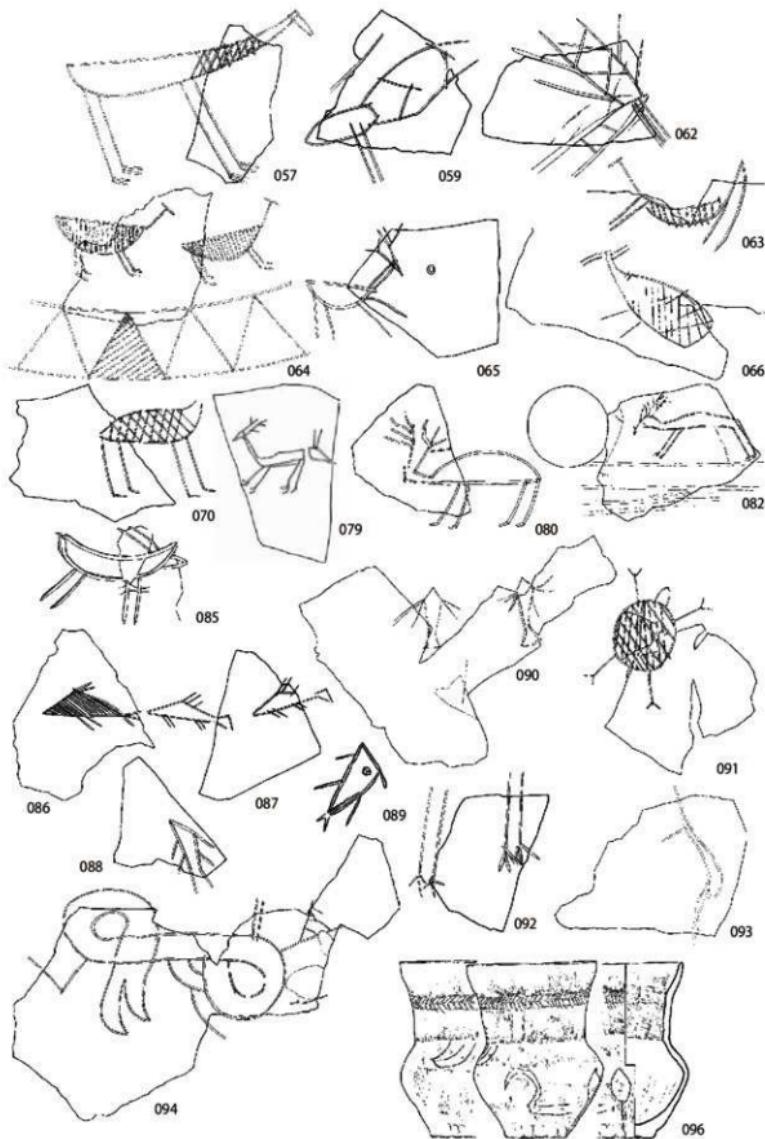
2. 絵画土器の概要



第3図 唐古・鍵遺跡の土器絵画2



第4図 唐古・鍵遺跡の土器絵画3



第5図 唐古・鍵遺跡の土器絵画4

3. 記号土器の概要

記号土器の記号は、土器焼成以前の柔らかい段階に、ヘラや櫛状工具で描いたものや直径1cmほどの竹管状の工具を押し付けたもの、赤色顔料で描いたもの、粘土紐・粘土粒の貼付（浮文）で表現したものがある。記号は、印として付けられたもので簡素な形態のため、文様や省略（象徴化）された絵画とは区別できないものも多くある。ここでは、その分別が困難なものもあるが、一応、連続して器面全体に表されたものを文様、器面の一部のみに表したものを記号・絵画とした。記号と絵画の違いは、意匠が明らかな絵画や絵画の退化表現が追えるものを絵画として認識し、記号体系のなかで位置づけられるものや完全に絵画が象徴化され記号となっているものは記号として、分類しておく。

唐古・鍵遺跡の記号土器は、全てを抽出していないため、点数の把握が困難である。しかし、絵画土器よりも、かなり雑破であるが、数百点後半以上で1,000点台前半までの範囲であろう。

(弥生時代前期・中期の記号土器) 記号として最も古いものは、弥生時代前期前半の土器につけられたものである。広口壺の底部近くに2種の記号（↓・U）が描かれている。本目録においては、大和第I-2様式の広口壺に逆「U」字形の浮文による記号001がある。このような記号は、その後の弥生時代を通じて記号の基本形となっており、重要な記号として位置づけられるものである。ただし、前期の記号は散発的で、中期に至っても低調であり、微増傾向がみられるのは中期後半からである。

中期の記号の特徴としては、記号003～007のように土器焼成後に石器などで記号を刻んでいる（後刻）ものが多いことである。壺に記号を刻むことが多く、その位置は口縁部内面・外面、頸部、胸部上半・中央などさまざまなところに付けられている。記号の種類は、上向き・下向きの三叉形（↑・↓）、×、▽などがある。大半は破片で出土している。注目される記号土器としては壺棺（記号007）に刻まれたものがあり、胸部中央に上向きの三叉形を焼成後に刻んでいる。大和第IV様式になると、焼成前につけられた記号（記号008・009）も散見するようになる。

(弥生時代後期の記号土器) 後期になると、絵画土器が衰退するのに対し、爆発的に記号土器が増加するとともに記号の種類もバラエティーに富むようになる。これらの記号土器は、特に大和川水系の大坂府中部や大和南部地域に多く分布し、前段階の中期に絵画土器が盛行した地域と重なることから、絵画を描くという行為が記号の発達を促した可能性が高いと考えられる。

記号が付けられた土器の多くは壺で、特に長頸壺といつ「水壺」的な役割を果たす土器に記されている。これは、記号が盛行する直前の弥生時代中期後半の絵画が短頸壺に描かれた現象と類似している。このことから記号土器も「ハレ」の場に使われたと推定でき、井戸や環濠を中心に完形土器群として出土することから、「水のマツリ」の時の供献土器として使われた可能性がある。

後期後半から終末になると、記号も退行現象がみられるようになり、バリエーションが少なくなる。このような衰退傾向の中、龍を表す絵画・記号だけは文様へと別方向に展開する。これは、これまで展開してきた絵画・記号の役割の終焉であり、記号のもつ意味、記号体系も古墳時代へ引き継がれる必要がなくなったことを表しているのであろう。

記号を描く行為は、土器製作の完成直前（ミガキ調整前）か、直後の焼成前におこなうのが一般的である。このため、絵画土器と異なり記号が消されることはなく、多くの記号は土器の胴部上半に記され、判別できる。ただし、稀に目に触れない頸部内面や底部裏面に刻まれるものもある。これら記号は弥生時代後期のもので、底部裏面の場合、「×」・「+」・「V」字形などの限られた記号が使われている。バリエーションがなく、見えないところに記されていることから、他の記号とは性格が異なるかもしれない。

(記号体系) 記号は、大きく直線・曲線・点に分類でき、それらはヘラ描き(H)・櫛描き(K)・赤彩(R)・浮文(F)の手法を用いて記されている。直線の記号には、縦や横の直線を重ねて数の表記のように描いたもののが多數あり、本数としては1~4本までが多くみられ、このほか、横線の下方に縦線を數本組合せるものがある。また、縦・横の直線を重ねる以外に「V」字形や三叉形「↓」の記号も多くみられる。特に三叉形の記号は、前期以降、継続的に記されており重要な記号のひとつになっている。

曲線の記号には、「U」字形・「し」字形・「ノ」字形・「○」などの形をした記号がある。これらの中で「U」字形の記号は、「↓」形と同様に前・中期から継続してみられる記号であり、基本的な記号とみなして良いものである。「ノ」字形や「○」の形をした記号は、直線の記号と同様に1つの線や点を重ねる形をとっており、数の表記のように使われている。

直線や曲線の記号以外に、ヘラやハケ原体の先端で刺突することで点として表現するもの(S)や、口縁部に刻目をつけるものがある。これらはランダムに付けるものが多い。また、ジグザグ状・波状に表現するものもあり、これらの記号は直線や曲線の記号に比べ、規則性が明確ではない。

基本的には、直線や曲線の記号が単独で描かれているが、それらの記号が組み合わされ新たな記号になっているものもある。また、単独の記号が並列的に配置され、複数の記号で構成されるものも後期に出現する。これらは、記号の新たな展開を示しており、記号体系として確立したことを示している。このような複数の記号で展開する構図は、弥生時代中期にみられた並列的構図を有する絵画土器と類似する点がある。

第6図 記号分類一覧

4. 土器文様の概要

弥生土器には、時代や器種によってさまざまな文様が施されている。土器焼成以前の柔らかい段階にヘラや櫛状工具で描いたものが主となるが、ヘラ先（三角刺突・円形刺突）や竹管状の工具を押し付けたもの、タタキによる陽出、赤色顔料で描いたもの、粘土紐・粘土粒の貼付（浮文）で表現したもの、それらを組み合わせて施文したものがある。文様は時代を通して土器表面を飾ることを目的としているため、壺や鉢、高环など貯蔵・供獻機能を有するものに施文されている。したがって、一般的にこれら器種に施文されているため、ここでは各時代を代表するような特徴ある文様、特殊文様を優先的に選択し扱う。

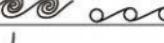
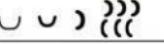
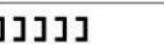
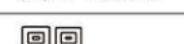
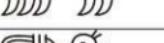
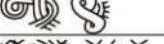
（弥生時代前期の文様） 前期の器種としては壺・壺蓋・甕・鉢が主要な構成で、いずれの器種においてもヘラ描直線文が主たる文様となっている。直線文以外では、壺あるいは壺蓋に施文される代表的な文様として、木葉文・重弧文と工字文・流水文があるが、大半は断片で全容のわかるものは少ない。木葉文には彩文とヘラ描きがあるが、総数はそれほど多くはなく、確認できているものは數十点であろう。前期前葉を中心に描かれているようで、最も古いものはX字形の無軸木葉文で交点に珠文を押捺するもの（文様007）である。彩文手法は保存状態の影響もあり、文様を判別できるものは少ない。ヘラ描きの工字文や流水文も資料的には少ないが、大和第I-2-a様式の鉢（文様016）や大和第II-2様式の広口長頸壺（文様017）はほぼ全容のわかるものである。大和第II様式にはヘラによる三角刺突文・円形刺突文が散見するようになるが、これらは主要な文様ではなく、直線文に付加される文様の1つといえよう。ただし、三角刺突文は大和地域の主要文様ではなく、播磨地域などの影響下の文様であろう。

（弥生時代中期の文様） 中期には櫛描きによる文様が主となり、壺や鉢を中心に施文される。文様の大まかな変遷としては、直線文・波状文が主要文様として時代を通してみられ、前半では扇形文、中葉以降では簾状文や斜格文が付加文様として構成されるようになる。このような櫛描文様の構成とは別に流水文は器面全体を飾る文様として中期前葉から中葉にかけて施文される。大きくは横型流水文から縦型流水文へと変遷するが、横型流水文の一部は中葉まで残存する（文様023）。横型流水文は、大和第II様式では、直線文間に扇形文を挿入する疑似流水文が多い。大和第III様式では細頸壺や水差形土器に縦型流水文を流麗に描くものが多くなる。

中期文様として多くを占める櫛描文様に対し、ヘラ描きの鋸歯文が大和第IV様式以降に台付鉢（文様027）や高环（文様028）などの供獻形態の器種を中心に増加する。このような非櫛描文傾向はタタキ文様においてもみられ、板目に沿った平行タタキとは異なり、双頭渦文・渦文などをタタキ板に刻み短頸壺に陽出させるもの（文様030）がみられるようになる。この鋸歯文や双頭渦文・渦文は、絵画土器の意匠と対に表現されることもあり、絵画と連動する特殊な文様といえよう。

（弥生時代後期の文様） 後期になると、多くは文様による装飾をしなくなる。その反対に文様をもつ土器は特殊な傾向が見いだせる。後期初頭である大和第V様式は、大和第IV様式からの影響下にあり、絵画土器同様に特殊タタキ文様（文様034）が残存する。また、異形高环（文様040）など特殊土器には精緻な櫛描きの簾状文・山形文などが施文され、特化された櫛描文様として成立する

ことになるが、後期前半以降は消失する。これらに代わるように弧帶文様（文様043）が成立し、後期後半以降は蓮を中心に散見するようになる。

| 名 称 | 工具・手法 | 模 式 図 | 名 称 | 工具・手法 | 模 式 図 |
|---------------------------------------|-----------------|---|----------------------------|-----------|---|
| 直線文 | ヘラ 貝 赤彩 | —— | (無軸・有軸) 木葉文 | 彩文 ヘラ |  |
| 波状文 | ヘラ 櫛 | ~~~~~ | (無軸・有軸) 半截木葉文 | ヘラ |  |
| 廉状文 | 櫛 | | 重弧文 | ヘラ |  |
| (削出・貼付・ 施づくね貼付) 凸帯文 指づくね貼付凸帯 | 粘土紐帯 指頭 |  | 双頭文 | ヘラ 浮文 |  |
| 凹線文 | 指頭 ヘラ |  | 渦文 | ヘラ タタキ |  |
| 疑凹線文 | ヘラ |  | 双頭渦文 | ヘラ タタキ |  |
| (木目) 列点文 | ヘラ ハケ |  | 四頭渦文 | ヘラ 浮文 |  |
| 刻目 | ヘラ ハケ |  | 連続渦文 | ヘラ 竹管 |  |
| 縞杉文 (矢羽状) | ヘラ タタキ |  | 鉤状文 | ヘラ タタキ |  |
| 羽状文 | ヘラ 貝 |  | 円形刺突文 円形文・竹管文 (同心円文) | ヘラ 竹管 |  |
| 有軸横線文 | 彩文 ヘラ タタキ |  | 半円文 (半截竹管文) | ヘラ 竹管 |  |
| 三角刺突文 | ヘラ |  | 爪形文 | 爪 |  |
| 鑿齒文 複合鑿齒文 | ヘラ |  | コ字状文 | ヘラ |  |
| 山形文 | ヘラ |  | 横型流水文 | ヘラ 櫛 |  |
| 方画文 | 彩文 ヘラ |  | 縱型流水文 | ヘラ 櫛 |  |
| 雷文 | 彩文 |  | 工字文 | ヘラ |  |
| 斜格文 | ヘラ 櫛 |  | ヒレ形文 | ヘラ |  |
| 格子文 | ヘラ |  | 弧帶文 | ヘラ |  |
| 菱形文 | ヘラ タタキ |  | 直弧文 | ヘラ |  |
| 扇形文 | 櫛 |  | 区画文 (縞) | ヘラ 浮文 |  |
| 放射状文 | ヘラ |  | 尖形・刺突文 | ヘラ |  |

第7図 文様分類一覧

第Ⅲ部 考古資料目録

凡例

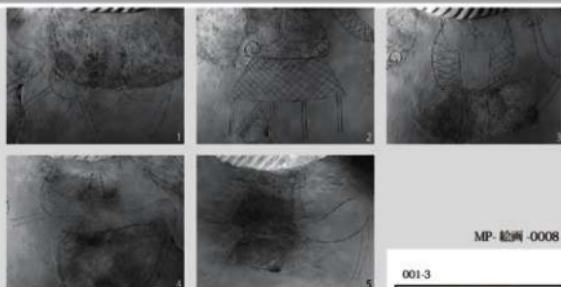
1. 遺物は、絵画土器、記号土器、土器文様の順に掲載した。また、遺物の所属時期は大和土器編年記載、「大和第○-□様式」と記載した。詳細な時期を判別できない遺物は「弥生時代○期」と記載した。
2. 遺物の掲載に際し、「MP」から始まる管理番号を付記した。遺物が複数の破片等にわたるものは、それぞれの写真に管理番号の枝番を付した。
3. 遺物の大きさの単位はcmとし、小数点第2位以下を四捨五入し、第1位までを記載した。
4. 掲載した写真・図面の縮尺は任意である。
5. 記号・文様の種別については、それぞれP.15第6図・P.17第7図の分類に従う。
6. 絵画・記号・文様の各土器の未接合破片は、巻末に附。遺物図版として掲載した。
7. 第Ⅲ部に掲載した土器において、複数の出土状況がある場合、代表する破片の情報を第Ⅲ部に掲載し、その他の残片を含む土器の出土情報等は、巻末の附。遺物一覧表に掲載した。

附 凡例

1. 写真中の数字は、遺物管理番号（Mコード）の枝番で、出土情報が異なるものに付した。
2. 枝番を付していない残片は、主体遺物の未接合破片（細片等）である。
3. 枝番は同じ出土情報のものであるが、法量等を記載するため枝番の次にアルファベットを付し、aの情報を代表させた。

001 絵画土器（建物・人物・鹿）

001



MP-絵画-0008

本絵画土器は、大形の広口壺の胴部上半に描かれたもので、頸部から頸部にかけて残存していた。これら破片は西地区中央部の第8・22・38次調査の中世大溝や包含層から出土したもので原位置は特定できないが、そのうちの1片が第22次調査の大和第IV-1様式の井戸(SK-101)から出土しており、本来はこの遺構周辺に存在したものであろう。

絵画は複数から成り、手摺りのある梯子が架けられた渦巻飾りの奇棟建物とその上に牝鹿、その右に手を挙げる女性シャーマン、左側に牡鹿の首を掴む人物、残りの空間に左向き牡鹿と牝鹿5頭を並列的に描いている。



上面から見た絵画配図図

001-3

第22次調査

| | |
|------|-----------|
| 遺構: | SK-101 |
| 層位: | 第1(下)層 |
| 土色: | 黒色粘質土 |
| 取上: | 土-124 |
| No.: | 180 |
| 様式: | 大和第IV-1様式 |

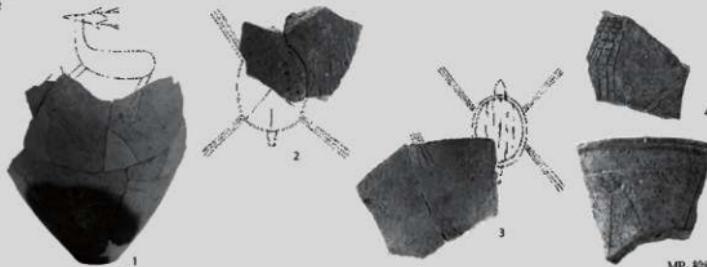
復元品全体

復元高: 80.6

復元胸径: 54.0

002 絵画土器（建物？・鹿・スッポン・不明・山形文）

002



MP-絵画-0086

本絵画土器は、大和第IV-1様式の短頸壺に描かれたものである。西地区北部の第80次調査の区画溝から出土した。頸部に山形文、胴部上半に左向きの鹿、上向きのスッポン2匹とスッポンの足らしき線刻、建物？と不明意匠が描かれている。スッポンの胴部は2重囲み線内を縦線で充填する表現と1重囲み線内を6分割する表現方法がとられている。

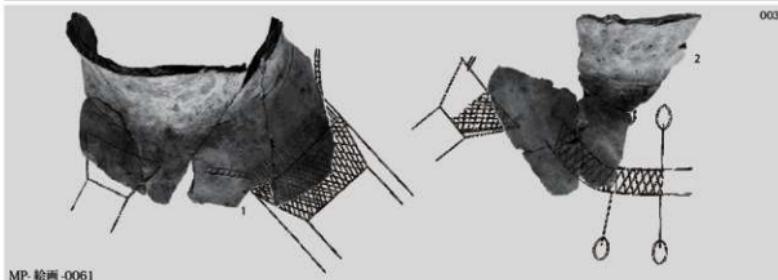


002-1

第80次調査

| | |
|------|-----------|
| 遺構: | SD-101 |
| 層位: | 第6層 |
| 土色: | 黒灰色粘土 |
| 取上: | - |
| No.: | 185 |
| 様式: | 大和第IV-1様式 |
| 残存長: | 29.5 |
| 残存幅: | 27.0 |

003 絵画土器（建物・船）



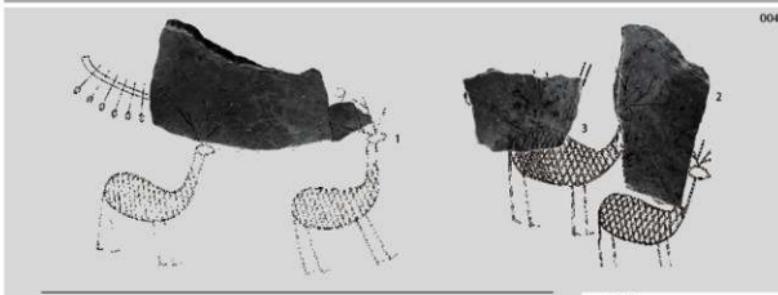
MP-絵画-0061

本絵画土器は、大和第III-4様式の有段口縁壺腹部上半に描かれたものである。北地区の第59次調査の区画溝から出土した。大きく2つの部分から成り、1つは2棟の建物、他方には建物と船が描かれている。前者の右側の建物は切妻建物と推測されるもので、棟上はやや長めの縦線、棟端には斜め上方へ長く伸びる2本線(内部を横線で充填)で屋根が飾られている。



| | |
|-------|------------|
| 003-1 | 第59次調査 |
| 遺構: | SD-1102 |
| 層位: | 第2層 |
| 土色: | — |
| 取上: | 土-2298 |
| No: | 391 |
| 様式: | 大和第III-4様式 |
| 残存高: | 11.5 |
| 残存幅: | 17.9 |

004 絵画土器（建物・船・人物・鹿）



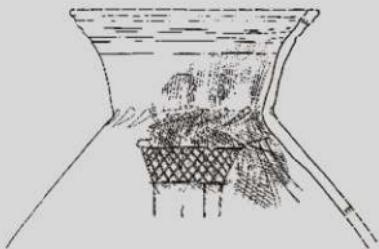
MP-絵画-0073

本絵画土器は、大和第V-1様式の広口壺腹部上半に描かれたものである。南地区の第63次調査の区画溝から出土した。絵画は当初の絵画と描き直しの絵画がある。当初の絵画は、左側に船と船首で両手を広げて櫂を持つ人物、右側に建物の屋根部分が残るものであるが、ナデで消されている。消された後、右向きの鹿が描かれているが、角のみ残存する。残り2片にも鹿が描かれているが、左側の鹿の臀部には矢が刺さっている。また、鹿の上部にも不明意匠がある。

| | |
|-------|----------|
| 004-1 | 第63次調査 |
| 遺構: | SD-103B |
| 層位: | 第2(下)層 |
| 土色: | 灰黒粘 |
| 取上: | — |
| No: | 249 |
| 様式: | 大和第V-1様式 |
| 残存長: | 7.5 |
| 残存幅: | 12.9 |

005 絵画土器（建物・鹿）

005



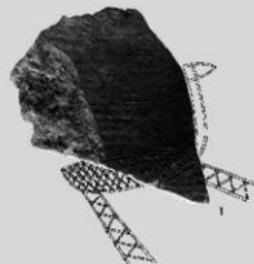
MP-絵画-0070

本絵画土器は、大和第IV-1様式の短頸壺脛部上半に描かれたものである。西地区中央部の第73次調査の区画溝から出土した。左側に柱間3間の切妻建物、右側に左向きの牡鹿を明瞭な線刻で描く。建物の屋根は斜格文を充填し、棟先には半円弧の飾りを描く。梯子の表現はない。鹿は建物より大きく描く。頭部は横方向の「V」字形で表現する。

| |
|--------------|
| 第73次調査 |
| 遺構：SD-103 |
| 層位：第3層 |
| 土色：黒灰粘 |
| 取上： — |
| No. : 135 |
| 様式：大和第IV-1様式 |
| 残存高：13.8 |
| 残存幅：11.0 |

006 絵画土器（鹿・鋸歯文）

006



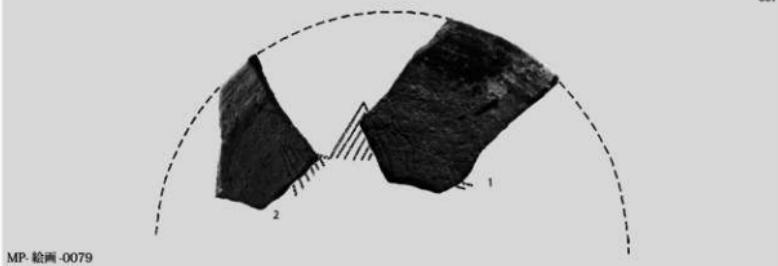
MP-絵画-0078

本絵画土器は、大和第IV-1様式の短頸壺脣部上半に描かれたものである。西端の第62次調査の環濠から出土した。2片があり、第1の破片には右向きの牡鹿を描く。脣部に斜格文と刺突文を充填する。脚部は2本線で表現し、内部を斜格文で充填する。第2の破片は、上下2段に上向きの鋸歯文を部分的に描く。鹿と鋸歯文は対になる可能性があり、鋸歯文は建物を置換したものと考えられる。

| |
|--------------|
| 006-1 |
| 第62次調査 |
| 遺構：SD-101 |
| 層位：第4-b層 |
| 土色：暗黄灰色土 |
| 取上： — |
| No. : 128 |
| 様式：大和第IV-1様式 |
| 残存長：9.2 |
| 残存幅：8.2 |

007 絵画土器（鹿・鋸歯文）

007



MP-絵画-0079

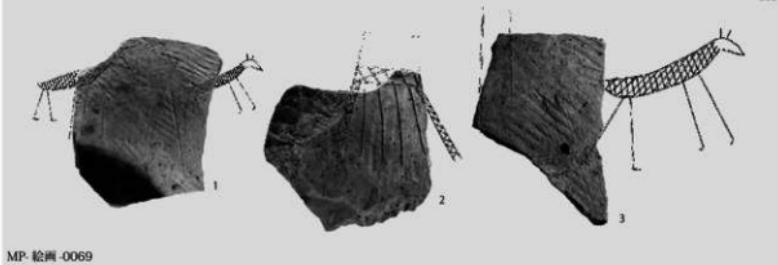
本絵画土器は、大和第IVあるいはV様式頃と推定される壺蓋の内面に描かれたものである。南地区の第63次調査の区画溝から出土した。2片があり、第1の破片には鋸歯文と左向きの鹿と思われる動物を描く。頭部は摩滅のため不明である。脚部の足先は後方に折れる。第2の破片には内部を右上がりに斜線で表現した鋸歯文を描く。胴部は斜線を充填する。本絵画土器も006と同じく、鹿と鋸歯文が対になる可能性があり、鋸歯文は建物を置換したものと考えられる。

007-1

| |
|---------------|
| 第 63 次調査 |
| 遺構: SD-103B |
| 層位: 第1(下)層 |
| 土色: 黒褐色粘質土 |
| 取上: 一 |
| No : 136 |
| 様式: 大和第IV・V様式 |
| 残存長: 5.7 |
| 残存幅: 5.3 |

008 絵画土器（建物・鹿）

008



MP-絵画-0069

008-1

| |
|--------------|
| 第 72 次調査 |
| 遺構: SD-107 |
| 層位: 第3層 |
| 土色: 黒灰粘 |
| 取上: 一 |
| No : 241 |
| 様式: 大和第V-1様式 |
| 残存長: 10.8 |
| 残存幅: 9.3 |

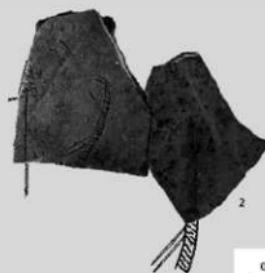
本絵画土器は、大和第V-1様式のタタキを施した壺に描かれたものである。南東端の第72次調査および東隣接地の第76次調査の環濠から出土した。11片のうち、胸部上半の3片に稚拙な表現の絵画が残る。第1の破片には右向きの鹿2頭を描く。左側の鹿には角が描かれ、胴部は斜格文を充填する。第2の破片は建物絵画とすると4本の柱、両妻側に斜格文を充填した梯子、屋根にも斜格文を充填する。第3の破片は、鹿の後脚と背部、意匠不明の線刻(直線)があるが、ミガキ調整によって消されるものと調整後に線刻されたものがある。また、第1・2破片にも絵画の下に不明線刻が描かれているが、ナデによって消されている。

009 絵画土器（建物・鳥・不明）

009



1



2

MP-絵画-0076

本絵画土器は、大和第V-1様式の壺胴部上半に細描きで描かれたものである。南東端の第72次調査の環濠から出土した。6片のうち、3片と2片が接合した。第1の破片には柱間3間の寄棟建物を描く。両妻側の柱は屋根の側辺から一体的に描く。床下に梯子を架ける。屋根部分は斜格文を充填するが、右端の線刻は一部ナデで消されている。第2の破片では、意匠不明の線刻（縦線・刺突文を充填した台形？）とその右に稚拙な鳥2羽を描く。鳥の胸部分は刺突文を充填する。この絵画の下にもナデ調整で消された線刻がわずかに残る。

009-1 絵画

第72次調査

遺構：SD-107

層位：第3層

土色：灰黒粘

取上： —

No. : 225

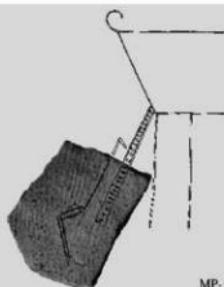
様式：大和第V-1様式

009-1 全体

残存長：15.2

残存幅：11.0

010



MP-絵画-0074

010 絵画土器（建物・鳥）

本絵画土器は、大和第IV様式の壺胴部に描かれたものである。南地区的第69次調査の区画溝から出土した。色調は灰白色を呈す。右向きの鳥で、長い頸部から一体的に頭部を描き、尾部から2本線で脚部を表現する。頭部を欠くが、頭と脚が長いことから水鳥であろう。鳥の右には2本線の内部を刺突で充填した刻み梯子が描かれる。

第69次調査

遺構：SD-1104

層位：第3層

土色：暗灰粘

取上： —

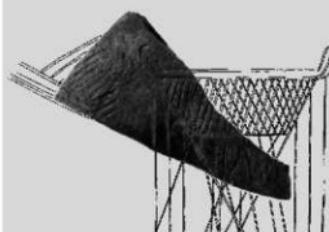
No. : 1727

様式：大和第IV様式

残存長：6.8

残存幅：5.3

011



MP-絵画-0098

011 絵画土器（建物・不明）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺に描かれたものである。南東端の第3次調査の環濠から出土した。切妻の高床建物である。屋根は斜格文を充填、棟端には斜め上方に丸く突き出た飾りを描いている。縦線で棟持柱や柱も描いているが、斜線もみられ描き直し線を消していない可能性がある。建物の左側には斜線を重ねた不明意匠がある。

第3次調査

遺構：SD-02

層位： —

土色： —

取上： —

No. : —

時代：弥生時代中期

残存長：7.4

残存幅：8.8

012 絵画土器（建物・魚）

012



MP-絵画-0077

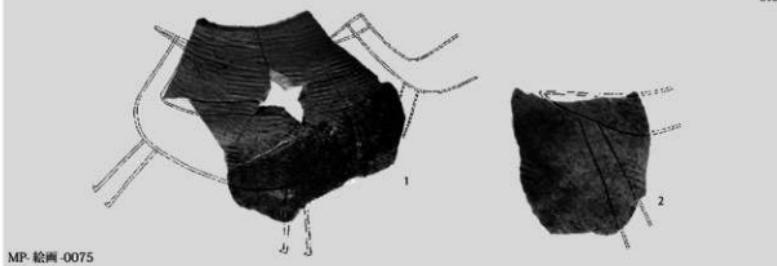
本絵画土器は、大和第IV様式の壺胴部上半に描かれたものである。南地区の第3次調査および西側隣接地第61次調査の土坑などから出土した。3片があり、第1の破片には上向きの魚が描かれている。背鰭・胸鰭・尾鰭の表現がみられる。第2・3の破片には、建物の柱と思われる縦線5本と4本が描かれているが、全体は不明である。

012-3

| |
|-------------|
| 第3次調査 |
| 遺構： — |
| 層位： 砂層（灰褐色） |
| 土色： — |
| 取上： — |
| No： — |
| 様式： 大和第IV様式 |
| 残存長： 5.5 |
| 残存幅： 6.4 |

013 絵画土器（鹿・魚）

013



MP-絵画-0075

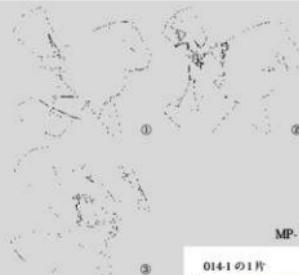
013-1

| |
|---------------|
| 第69次調査 |
| 遺構： SD-1125 |
| 層位： 第3(下)層 |
| 土色： 暗灰粘 |
| 取上： — |
| No： 1805 |
| 様式： 大和第IV-2様式 |
| 残存長： 17.1 |
| 残存幅： 12.0 |

本絵画土器は、大和第IV-2様式と思われる短頸壺胴部上半に描かれたものである。胴部中央には煤が付着する。南地区の第69次調査の区画溝や包含層から出土した。絵画はタタキ成形後に太描きのヘラで大きく描かれており、大きく2つの破片が残る。第1の破片には左向きの鹿2頭とその間に上向きの魚が、第2の破片には右向きの鹿の後脚と思われるものが描かれている。鹿・魚とともに本遺跡の絵画パターンである。

014 絵画土器（人物・不明／鹿・鳥）

014



MP- 絵画 -0087

本絵画土器は、大和第IV-2様式と思われる壺胴部上半に描かれたものである。西地区北部の第84・89・93次調査の区画溝や包含層などから出土した。絵画が残存する8片のうち7片は接合し、大きく2つの破片になる。第1の破片には左向きの牡鹿、その背中から臀部に重なるように左向きの鳥を大きく、さらにその右側に小さめの鳥を描く(③)。この鹿絵画の頭部から左側には左手に盾と右手に戈を持つ人物が描かれているが、ミガキによって消されている(②)。ただし、この人物画が細描きであるのに対して、太描きの浅い線刻も見られ、人物画以前の絵画が存在したようである(①)。第2の破片には斜線が残るが、この線刻は③の絵画と一緒にしたものと考えられる。

014-1の1片

第93次調査

遺構：SD-1114

層位：第1層

土色：暗褐色粘質土

取上： —

No. : 318

様式：大和第IV-2様式？

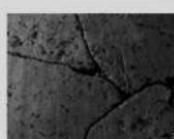
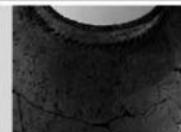
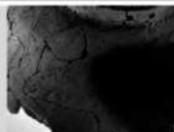
014-1

残存長：18.9

残存幅：20.1

015 絵画土器（鳥・スッポン・渦巻き）

015



MP- 絵画 -0021

015-1

第49次調査

遺構：SD-103

層位：第2層

土色： —

取上：土-236

No. : 162

様式：大和第V-1様式

全体

残存高：14.1

胸 径：30.1

本絵画土器は、大和第V-1様式の無頸壺胴部上半に描かれたものである。南地区の第49次調査の区画溝から出土した。胴部上半はほぼ残存する。絵画は鳥・スッポンなどが並列的に描かれている。鳥は長い嘴と跳ね上がった尾が描かれている。逆さに描かれていることから、口縁部側から描かれたものであろう。スッポンは上向きに2匹描かれ、前足・後足とも大きく広げている。また、尻尾は小さく突出させている。これら鳥・スッポン以外はミガキ調整が丁寧で絵画はほとんど消されている。スッポンの左にわずかに線刻、また、スッポンの対置にあたる部分に渦巻き表現が残存している。

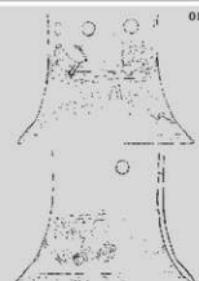
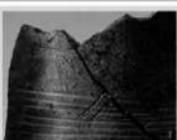


上面から見た絵画配図図

016 絵画土器（鳥・不明・渦巻き）



MP-絵画-0088



016-i

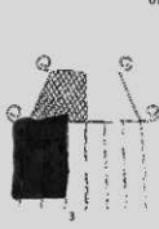
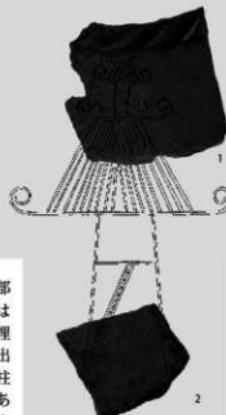
第 91 次調査

| | |
|------|---------|
| 遺構: | SD-101B |
| 層位: | 第6(下)層 |
| 土色: | 黒灰色粘砂 |
| 取上: | その1 |
| No: | 327 |
| 様式: | 大和第V様式 |
| 残存高: | 19.8 |
| 残存幅: | 14.9 |

017 絵画土器（建物）



MP-絵画-0015



017-i

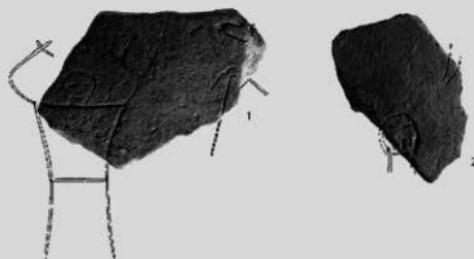
第 47 次調査

| | |
|------|-----------|
| 遺構: | SD-2105 |
| 層位: | 第0層 |
| 土色: | 暗灰褐色砂質土 |
| 取上: | その1 |
| No: | 273 |
| 様式: | 大和第IV-1様式 |
| 残存高: | 8.0 |
| 残存幅: | 10.1 |

本絵画土器は、大和第IV-1様式の有段口縁塗脛部上半に描かれたもので3片がある。第1・2破片は南東端の第47次調査の環濠最上層とその環濠の埋没直後的小溝、第3破片は第77次調査の溝から出土した。第1・2破片が上下関係にあると推定し柱間1間の2層建ての楼閣状建物と推定するものである。第3破片は、寄棟の大型建物で柱3本と斜格文を充填した屋根、軒先飾りが描かれている。

018 絵画土器（人物・不明）

018



MP-絵画-0077

本絵画土器は、大和第IV様式の壺胴部上半に描かれたものである。南東端の第83・91次調査の環濠から出土。2片があり、第1・2破片とも人物と不明意匠が描かれている。第1破片は台形の胴部に目・口を刺突表現した丸い頭部がつくる。手は三叉状で両手を挙げている姿態である。第2破片はやや縦長頭部のみが残存するもので、目と鼻、口を刺突で表現する。右上にも斜線が残存する。

018-1

| |
|------------|
| 第91次調査 |
| 遺構：SD-101B |
| 層位：第5層 |
| 土色：明褐色砂質土 |
| 取上：— |
| No.：213 |
| 時代：大和第IV様式 |
| 残存長：5.2 |
| 残存幅：7.7 |

019



MP-絵画-0065

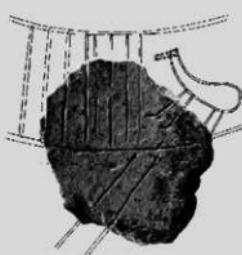
019 絵画土器（鹿・不明）

本絵画土器は、大和第IV-1様式と思われる短頸壺あるいは有段口縁壺の胴部上半に描かれたものである。南地区の第61次調査の区画溝などから出土した。絵画は左向きの牡鹿が描かれ、頸部から胴部は斜線を鋸歯状に充填している。鹿の右側には粘土紐の貼付による絵画が存在するが、欠損のためわからぬ。

第61次調査

| |
|--------------|
| 遺構：— |
| 層位：— |
| 土色：灰黄色粗砂 |
| 取上：— |
| No.：104 |
| 様式：大和第IV-1様式 |
| 残存長：15.7 |
| 残存幅：18.6 |

020



MP-絵画-0091

020 絵画土器（鹿・不明）

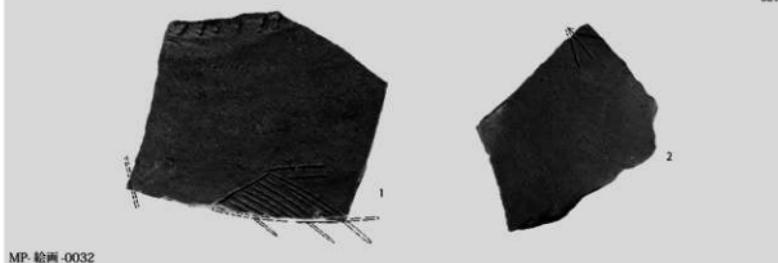
本絵画土器は、弥生時代中期の壺に描かれたものである。北地区の第59次調査の柱穴から出土した。小片のため、全体像は不明であるが、右端には鹿と思われる頭部が残り、その左側には縦線を重ねる。この縦線の下側は横線で囲んでおり、その下に2本の斜線が描かれ、大きく描いた鹿の胴部に小さな鹿を描いているように見える。

第59次調査

| |
|-------------|
| 遺構：Pit-1109 |
| 層位：— |
| 土色：— |
| 取上：— |
| No.：1211 |
| 時代：弥生時代中期 |
| 残存長：5.6 |
| 残存幅：5.2 |

021 絵画土器（魚・不明）

021



MP-絵画-0032

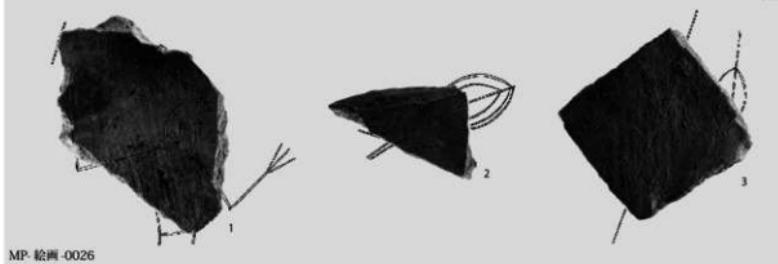
本絵画土器は、大和第IV様式の短頸壺と思われる胴部に描かれたものである。西地区南部の第58次調査の中世溝から出土したもので、原位置は不明である。2片があり、第1の破片には左端に不明絵画、その右に左向きの魚が描かれている。魚の胴部は斜線を充填、背鰭は2本線で表現する。魚の線刻全体部分のハケ調整はナデ消しされる。第2の破片は壺胴部中央付近の破片で、左斜め上方向を示す三叉形が絵画の一部として残っている。

021-1

| |
|------------|
| 第 58 次調査 |
| 遺構：SD-51 |
| 層位：第3(下)層 |
| 土色：暗灰色粗砂 |
| 取上：一 |
| No. : 74 |
| 様式：大和第IV様式 |
| 残存長：9.0 |
| 残存幅：11.3 |

022 絵画土器（スッポン・不明）

022



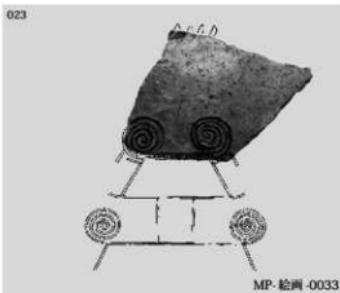
MP-絵画-0026

022-1

| |
|-------------|
| 第 51 次調査 |
| 遺構：SK-104 |
| 層位：第1層 |
| 土色：黒褐色土 |
| 取上：一 |
| No. : 22 |
| 様式：大和第V-1様式 |
| 残存長：9.3 |
| 残存幅：6.6 |

本絵画土器は、大和第V-1様式の大形壺の胴部に描かれたものである。北地区の第51・53次調査の井戸などから出土した。また、京都大学所蔵資料⁽¹⁾にも同一個体の可能性のある絵画がある。絵画が残っている破片は3片で、第1は頭部の表現からスッポンと思われるものであるが、胴部は台形を呈している。前脚は「く」字状を呈し、足先は三叉状に描いている。また、口先からは波線が描かれており、獲物を捕らえているように見える。第2・3の破片には、木の葉状のような表現があるがスッポンの頭部かも知れない。第3の破片の木の葉状表現の線刻は浅い。この他の破片には、櫛描山形文が描かれている。

(1) 飯田恒男 1929「第16図-7」『大和唐古石器時代遺物図集』



023 絵画土器（建物）

本絵画土器は、大和第V-1様式の短頸壺胴部上半に描かれたものである。南地区の第61次調査の区画溝から出土した。建物の棟飾り部分で、棟は2重の横線の間を短線で充填し、棟両端に渦巻文を描く。右側の渦巻文の下方には斜線が残り、寄棟と考えられ渦巻き飾りの大さから、棲間状建物であろうか。

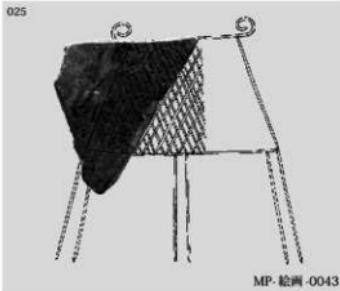
| |
|---------------|
| 第 61 次調査 |
| 遺構 : SD-102B |
| 層位 : 第 5(下)層 |
| 土色 : 灰黒粘 |
| 取上 : - |
| No. : 678 |
| 様式 : 大和第V-1様式 |
| 残存長 : 7.0 |
| 残存幅 : 11.0 |



024 絵画土器（建物）

本絵画土器は、大和第IV-1様式の短頸壺胴部上半に描かれたものである。南地区的第33次調査の井戸などから出土した。ほぼ完形であるが、埋没環境が悪く器面は鉄分が付着している。建物絵画は柱間3間の寄棟建物で、床下に右上がり2本線で表現した梯子を取り付く。屋根は斜格文を充填し、棟端には半円弧の飾り表現がみられる。

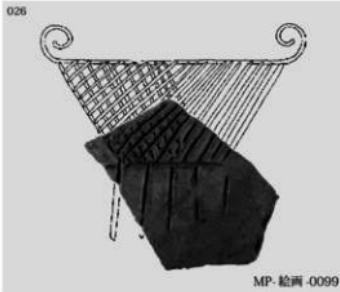
| |
|--------------------|
| 024-1 の絵画部分 |
| 第 33 次調査 |
| 遺構 : SK-120・SD-115 |
| 層位 : 第 0(上)層 |
| 土色 : 黒褐色粘質土 |
| 取上 : - |
| No. : 400 |
| 様式 : 大和第IV-1様式 |
| 全体 |
| 高さ : 41.0 |
| 幅 : 26.6 |



025 絵画土器（建物）

本絵画土器は、弥生時代中期と思われる壺胴部の上半に描かれたものである。南地区的第69次調査の黒色粘質土層から出土した。棟飾りを有する寄棟の高床建物である。斜格文を充填した屋根と「転び」のある柱の一部を残す。屋根左辺の外側にも線刻が残ることから一回り小さく書き直したものと考えられる。

| |
|--------------|
| 第 69 次調査 |
| 遺構 : - |
| 層位 : - |
| 土色 : 黒色粘質土 |
| 取上 : - |
| No. : 181 |
| 時代 : 弥生時代中期? |
| 残存長 : 4.7 |
| 残存幅 : 4.3 |



026 絵画土器（建物）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺に描かれたものである。南東端の第3次調査の環濠から出土した。切妻の高床建物の下半分である。屋根を充填する斜格文は左半分である。柱は1本線で表現し5本である。柱はケズリによってその一部が消されている。梯子の表現はない。

| |
|-------------|
| 第 3 次調査 |
| 遺構 : SD-02 |
| 層位 : - |
| 土色 : 黑粘 I |
| 取上 : - |
| No. : - |
| 時代 : 弥生時代中期 |
| 残存長 : 5.1 |
| 残存幅 : 5.7 |

027 絵画土器（建物）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺に描かれたものである。北地区の第48次調査の黒色粘質土層から出土した。絵画は小片のため、全体は不明であるが、切妻の高床建物の右半分が残存している。棟持柱と右端の柱を1本線で表現、屋根部分は斜格文を充填、棟持柱は縦1本線で描いている。また、棟端の飾りは横方向に長く伸びており、ヘラの刺による装飾表現が付加され、その一連で妻部も同様な表現で飾られている。

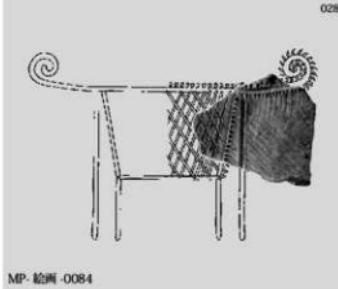
| 第48次調査 | |
|--------|--------|
| 遺構： | — |
| 層位： | — |
| 土色： | 黒色粘質土 |
| 取上： | — |
| No： | 135 |
| 時代： | 弥生時代中期 |
| 残存長： | 3.9 |
| 残存幅： | 2.5 |



028 絵画土器（建物）

本絵画土器は、大和第IV様式の壺に描かれたものである。西端の第62次調査の環濠から出土した。切妻の高床建物の右上半分である。屋根部分は斜格文を充填、棟持柱は縦1本線で描いている。また、棟端の飾りは横方向に長く伸びており、ヘラの刺による装飾表現が付加され、その一連で妻部も同様な表現で飾られている。

| 第62次調査 | |
|--------|---------|
| 遺構： | SD-101 |
| 層位： | 第5(下)層 |
| 土色： | 黒灰色(植物) |
| 取上： | — |
| No： | 166 |
| 様式： | 大和第IV様式 |
| 残存長： | 4.3 |
| 残存幅： | 5.3 |



029 絵画土器（建物）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺胴部上半に描かれたものである。西地区中央部の第22次調査の中世土坑から出土したもので、原位置は不明である。絵画は小片のため、全体は不明であるが、建物の棟部分が精緻に描かれている。棟は2本の横線の内部に刺突文を充填し、棟上を斜格文で飾る。また、棟端は渦巻き状の表現をとる。

| 第22次調査 | |
|--------|--------|
| 遺構： | SK-52 |
| 層位： | 第3層 |
| 土色： | 灰色粗砂 |
| 取上： | — |
| No： | 88 |
| 時代： | 弥生時代中期 |
| 残存長： | 3.0 |
| 残存幅： | 5.8 |

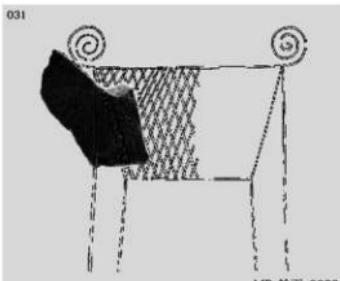


030 絵画土器（建物）

本絵画土器は、大和第IV様式と思われる壺に描かれたものである。中央区の第98次調査の溝から出土した。建物は斜格文を充填した切妻式で、床から右側に長く突き出で「縁」あるいは「露台」風のものを表現し、その先端上には上向きの綾杉状の「飾りもの」がつく。また、床との接点には梯子が架けられている。

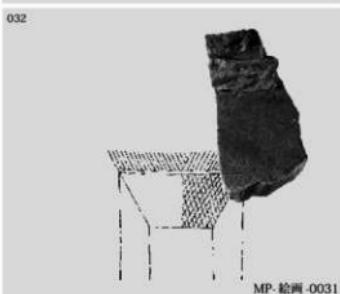
| 第98次調査 | |
|--------|----------|
| 遺構： | SD-101 |
| 層位： | 第1(下)層 |
| 土色： | 黒褐色粘質土 |
| 取上： | — |
| No： | 185 |
| 様式： | 大和第IV様式? |
| 残存長： | 5.3 |
| 残存幅： | 5.0 |



**031 絵画土器（建物）**

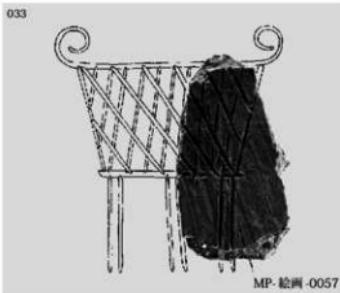
本絵画土器は、弥生時代中期の壺に描かれたものである。中央区の第53次調査の落ち込み状遺構から出土した。絵画は小片のため、全体は不明であるが、切妻の高床建物の左半分が残存している。棟持柱は1本線、妻部分は2重線に短線を充填した描き方で、屋根内部は斜格文を充填している。

| |
|--------------|
| 第 53 次調査 |
| 遺構 : SR-101A |
| 層位 : 第 1 層 |
| 土色 : 黒褐色砂質土 |
| 取上 : - |
| No. : 55 |
| 時代 : 弥生時代中期 |
| 残存長 : 4.7 |
| 残存幅 : 4.2 |

**032 絵画土器（建物）**

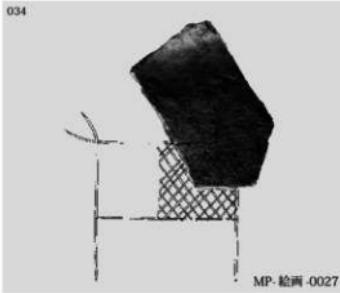
本絵画土器は、大和第IV-1様式の短頸壺脛部上半に描かれたものである。西地区南部の第58次調査の中世溝から出土したもので、原位置は不明である。残存する絵画部分は少なく、切妻の高床建物の右上半分である。棟上は斜線による飾り、棟持柱は1本線、屋根部分は斜格文の充填で表現している。

| |
|-----------------|
| 第 58 次調査 |
| 遺構 : SD-51 |
| 層位 : 第 4(下) 層 |
| 土色 : 茶灰色粗砂 |
| 取上 : - |
| No. : 79 |
| 様式 : 大和第IV-1 様式 |
| 残存長 : 9.5 |
| 残存幅 : 5.0 |

**033 絵画土器（建物）**

本絵画土器は、弥生時代中期の壺に描かれたものである。北地区の第59次調査の黒褐色土層から出土した。小片であるが、切妻の高床建物の右半分である。屋根部分は斜格文を充填、柱は2本線で表現している。棟持柱は描出していないようである。

| |
|-------------|
| 第 59 次調査 |
| 遺構 : - |
| 層位 : - |
| 土色 : 黒褐色土 |
| 取上 : その 1 |
| No. : 52 |
| 時代 : 弥生時代中期 |
| 残存長 : 5.2 |
| 残存幅 : 2.8 |

**034 絵画土器（建物）**

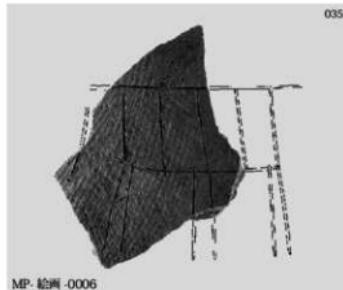
本絵画土器は、大和第IV-2様式の短頸壺脛部上半に描かれたものである。南端の第52次調査の環濠から出土した。切妻建物の右上半分が残存している。屋根部分は斜格文を充填している。棟先は「V」字状の表現の飾りとなっている。

| |
|-----------------|
| 第 52 次調査 |
| 遺構 : SK-101 |
| 層位 : 第 3-b 層 |
| 土色 : 暗灰青粘 |
| 取上 : - |
| No. : 24 |
| 様式 : 大和第IV-2 様式 |
| 残存長 : 9.4 |
| 残存幅 : 8.2 |

035 絵画土器（建物）

本絵画土器は、大和第IV様式の壺胴部上半に描かれたものである。北西端の第19次調査の環濠から出土した。絵画は切妻の高床建物の左半分が残存しており、柱は2本線で表現、建物内部は縦線2本を充填している。建物の左側にも線刻の一部が残存する。

| |
|------------|
| 第19次調査 |
| 遺構：SD-204 |
| 層位：第5層 |
| 土色：灰褐色粗砂 |
| 取上：— |
| No：695 |
| 様式：大和第IV様式 |
| 残存長：10.8 |
| 残存幅：8.1 |



MP-絵画-0006

036 絵画土器（建物・不明）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺に描かれたものである。北地区の第59次調査の黒色土層から出土した。高床建物を描いたもので、2重線に短線を充填した右上がりの梯子、並列する縦の1本線は柱であろう。また、地面を表したとみられる横線が柱の下端にある。建物の明晰な線刻に対し、その左下にやや浅めの不明線刻がある。

| |
|-----------|
| 第59次調査 |
| 遺構：— |
| 層位：— |
| 土色：黒色土 |
| 取上：— |
| No：387 |
| 時代：弥生時代中期 |
| 残存長：7.0 |
| 残存幅：7.2 |

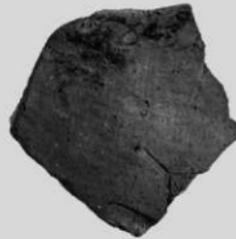


MP-絵画-0066

037 絵画土器（建物）

本絵画土器は、大和第IV様式の短頸壺胴部上半に描かれたものである。西地区南部の第58次調査の中世溝から出土したため、原位置は不明である。切妻建物の左端のみが残存する。屋根部分は斜格文を充填、棟端飾りは斜め上方に太描きの短い直線がとりつく。

| |
|------------|
| 第58次調査 |
| 遺構：SD-51 |
| 層位：第8層 |
| 土色：灰黒粘 |
| 取上：— |
| No：92 |
| 様式：大和第IV様式 |
| 残存長：8.2 |
| 残存幅：8.3 |



MP-絵画-0030

038 絵画土器（建物・鋸齒文）

本絵画土器は、大和第IV-2様式の短頸壺胴部上半に描かれたものである。南地区の第52次調査の環濠から出土した。2つの破片があり、第1破片は胴部中央の小片で、高床建物の梯子と思われる線刻がある。第2破片では頸部に部分的な鋸齒文3つと胴部上半に斜格文を充填した上向きの鋸齒文を描くが、先の建物絵画との関係はわからない。

| | |
|--------------|--------|
| 038-1 | 第52次調査 |
| 遺構：SK-101 | |
| 層位：第1(下)層 | |
| 土色：茶灰色粘質土 | |
| 取上：— | |
| No：22 | |
| 様式：大和第IV-2様式 | |
| 残存長：6.3 | |
| 残存幅：3.6 | |



MP-絵画-0083

039



MP-絵画-0107

040



MP-絵画-0106

041



MP-絵画-0155

042



MP-絵画-0005

039 絵画土器（建物）

本絵画土器は、大和第IV様式と思われる壺に描かれたものである。南地区の第61次調査の区画溝から出土した。絵画は、2本線で表現した柱と梯子のみ残す。梯子は柱に比べて細く、2本の斜線の間に刺突文を充填する。

第61次調査

| | |
|------|----------|
| 遺構： | SD-101B |
| 層位： | 第5層 |
| 土色： | 灰黒粘 |
| 取上： | その2 |
| No.： | 422 |
| 様式： | 大和第IV様式？ |
| 残存長： | 2.5 |
| 残存幅： | 2.4 |

040 絵画土器（建物）

本絵画土器は、大和第IV様式と思われる壺に描かれたものである。中央区の第98次調査の黒色砂質土層から出土した。高床建物を描いたもので、屋根部分は斜格文を充填、柱は2本線でその間を刺突文で表現している。柱は3本分確認できる。

第98次調査

| | |
|------|----------|
| 遺構： | — |
| 層位： | — |
| 土色： | 黒色砂質土 |
| 取上： | — |
| No.： | 92 |
| 様式： | 大和第IV様式？ |
| 残存長： | 2.3 |
| 残存幅： | 3.2 |

041 絵画土器（建物）

本絵画土器は、大和第IV様式の壺胴部に描かれたものである。西地区中央部の第16次調査の区画溝から出土した。2片があり、高床建物が描かれていると考えられるもので、第1破片には2本の柱、第2破片は棟上に斜格文の飾りを描き、棟端飾りは渦巻状に描く。

041-1

第16次調査

| | |
|------|---------|
| 遺構： | SD-101? |
| 層位： | — |
| 土色： | — |
| 取上： | — |
| No.： | 61 |
| 様式： | 大和第IV様式 |
| 残存長： | 5.6 |
| 残存幅： | 7.5 |

042 絵画土器（船）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺胴部上半に描かれたものである。西地区の第19次調査の中世大溝から出土したもので、原位置は不明である。2つの破片があり、第1破片は綾杉文と思われる斜線を充填した船体とそこから伸びる櫂と推定される直線2本、第2破片は木の葉状に描かれた櫂2本が残存している。

042-2

第19次調査

| | |
|------|--------|
| 遺構： | 中世大溝 |
| 層位： | 第6層 |
| 土色： | 暗灰色粗砂 |
| 取上： | — |
| No.： | 40 |
| 時代： | 弥生時代中期 |
| 残存長： | 8.5 |
| 残存幅： | 7.8 |

043 絵画土器（船）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺胴部上半に描かれたものである。中央区の第50次調査の区画大溝から出土したものである。船全体の側辺を表した横線から下方に櫂が9本描かれている。櫂は木の葉状に描かれている。櫂の本数からかなり大きく船が描かれていたと推定できる。

| |
|-----------|
| 第50次調査 |
| 遺構：SD-108 |
| 層位：第1層 |
| 土色：黒褐色砂質土 |
| 取上：— |
| No：47 |
| 時代：弥生時代中期 |
| 残存長：7.5 |
| 残存幅：8.4 |

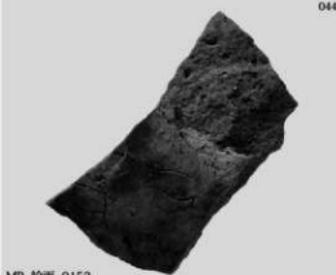


MP-絵画-0024

044 絵画土器（船）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺胴部に描かれたものである。西地区北部の第37次調査の黒褐色土層から出土した。小片のため全体は不明であるが、木の葉状に描かれた櫂が右下があり2本分残存している。

| |
|-----------|
| 第37次調査 |
| 遺構：— |
| 層位：第1層 |
| 土色：黒褐色土 |
| 取上：— |
| No：81 |
| 時代：弥生時代中期 |
| 残存長：7.9 |
| 残存幅：8.1 |



MP-絵画-0152

045 絵画土器（銅戈）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺胴部に描かれたものである。中央区の第50次調査の区画大溝から出土した。左向きに大阪湾型銅戈のみが描かれている。内表現や鋸歯文を極に表現するなど写実的な絵画である。

| |
|-----------|
| 第50次調査 |
| 遺構：SD-106 |
| 層位：第3(上)層 |
| 土色：灰黒色砂質土 |
| 取上：— |
| No：164 |
| 時代：弥生時代中期 |
| 残存長：6.1 |
| 残存幅：7.0 |



MP-絵画-0023

046 絵画土器（人物）

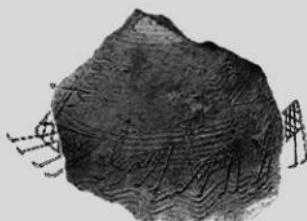
本絵画土器は、大和第IV様式の短頸壺の胴部上半に描かれたものである。南地区の第61次調査の区画溝から出土した。人物の顔は眉と目、口を刺突で表現、頭から短い線があり、羽状飾りを表現している可能性がある。また、左上方に残る線刻は、右手の先端の可能性があり、両手を擧げる人物とみなすことができる。

| |
|------------|
| 第61次調査 |
| 遺構：SD-105 |
| 層位：第2層 |
| 土色：黒褐色粘質土 |
| 取上：— |
| No：280 |
| 様式：大和第IV様式 |
| 残存長：5.3 |
| 残存幅：4.6 |



MP-絵画-0071

047



MP-絵画-0025

048



MP-絵画-0010

049



MP-絵画-0056

050



MP-絵画-0003

047 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第Ⅲ様式の細頸壺の頸部に描かれたものである。中央区の第50次調査の区画大溝から出土した。櫛描直線文と波状文に重なるように左向きの鹿を並列的に描いている。頭部は「V」字形で角と一緒に表現する。頸部には斜格文を充填する。土器の胎土・色調から揖津地域からの搬入品の可能性がある。

| |
|-------------|
| 第 50 次調査 |
| 遺構 : SD-108 |
| 層位 : 第 2 層 |
| 土色 : 黒灰色粘質土 |
| 取上 : — |
| No. : 257 |
| 様式 : 大和第Ⅲ様式 |
| 残存長 : 5.9 |
| 残存幅 : 6.8 |

048 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第Ⅲ-4様式の広口壺の頸部に描かれたものである。北地区的第23次調査の井戸中層から出土した。絵画は左向きの鹿を描いているが、後刻によるものである。頸部から頸部は一體的で 2 本線、脚は 1 本線、角は内側に角枝を刻んでいる。土器の胎土・色調から生駒西麓産の可能性がある。

| |
|----------------|
| 第 23 次調査 |
| 遺構 : SK-113 |
| 層位 : 第 4 層 |
| 土色 : 灰黑色粘質土 |
| 取上 : — |
| No. : 402 |
| 様式 : 大和第Ⅲ-4 様式 |
| 残存高 : 13.7 |
| 残存幅 : 19.9 |

049 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺の頸部に描かれたものである。中央区の第53次調査の落ち込み状遺構から出土した。左向きの鹿が 3 頭並列・上下に描かれている。いずれの鹿も全体は不明であるが、3 頭の各部位(頭部・頸胴部・脚部)からほぼ鹿の全体像が推定される。

| |
|--------------|
| 第 53 次調査 |
| 遺構 : SR-101A |
| 層位 : 第 2 層 |
| 土色 : 黒褐色砂質土 |
| 取上 : — |
| No. : 182 |
| 時代 : 弥生時代中期 |
| 残存長 : 5.8 |
| 残存幅 : 6.3 |

050 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第Ⅳ様式の縹胴部に描かれたものである。北西端の第13次調査の環濠から出土した。タタキ成形後、ハケ調整で仕上げる。6 片が残存し、4 片に左向きの鹿 2 頭を描く。左側の鹿は臀部と後脚、右側の鹿は頸部と後脚が残存する。左側の鹿の尻尾は方形に表現する。2 頭の鹿の脚先は前方へ短く描いている。

| |
|--------------|
| 第 13 次調査 |
| 遺構 : SD-06C |
| 層位 : 第 7 層 |
| 土色 : 砂質土 II |
| 取上 : 土 -1972 |
| No. : 382 |
| 様式 : 大和第Ⅳ様式 |
| 残存長 : 16.4 |
| 残存幅 : 11.5 |

051 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV様式の壺に描かれたものである。南東端の第47次調査の環濠から出土した。左向きの鹿2頭が残存するが、頭部と胴部のみである。丸みをもった臀部を突き上げた姿態表現は、本遺跡に特徴的な表現である。

| |
|------------|
| 第47次調査 |
| 遺構：SD-2107 |
| 層位：第2層 |
| 土色：茶灰色砂質土 |
| 取上：— |
| No.：416 |
| 様式：大和第IV様式 |
| 残存長：7.2 |
| 残存幅：6.1 |



MP-絵画-0018

052 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV様式の短頸壺と考えられる大型壺の肩部に描かれたものである。中央区の第98次調査の溝から出土した。絵画は、左向きの鹿が2頭描かれているが、左側の鹿は角枝のみ、右側の鹿は頭部と角枝を内側に描いた主幹のみが残存する。唐古・鍵遺跡で典型的な鹿頭部である。

| |
|------------|
| 第98次調査 |
| 遺構：SD-101 |
| 層位：第1層 |
| 土色：— |
| 取上：土-113 |
| No.：146 |
| 様式：大和第IV様式 |
| 残存長：7.3 |
| 残存幅：10.3 |

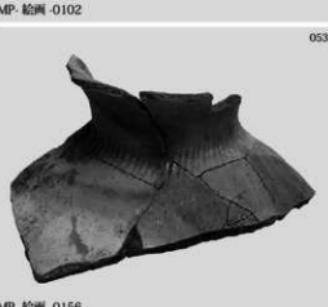


MP-絵画-0102

053 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV様式の広口壺胴部上半に描かれたものである。南東端の第3次調査の環濠から出土した。絵画は左向きの鹿で、頭部の一部と角のみが残存する。角は主幹から外にのびた角枝がみられる。

| |
|------------|
| 第3次調査 |
| 遺構：SD-06 |
| 層位：溝上層 |
| 土色：黒粘土 |
| 取上：— |
| No.：— |
| 様式：大和第IV様式 |
| 残存高：12.8 |
| 残存幅：19.8 |

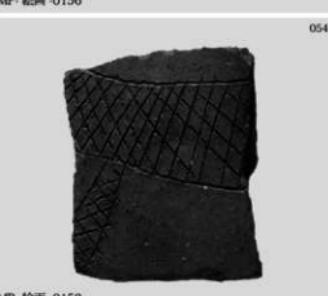


MP-絵画-0156

054 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺胴部に描かれたものである。南地区の第3次調査の黒色砂質土層から出土した。左向きの鹿が描かれており、胴部と前脚部分で斜格文を充填する。脚部分に斜格文を充填する例は少ない。

| |
|-----------|
| 第3次調査 |
| 遺構：SD-02 |
| 層位：— |
| 土色：黒色砂質土 |
| 取上：— |
| No.：— |
| 時代：弥生時代中期 |
| 残存長：5.5 |
| 残存幅：4.7 |



MP-絵画-0158

055



MP-絵画-0157

055 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺腹部に描かれたものである。南地区の第3次調査の包含層から出土した。左向きの鹿が描かれており、胴部と前脚部分、わずかに角が残る。胴部は斜格文を充填する。

第3次調査

| | |
|------|--------|
| 遺構： | SD-07 |
| 層位： | 包含層 |
| 土色： | — |
| 取上： | — |
| No.： | — |
| 時代： | 弥生時代中期 |
| 残存長： | 5.8 |
| 残存幅： | 4.4 |

056



MP-絵画-0037

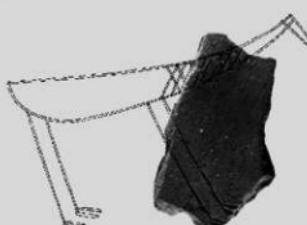
056 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺腹部に描かれたものである。昭和30年代に唐古の人が採集した資料を戸田秀典氏が譲り受け、その後、本町に寄贈されたものである。右向きの鹿で、角と胴部、前脚が残っている。胴部は斜格文を充填し、前脚は脚先を二股に表現している。

第0次調査

| | |
|------|--------|
| 遺構： | — |
| 層位： | — |
| 土色： | — |
| 取上： | — |
| No.： | 6 |
| 時代： | 弥生時代中期 |
| 残存長： | 12.9 |
| 残存幅： | 11.8 |

057



MP-絵画-0093

057 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺に描かれたものである。南地区の第69次調査の黒灰色粘質土層から出土した。右向きの鹿で、頸部と前脚が残っている。頸部は2本線の間に斜格文を充填する。前脚は、脚先を二股に表現している。

第69次調査

| | |
|------|--------|
| 遺構： | — |
| 層位： | — |
| 土色： | 黒灰色粘質土 |
| 取上： | — |
| No.： | 271 |
| 時代： | 弥生時代中期 |
| 残存長： | 8.1 |
| 残存幅： | 6.0 |

058



MP-絵画-0151

058 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV様式の短頸壺と思われる胴部上半に描かれたものである。西地区北部の第37次調査の黒褐色土層から出土した。絵画は大きく描かれており、鹿の角部分のみが残存する。角は主幹から内側に角枝を描いている。

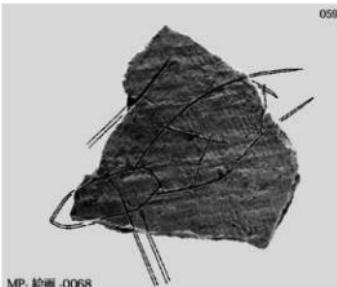
第37次調査

| | |
|------|---------|
| 遺構： | — |
| 層位： | 第1層 |
| 土色： | 黒褐色土 |
| 取上： | — |
| No.： | 49 |
| 様式： | 大和第IV様式 |
| 残存長： | 5.5 |
| 残存幅： | 4.6 |

059 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、弥生時代中期のタタキ痕のある土器に描かれたものである。北地区の第59次調査の黒褐色土層から出土した。絵画は左向きの鹿を大きく描いているが、頭部と頸部のみ残存する。角は2本の主幹から内側に角枝を描いている。頭部の上にも不明線刻の一部が残存する。

| | |
|----------|--------|
| 第 59 次調査 | |
| 遺構： | — |
| 層位： | — |
| 土色： | 黒褐色土 |
| 取上： | — |
| No : | 54 |
| 時代： | 弥生時代中期 |
| 残存長： | 5.8 |
| 残存幅： | 5.7 |



059

060 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV-2様式の短頸壺部上に描かれたものである。南地区の第69次調査の区画溝から出土した。絵画は左向きの鹿で、角のみが残存する。主幹から内外にのびた角枝がみられる。

| | |
|----------|------------|
| 第 69 次調査 | |
| 遺構： | SD-1123 |
| 層位： | 第2層 |
| 土色： | 黒灰色粘質土 |
| 取上： | — |
| No : | 1455 |
| 様式： | 大和第IV-2 様式 |
| 残存長： | 6.2 |
| 残存幅： | 5.1 |



060

061 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV-2様式あるいはV-1様式と推定される短頸壺に描かれたものである。南地区の第69次調査の区画溝から出土した。右向きの鹿で、角部分が残っており、主幹とその内側に角枝を描く。線刻は細く鋭い。

| | |
|----------|----------------|
| 第 69 次調査 | |
| 遺構： | SD-1103B |
| 層位： | 第1層 |
| 土色： | 黒褐色土 |
| 取上： | — |
| No : | 691 |
| 様式： | 大和第IV-2・V-1 様式 |
| 残存長： | 6.0 |
| 残存幅： | 4.8 |



061

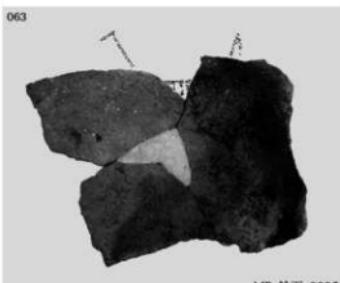
062 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、弥生時代中期の大壺に描かれたものである。南地区の第77次調査の黒褐色粘質土層から出土した。右向きの鹿で、頭部・角・頸部を残す。角は2本の主幹から両側に角枝を描いている。

| | |
|----------|--------|
| 第 77 次調査 | |
| 遺構： | — |
| 層位： | — |
| 土色： | 黒褐色粘質土 |
| 取上： | — |
| No : | 200 |
| 時代： | 弥生時代中期 |
| 残存長： | 5.1 |
| 残存幅： | 7.6 |



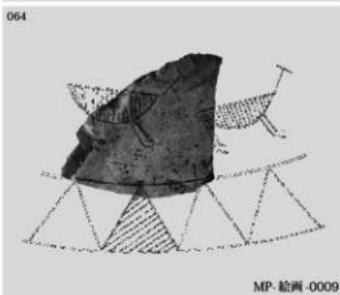
062



063 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺に描かれたものである。南東端の第76次調査の環濠から出土した。左向きの鹿と推定される絵画で、斜線を充填した「三日月」形の胴部と脚部を残す。後脚の間隔が広く鹿としてはバランスが悪い。

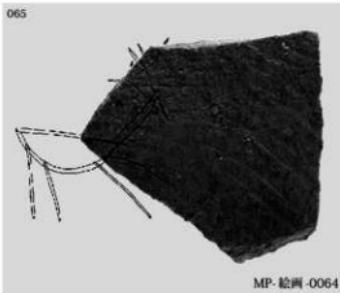
| |
|------------|
| 第76次調査 |
| 遺構：SD-1117 |
| 層位：第2層 |
| 土色：暗灰褐色粘質土 |
| 取上：— |
| No. : 319 |
| 時代：弥生時代中期 |
| 残存長：13.0 |
| 残存幅：17.3 |



064 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV様式と思われる器台の裾部に描かれたものである。北地区の第23次調査の黒色粘質土層から出土した。器台裾部に鋸歯文を巡らせ、その上に右向きの鹿を並列的に描いている。鹿の描き方は、下向きの円弧を胴部とし、頭部は1本線、頭部は横線で「T」字状に表現する。胴部は縦線を充填する。

| |
|-------------|
| 第23次調査 |
| 遺構：— |
| 層位：— |
| 土色：黒色粘質土 |
| 取上：— |
| No. : 10 |
| 様式：大和第IV様式？ |
| 残存長：10.6 |
| 残存幅：11.7 |



065 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV様式のタタキ痕のある壺に描かれたものである。南地区の第61次調査の区画溝から出土した。鹿は頭部から胴部、前脚にある部分が残っている。角は角枝を有する。胴部は、背中側が直線となる「半月」形である。鹿の右側には竹管状のものがあるが、意識的なものかどうか判断できない。

| |
|------------|
| 第61次調査 |
| 遺構：SD-101B |
| 層位：第3層 |
| 土色：黒褐色粘砂 |
| 取上：— |
| No. : 28 |
| 様式：大和第IV様式 |
| 残存長：6.9 |
| 残存幅：7.0 |



066 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV様式の大甌に描かれたものである。西地区中央部の第16次調査の区画大溝から出土した。器表面が剥落しているため、線刻が不明瞭になっているが、左向きの鹿が描かれている。胴部が大きく、頭部・頸部が小さくバランスが悪い。頭部には角が描かれている。胴部は斜格文を充填する。後脚の表現は不明である。

| |
|------------|
| 第16次調査 |
| 遺構：包含層 |
| 層位：— |
| 土色：— |
| 取上：— |
| No. : 287 |
| 様式：大和第IV様式 |
| 残存高：12.2 |
| 残存幅：20.0 |

067 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV様式と思われる壺胸部上半にタキによって付けられたものである。北地区の第59次調査の廃土から採集した。左向きの鹿を上下2段にスタンプするが、ハケによって消されている。鹿の輪郭は幅0.3～0.4cmの線として陽出されている。下向きの円弧状の胸部で前脚は突っ張る。頭部の表現は不明である。

| 第59次調査 | |
|--------|----------|
| 遺構： | 廃土 |
| 層位： | — |
| 土色： | — |
| 取上： | — |
| No： | 1153 |
| 様式： | 大和第IV様式？ |
| 残存長： | 11.8 |
| 残存幅： | 12.6 |



067

068 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺と思われる胸部に描かれたものである。南地区的第76次調査の黒褐色粘質土層から出土した。小片のため、絵画の位置について断定できないが、上向きの鹿（土器を横にして描いた）が描かれている可能性がある。鹿は前脚と斜線を充填した胸部のみが残存する。

| 第76次調査 | |
|--------|--------|
| 遺構： | — |
| 層位： | — |
| 土色： | 黒褐色粘質土 |
| 取上： | — |
| No： | 149 |
| 時代： | 弥生時代中期 |
| 残存長： | 4.3 |
| 残存幅： | 5.3 |

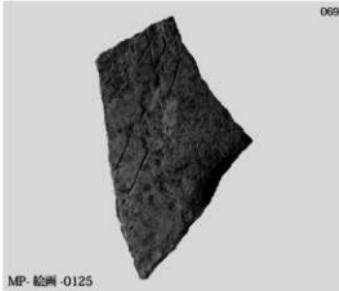


068

069 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV様式の壺胸部に描かれたものである。南端の第33次調査の環濠から出土した。左向きの鹿が描かれており、後脚と斜格文を充填した胸部のみが残存する。

| 第33次調査 | |
|--------|---------|
| 遺構： | SD-109 |
| 層位： | 第7層 |
| 土色： | 黒灰色砂質土 |
| 取上： | — |
| No： | 362 |
| 様式： | 大和第IV様式 |
| 残存長： | 9.2 |
| 残存幅： | 5.4 |

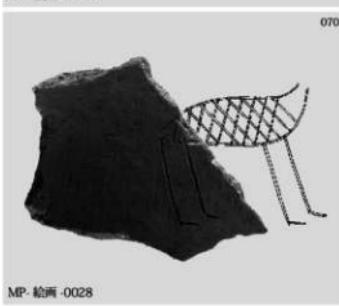


069

070 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺に描かれたものである。中央区の第53次調査の落ち込み状遺構から出土した。右向きの鹿が描かれているが、残存部分は少なく、臀部から後脚2本が残るのみである。胸部は斜格文を充填する。

| 第53次調査 | |
|--------|---------|
| 遺構： | SR-101A |
| 層位： | 第4層 |
| 土色： | 灰黒粘 |
| 取上： | — |
| No： | 252 |
| 時代： | 弥生時代中期 |
| 残存長： | 7.0 |
| 残存幅： | 8.3 |



070

071



MP-絵画-0133

072



MP-絵画-0123

073



MP-絵画-0128

074



MP-絵画-0122

071 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV-1様式の壺に描かれたものである。北端の第23次調査の河跡から出土した。小片のため、全体は不明であるが、右向きの鹿の胴部の一部と前脚部分が残存する。脚先は、二股に分かれている。

第23次調査

| | |
|------|-----------|
| 遺構： | SR-1101 |
| 層位： | 第1層 |
| 土色： | 灰白色粗砂 |
| 取上： | — |
| No.: | 416 |
| 様式： | 大和第IV-1様式 |
| 残存長： | 5.0 |
| 残存幅： | 4.5 |

072 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺胴部に描かれたものである。西地区の第19次調査の黒色土層から出土した。左向きの鹿が描かれているが、2本の前脚と胴部の一部が残存するのみである。脚先は二股に分かれている。胴部は斜格文を充填する。

第19次調査

| | |
|------|--------|
| 遺構： | — |
| 層位： | — |
| 土色： | 黒色土Ⅱ |
| 取上： | — |
| No.: | 90 |
| 時代： | 弥生時代中期 |
| 残存長： | 8.4 |
| 残存幅： | 6.1 |

073 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺胴部に描かれたものである。南地区的第86次調査の土坑から出土した。左向きの鹿が描かれており、前脚と斜格文を充填した胴部のみが残存する。脚先は二股に分かれている。

第86次調査

| | |
|------|---------|
| 遺構： | SK-7101 |
| 層位： | 第3-b層 |
| 土色： | 黒色砂 |
| 取上： | — |
| No.: | 187 |
| 時代： | 弥生時代中期 |
| 残存長： | 7.1 |
| 残存幅： | 6.3 |

074 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV-1様式の短頸壺の頸部と胴部上半に描かれたものである。北端の第23次調査の河跡から出土した。頸部の絵画は、左向きの鹿を描いたと思われ、4本の脚部と胴部の一部が残存する。脚部は前方に跳ね上げる。胴部は不明線刻が残る。

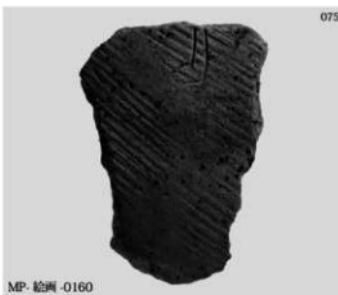
第23次調査

| | |
|------|-----------|
| 遺構： | SR-1101 |
| 層位： | 第1層 |
| 土色： | 灰白色粗砂 |
| 取上： | — |
| No.: | 416 |
| 様式： | 大和第IV-1様式 |
| 残存長： | 9.5 |
| 残存幅： | 12.0 |

075 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV様式の壺と思われる胴部に描かれたものである。西地区中央部の第16次調査の区画溝から出土した。タタキ整形後に絵画を描く。2本の縦線の下部が短く屈曲することから、鹿の前脚である可能性が高い。

| | |
|----------|----------|
| 第 16 次調査 | |
| 遺構： | SD-101 ? |
| 層位： | — |
| 土色： | — |
| 取上： | — |
| No : | 61 |
| 様式： | 大和第IV様式 |
| 残存長： | 10.8 |
| 残存幅： | 7.8 |

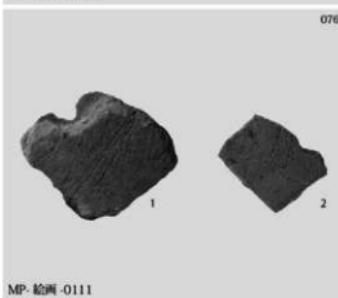


075

076 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺に描かれたものである。南地区的第69次調査の暗灰色粘質土層から出土した。土器の状態が悪く、絵画は不明瞭である。2頭の鹿を描く。第1破片には鹿の胴部と脚が残る。脚先はわずかに屈曲させる。その右側の鹿の脚先は短い横線できっちりと描き、第2破片の鹿の脚先と一連のものと考えられる。

| | |
|----------|--------|
| 第 69 次調査 | |
| 遺構： | — |
| 層位： | — |
| 土色： | 暗灰色粘質土 |
| 取上： | — |
| No : | 1672 |
| 時代： | 弥生時代中期 |
| 残存長： | 7.2 |
| 残存幅： | 8.7 |



076

077 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第IV-2様式の壺胴部に描かれたものである。南地区の第61次調査の区画溝から出土した。小片であるが、胴部と脚部分のみが残存し、鹿を描いたものと推定される。線刻は細く弱い。胴部の下腹線に並行するように微かな線刻が確認できる。消された絵画と思われ、鹿の下絵あるいは描き直しの可能性がある。

| | |
|----------|-----------|
| 第 61 次調査 | |
| 遺構： | SD-102B |
| 層位： | 第5(下)層 |
| 土色： | 灰黒粘 |
| 取上： | — |
| No : | 649 |
| 様式： | 大和第IV-2様式 |
| 残存長： | 4.2 |
| 残存幅： | 4.5 |



077

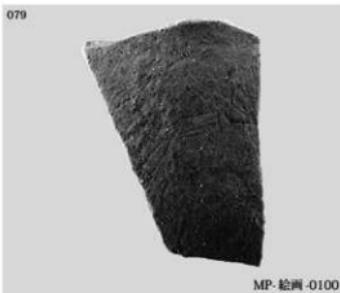
078 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第V-1様式の器台胴部下半に描かれたものである。南東端の第91次調査の環濠から出土した。絵画は左向きの鹿を描いたと考えられ、前脚のみが残存する。脚先は二股に分かれている。2本目の脚の胴部側には器台の透孔があり、鹿絵画の胴部は透孔によって無くなっている可能性がある。

| | |
|----------|----------|
| 第 91 次調査 | |
| 遺構： | SD-103C |
| 層位： | 第6層 |
| 土色： | 灰黒粘 |
| 取上： | — |
| No : | 404 |
| 様式： | 大和第V-1様式 |
| 残存長： | 7.3 |
| 残存幅： | 12.4 |



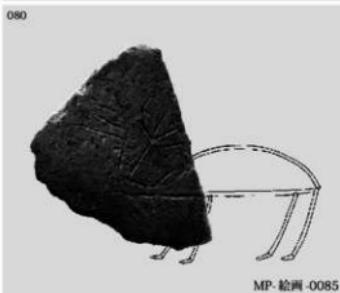
078



079 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第V様式の壺に描かれたものである。南地区の第63次調査の区画溝から出土した。器表面が剥落しているため、線刻が不明瞭になっているが、2頭の左向きの鹿が描かれている。脚先は二股に分かれている。右側の鹿は頭部のみ残存する。

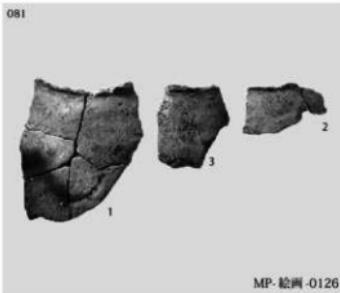
| |
|--------------|
| 第 63 次調査 |
| 遺構 : SD-103B |
| 層位 : 第 2 層 |
| 土色 : 灰黒粘 |
| 取上 : - |
| No. : 232 |
| 様式 : 大和第V様式 |
| 残存長 : 10.3 |
| 残存幅 : 7.6 |



080 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第V様式の壺に描かれたものである。南地区の第65次調査の黒褐色土層から出土した。左向きの鹿で、頭部から胴部と前脚の一部を残す。頸は短く頭の輪郭も不明瞭であるのに対し、角を大きく描いており鹿としてはバランスが悪い。角は主幹に対し、角枝が外側と両側に描いており表現として描っていない。

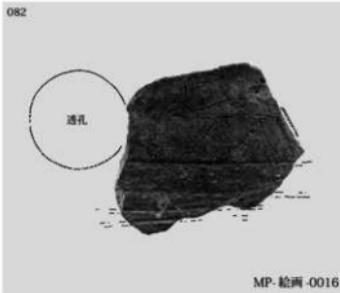
| |
|-------------|
| 第 65 次調査 |
| 遺構 : - |
| 層位 : - |
| 土色 : 黒褐色土Ⅱ |
| 取上 : - |
| No. : 268 |
| 様式 : 大和第V様式 |
| 残存長 : 6.1 |
| 残存幅 : 4.6 |



081 絵画土器（鹿・不明）

本絵画土器は、大和第V様式の短頸壺胴部上半に描かれたものである。南地区の第72次調査の環濠から出土した。絵画は複数あるが、欠損が多く、全体は不明である。第1破片は左向きの鹿頭部と思われ、2本の角と目の表現がある。第47次調査の鹿(082)に酷似する。第2・3破片はわずかな線刻と一部消された部分が残存する。

| |
|---------------|
| 第 72 次調査 |
| 遺構 : SD-107 |
| 層位 : 第 1(下) 層 |
| 土色 : - |
| 取上 : 土-128 |
| No. : 151 |
| 様式 : 大和第V様式 |
| 残存長 : 10.7 |
| 残存幅 : 9.5 |



082 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第V-1様式の器台に描かれたものである。南東端の第47次調査の環濠から出土した。絵画は頭部から胴部まで横長の一体的な表現で、頭部が短いが、角表現から鹿であろう。前脚と後脚は同じ向きでなく広がり、脚先は短線を足す。刺突による目の表現がみられる。絵画の一部はミガキ調整によって消されている。

| |
|---------------|
| 第 47 次調査 |
| 遺構 : SD-2101 |
| 層位 : 第 7 層 |
| 土色 : 灰黑色砂質土 |
| 取上 : その 3 |
| No. : 143 |
| 様式 : 大和第V-1様式 |
| 残存長 : 8.7 |
| 残存幅 : 10.3 |

083 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第V-1様式の短頸鹿の頭部に描かれたものである。南地区の第61次調査の区画溝から出土した。絵画の向きが逆で、口縁部を下にして描いたと考えられる。絵画は、角のない頭部・頸部・胴部・4本の脚が描かれ、かなり退化した鹿表現である。この鹿の反対側には、櫛描波状文が部分的に描かれている。

| |
|--------------|
| 第 61 次調査 |
| 遺構：SD-101B |
| 層位：第 5 層 |
| 土色：灰黒粘 |
| 取上：土 -511 |
| No : 521 |
| 様式：大和第V-1 様式 |
| 残存高：8.1 |
| 残存幅：12.4 |



MP- 絵画 -0072

084 絵画土器（鹿）

本絵画土器は、大和第V様式の短頸鹿胴部上半に描かれたものである。南地区的第3次調査の区画溝から出土した。絵画は左向きの鹿で、頭部と角のみが残存する。頭部は頸部から一体的に描かれている。角は短く主幹のみを表現する。

| |
|-------------|
| 第 3 次調査 |
| 遺構：SD-04・05 |
| 層位：－ |
| 土色：－ |
| 取上：－ |
| No : － |
| 様式：大和第V様式 |
| 残存長：8.1 |
| 残存幅：6.3 |



MP- 絵画 -0159

085 絵画土器（鹿）



MP- 絵画 -0101



085-1

本絵画土器は、大和第VI-1様式の長頸鹿の胴部上半に描かれたものである。南東端の第91次調査の環濠から出土した。絵画はミガキ調整の後に描き、線刻は浅い。右向きの鹿で、三日月形の胴部に頭部・角・脚部を1本線で簡単に表現する。頭部はやや右下に描く。角は主幹のみを表す。抽象化が進み、記号風になっている。

| |
|---------------|
| 第 91 次調査 |
| 遺構：SD-101B |
| 層位：第6(下)層 |
| 土色：黒灰色粘砂 |
| 取上：土 -268 |
| No : 327 |
| 様式：大和第VI-1 様式 |

全体

残存高：21.7

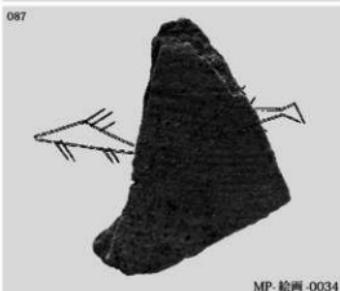
残存幅：22.9



086 絵画土器（魚）

本絵画土器は、大和第IV様式の壺の胸部分に描かれたものである。南東端の第3次調査の環濠から出土した。左向きの魚で、斜線を充填した三角形の胸部分に背鰭・胸鰭・尾鰭を表現する。

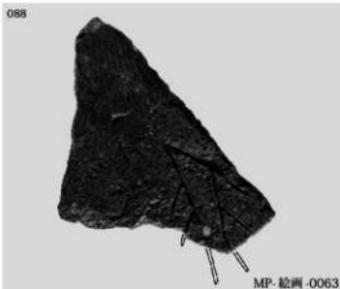
| |
|------------|
| 第3次調査 |
| 遺構：SD-06 |
| 層位：－ |
| 土色：黒粘Ⅰ |
| 取上：－ |
| No.：－ |
| 様式：大和第IV様式 |
| 残存長：11.7 |
| 残存幅：8.8 |



087 絵画土器（魚）

本絵画土器は、大和第IV様式のタタキ痕のある壺に描かれたものである。南地区の第61次調査の区画溝から出土した。2匹の左向きの魚が並列的に描かれている三角形の胸部分に背鰭・胸鰭・尾鰭の表現がある。

| |
|----------------|
| 第61次調査 |
| 遺構：SD-102B |
| 層位：西壁 Sec. 10層 |
| 土色：－ |
| 取上：－ |
| No.：1623 |
| 様式：大和第IV様式 |
| 残存長：8.2 |
| 残存幅：5.1 |



088 絵画土器（魚）

本絵画土器は、大和第IV様式の壺に描かれたものである。南地区の第61次調査の区画溝から出土した。やや左に傾いた上向きの魚が描かれている。三角形の胸部分に背鰭・胸鰭・尾鰭の表現がある。背鰭・胸鰭は2本線、尾鰭はひらきぎみの表現となっている。

| |
|------------|
| 第61次調査 |
| 遺構：SD-101 |
| 層位：第1層 |
| 土色：黒褐色土 |
| 取上：－ |
| No.：129 |
| 様式：大和第IV様式 |
| 残存長：4.8 |
| 残存幅：4.6 |



089 絵画土器（魚）

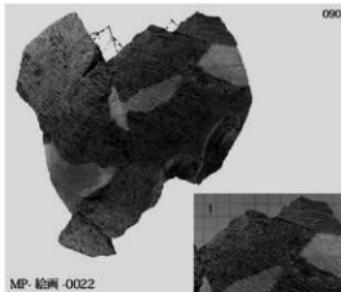
本絵画土器は、大和第IV-1様式の有段口縁壺胸部分中央に後刻の絵画として描かれたものである。北地区の第48次調査の土器集積遺構から出土した。上向きの魚で、三角形の胸部分に目・背鰭・胸鰭を刻む。

| |
|--------------|
| 第48次調査 |
| 遺構：SX-1102 |
| 層位：－ |
| 土色：－ |
| 取上：－ |
| No.：156 |
| 様式：大和第IV-1様式 |
| 全体 |
| 復元高：43.6 |
| 復元胸径：29.2 |

090 絵画土器（魚）

本絵画土器は、タタキ痕のある大和第IV-1様式の短頸壺胴部上半に描かれたものである。中央区の第50次調査の区画大溝から出土した。絵画は細描きで、タタキ整形後に描く。俯瞰の魚を描いたと考えられる。2匹の魚は上向きで、胸鰓・尾鰓の表現がみられる。

| | |
|-------|------------|
| 090-1 | 第50次調査 |
| 遺構： | SD-108・109 |
| 層位： | 第1(上)層 |
| 土色： | 黒褐色砂質土 |
| 取上： | — |
| No： | 222 |
| 様式： | 大和第IV-1様式 |
| 全体 | |
| 残存長： | 23.8 |
| 残存幅： | 20.5 |



090

091

091 絵画土器（スッポン）

本絵画土器は、大和第V様式の壺胴部に描かれたものである。南地区の第65次調査の黒褐色土層から出土した。上向きのスッポンで、斜格文を充填した円形の胴部と右後脚、尻尾の部分が残っている。足先は、二股に分かれている。

| | |
|-------|--------|
| 091-1 | 第65次調査 |
| 遺構： | — |
| 層位： | — |
| 土色： | 黒褐色土 |
| 取上： | — |
| No： | 174 |
| 様式： | 大和第V様式 |
| 残存長： | 9.0 |
| 残存幅： | 9.7 |



091

092 絵画土器（鳥）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺に描かれたものである。中央区の第50次調査の落ち込み状遺構から出土した。小片のため絵画残存部分が少ないが、脚先を三叉状に表現した鳥の脚と見られる絵画が残る。脚は3本あるため、2羽以上の鳥が描かれた可能性がある。

| | |
|-------|--------|
| 092-1 | 第50次調査 |
| 遺構： | 落ち込み |
| 層位： | 第2層 |
| 土色： | 灰黒色粘砂 |
| 取上： | — |
| No： | 162 |
| 時代： | 弥生時代中期 |
| 残存長： | 5.8 |
| 残存幅： | 5.0 |

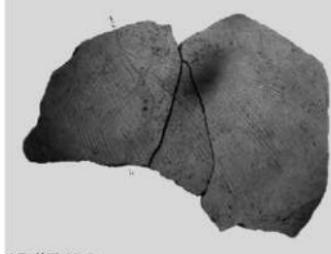


092

093 絵画土器（鳥）

本絵画土器は、大和第IV-1様式の短頸壺胴部に描かれたものである。南地区の第33次調査の井戸上層から出土した。左向きの鳥を表現したものと推定されるもので、緩やかな「S」字状に湾曲した細長い胴部に1本線の嘴と、交差した2本の脚が描かれている。

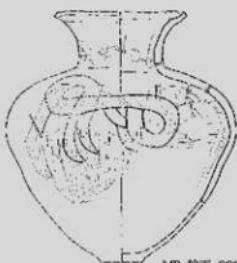
| | |
|-------|-----------|
| 093-1 | 第33次調査 |
| 遺構： | SK-120 |
| 層位： | 第2層 |
| 土色： | 灰粘 |
| 取上： | 土-219 |
| No： | 460 |
| 様式： | 大和第IV-1様式 |
| 残存長： | 16.0 |
| 残存幅： | 22.0 |



093

094 絵画土器（龍）

094



MP-絵画-0004

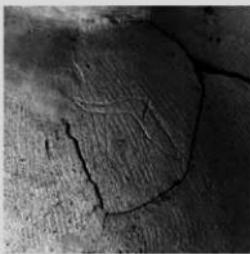
本絵画土器は、大和第VI-2・3様式の広口壺胴部上半に描かれたものである。北西端の第19次調査の環濠から出土した。抽象化が進んだ左向きの龍で、「S」字状に表現された胴部には頭部の表現はみられない。胴部には三日月形の鱗表現と不明線刻が付加されている。

094-1

| |
|----------------|
| 第19次調査 |
| 遺構：— |
| 層位：— |
| 土色：黒色土Ⅱ |
| 取上：— |
| No.：107 |
| 様式：大和第VI-2・3様式 |
| 残存長：11.6 |
| 残存幅：19.6 |

095 絵画土器（龍）

095



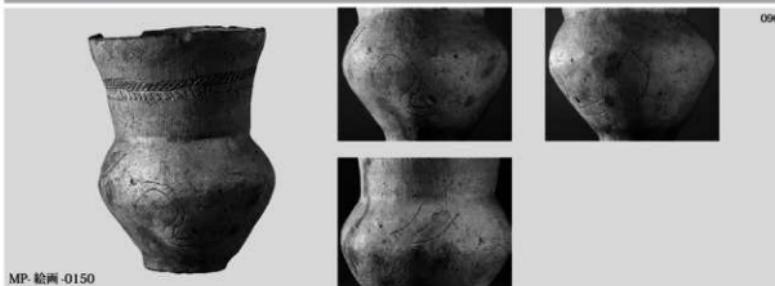
MP-絵画-0120

本絵画土器は、大和第VI-3様式の広口壺胴部上半に描かれたものである。北東端の第48次調査の環濠から出土した。抽象化が進んだ左向きの龍で、「S」字状に表現された胴部には頭部の表現はみられず、胴部の下側に三日月形の鱗表現が1つあるだけである。

第48次調査

| |
|--------------|
| 遺構：SD-C-107 |
| 層位：第1層 |
| 土色：— |
| 取上：土-101 |
| No.：271 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：24.2 |
| 胸径：20.0 |

096 絵画土器（龍・記号）



MP-絵画-0150

096

本絵画土器は、大和第VI-3様式の小形長頸壺頸部に描かれたものである。南端の第33次調査の環濠から出土した。抽象化が進み記号と区別がつかない絵画で3つの意匠が並列的に描かれている。左端は壺頸部界から下方向に半三日月形とその内部に曲線を描いたもので龍の鱗が象徴化され記号となったものと思われる。中央の絵画は壺頸部中央から下半にかけて描かれたもので、逆「S」字状の表現で龍の頸部を表した可能性がある。右端も頸部下半に描かれたもので木の葉状の表現である。これら意匠とは別に頸部には綾杉文が1周している。

第33次調査

| | |
|-----|-----------|
| 遺構： | SD-109 |
| 層位： | 第5層 |
| 土色： | 黒粘 |
| 取上： | 土-501 |
| No： | 275 |
| 様式： | 大和第VI-3様式 |
| 高さ： | 12.0 |
| 胸径： | 9.6 |

097 絵画土器（龍）

本絵画土器は、大和第VI-3様式の長頸壺頸部に描かれたものである。南端の第69次調査の環濠から出土した。抽象化が進み記号と区別がつかない絵画で、工具は先端が2本に分岐したもので描いている。大きな波線の上方に半三日月形を描いたもので、龍の頸部の一部と鱗を象徴的に表したものであろう。

| |
|--------------|
| 第69次調査 |
| 遺構：SD-1109 |
| 層位：第5(下)層 |
| 土色：— |
| 取上：土-7548 |
| No：721 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：14.7 |
| 胸径：10.5 |

097



MP-絵画-0162

098 絵画土器（龍？）

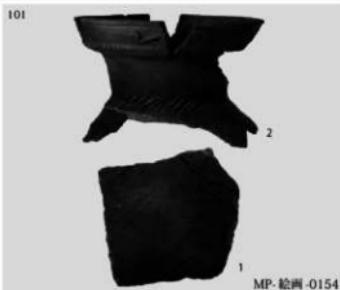
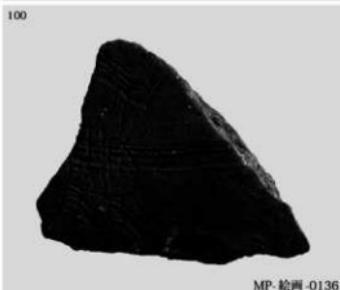
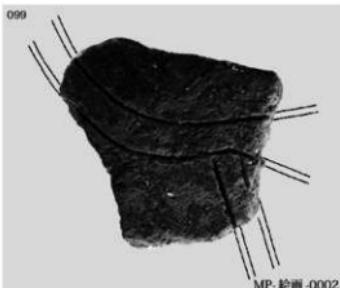
本絵画土器は、大和第VI-3様式の広口壺頸部下半に描かれたものである。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。抽象化が進み記号と区別がつかない絵画である。倒立させて描いている。くずれた三日月形を横方向に2つ重ねたような描き方で他の例から龍の頸部を表した可能性が高い。

| |
|--------------|
| 第37次調査 |
| 遺構：SK-2121 |
| 層位：第7層 |
| 土色：黒灰粘 |
| 取上：土-705 |
| No：416 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 残存高：12.9 |
| 残存胸径：20.0 |

098



MP-絵画-0149



099 絵画土器（龍）

本絵画土器は、大和第VI-3様式の壺胸部に描かれたものである。北西端の第13次調査の環濠から出土した。小片のため絵画残存部分が少ないが、龍と思われる湾曲した肩部が描かれている。

| |
|--------------|
| 第13次調査 |
| 遺構：SD-04 |
| 層位：中層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：— |
| No. : 138 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 残存長：4.6 |
| 残存幅：4.8 |

100 絵画土器（不明）

本絵画土器は、大和第III-3様式の壺胸部に描かれたものである。南端の第33次調査の環濠から出土した。絵画は意匠不明で、波状文と直線文の櫛描文様に重なるように描かれている。梢円を描いた後、その内部を縦線で充填するとともに梢円の上と下に縱線を不揃いに線刻したものである。何らかの動物を表しているかも知れない。

| |
|---------------|
| 第33次調査 |
| 遺構：SD-108 |
| 層位：第1層 |
| 土色：黒褐色土 |
| 取上：— |
| No. : 276 |
| 様式：大和第III-3様式 |
| 残存長：5.7 |
| 残存幅：7.4 |

101 絵画土器（不明・S字文）

本絵画土器は、大和第IV様式の有段口縁壺の肩部上半に描かれたものである。北西端の第19次調査の環濠から出土した。絵画は先端を尖らせたものと、その左に斜線の下端が短線2本で繋がったものがある。これらの線刻は1つの意匠の可能性がある。このほか、口縁部には浮文による横方向の「S」字文を2つ連結させて貼付している。

| |
|------------|
| 101-1 |
| 第19次調査 |
| 遺構：SD-204 |
| 層位：第5層 |
| 土色：灰黑色粗砂 |
| 取上：G-501 |
| No. : 746 |
| 様式：大和第IV様式 |
| 残存長：6.3 |
| 残存幅：6.6 |

102 絵画土器（不明）

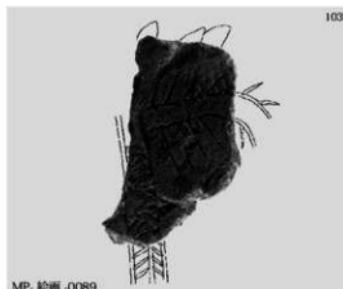
本絵画土器は、大和第IV様式の短頸壺に描かれたものである。北西端の第13・19次調査の環濠から出土した。絵画は2重線で描かれたもので、逆「L」字形を2つ連続させた形をとるが、下端が欠損しているため、全体としては不明である。

| |
|------------|
| 第19次調査 |
| 遺構：SD-204 |
| 層位：第4(下)層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：土-4167 |
| No. : 673 |
| 様式：大和第IV様式 |
| 残存長：7.5 |
| 残存幅：11.0 |

103 絵画土器（不明）

本絵画土器は、大和第IV様式の短頸壺胴部上半に描かれたものである。西地区中央部の第46次調査の区画溝から出土した。小片のため、絵画の全体像は不明であるが、縱方向の綾杉文の右側に羽状の線刻が取り付く。羽状の線刻は上方への斜線で、横方向から下方へ垂れる。

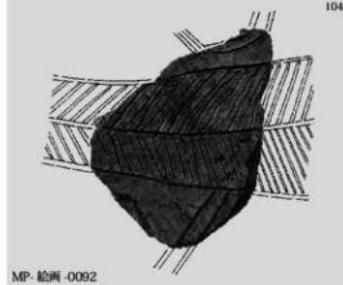
| | |
|--------|---------|
| 第46次調査 | |
| 遺構: | SD-101 |
| 層位: | 第4層 |
| 土色: | 黒褐色粘質土 |
| 取上: | — |
| No: | 17 |
| 様式: | 大和第IV様式 |
| 残存長: | 5.7 |
| 残存幅: | 3.3 |



104 絵画土器（不明）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺に描かれたものである。北地区的第59次調査の区画溝から出土した。絵画は横長の囲み線内を綾杉文で充填するもので、その下には2本の斜線、上にも2本の平行する線刻が見られ、鹿の頭部と前脚、角のようにも見える。仮に鹿を表現したとみなすと鹿の頭部に至る部分が若干太すぎると思える。

| | |
|--------|---------|
| 第59次調査 | |
| 遺構: | SD-3102 |
| 層位: | 第1(下)層 |
| 土色: | 黒色土 |
| 取上: | — |
| No: | 645 |
| 時代: | 弥生時代中期 |
| 残存長: | 5.8 |
| 残存幅: | 4.6 |



105 絵画土器（不明）

本絵画土器は、大和第IV様式の壺に描かれたものである。北西端の第13次調査の環濠から出土した。小片のため、絵画の向きや全体は不明である。平行する直線の間を斜線で充填する。

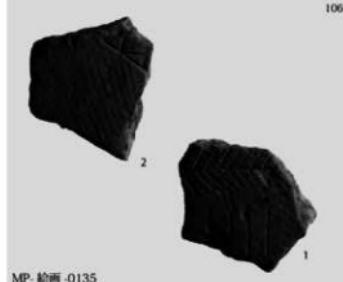
| | |
|--------|---------|
| 第13次調査 | |
| 遺構: | SD-06C |
| 層位: | 第5層 |
| 土色: | 粗砂 |
| 取上: | — |
| No: | 354 |
| 様式: | 大和第IV様式 |
| 残存長: | 4.8 |
| 残存幅: | 3.5 |



106 絵画土器（不明）

本絵画土器は、弥生時代中期の壺胴部に描かれたものである。西地区中央部の第22次調査の中世土坑等から出土したため、原位置は不明である。2片が残存する。第1破片は、横側の綾杉文の下に縱線を4本描くが、綾杉文とは接していない。建物ではなさそうである。第2破片は斜格文を充填しているようであるが、全体は不明である。

| | |
|-------|--------|
| 106-1 | 第22次調査 |
| 遺構: | — |
| 層位: | 第II層 |
| 土色: | 黒褐色土 |
| 取上: | — |
| No: | 16 |
| 時代: | 弥生時代中期 |
| 残存長: | 4.3 |
| 残存幅: | 4.4 |

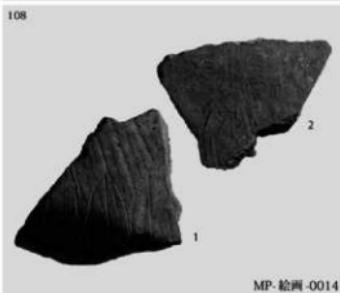




107 絵画土器（不明）

本絵画土器は、大和第IV様式と思われる大壺の脇部に描かれたものである。中央区の第98次調査の黒色砂質土層から出土した。絵画は大きく描かれた意匠の一部と思われ、その左端のみ残存している。絵画は横線の左端に梢円形状のものが吊り下げられ、横線の中央には先端が右方向を向いた三叉状の意匠となっている。

| 第98次調査 | |
|--------|----------|
| 遺構： | — |
| 層位： | — |
| 土色： | 黒色砂質土 |
| 取上： | — |
| No.: | 20 |
| 様式： | 大和第IV様式？ |
| 残存長： | 10.7 |
| 残存幅： | 7.8 |

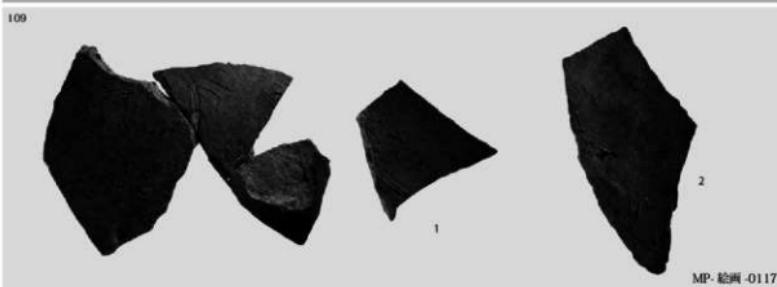


108 絵画土器（不明）

本絵画土器は、大和第IV様式の大壺に描かれたものである。北地区西端の第37次調査の河跡と第53次調査の落ち込み状遺構から出土した。第1破片で上向きの木の葉状の表現が3つ以上並列的に描かれている。船の櫂については大きすぎることから別物であろう。第2破片は渦巻き表現であるが、ミガキによって一部消されている。

| 第37次調査 | |
|--------|---------|
| 遺構： | SX-2101 |
| 層位： | 第3層 |
| 土色： | 黒褐色土 |
| 取上： | — |
| No.: | 256 |
| 様式： | 大和第IV様式 |
| 残存長： | 10.3 |
| 残存幅： | 10.8 |

109 絵画土器（不明）

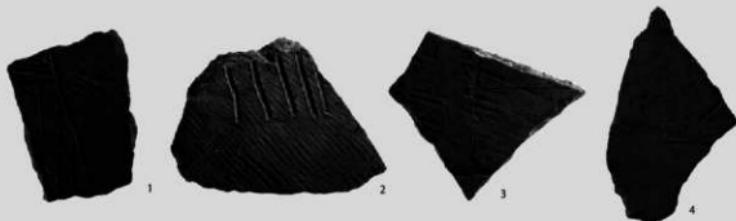


| 第89次調査 | |
|--------|----------|
| 遺構： | SD-1114B |
| 層位： | 第6層 |
| 土色： | 暗灰粘 |
| 取上： | — |
| No.: | 483 |
| 様式： | 大和第IV様式 |
| 残存長： | 12.9 |
| 残存幅： | 18.3 |

本絵画土器は、大和第IV様式の壺脇部に描かれたものである。西地区北部の第89次調査の区画溝などから出土した。絵画は3つの破片に絵画が残り、複数の画面で構成されていたと思われるが、ナデによって消されているため、よくわからない。これらの絵画は、最終的には消されてしまった絵画と思われる。大きな破片として残る第1破片では、主体となっているのは2重線で描かれた縦長の梢円形、あるいは「匁」形の周縁から放射状の弧条線が表現されているものである。その右側には右上がりの斜線に多数の短線が付加されたものや、斜格文を充填した円形が描かれている。第2破片にも微かな線刻がみられるが、消されてわからない。

110 絵画土器（不明）

110



MP-絵画-0146

本絵画土器は、大和第IV様式の壺胴部に描かれたものである。西地区北部の第89次調査の区画溝などから出土した。複数の絵画が4つの破片に描かれているが、その位置関係や画題はわからない。第1・2破片は建物であろうか。太描きで力強いタッチの線刻であるが、第3・4破片では細描きもみられることから、薄い板状の工具によるものでその使い方が異なるために生じたものと考えられる。また、後者の2片は一部ナデによって絵画が消されていることから、絵画を描く行為に時間差があったことが推定できる。

110-1

第89次調査

| | |
|------|----------|
| 遺構: | SD-1114B |
| 層位: | 第5層 |
| 土色: | 黒色粘砂 |
| 取上: | — |
| No: | 387 |
| 様式: | 大和第IV様式 |
| 残存長: | 6.9 |
| 残存幅: | 5.1 |

111 絵画土器（不明）

111



MP-絵画-0138

本絵画土器は、大和第IV様式の短頸壺胴部に描かれたものである。南地区の第61次調査の黒色粘砂層から出土した。外面にタタキを残す短頸壺と考えられる土器で、3片に線刻が残っている。第1・2破片は、内部をやや粗い斜格文で充填した大きな鋸歯文を描いている。第3破片は内部を細かい斜格文で充填した方形を呈する右端部分が残っている。小片のため意匠は不明である。いずれの線刻も極細の先端を有する工具で、絵画の工具としては例が少ない。

111-1

第61次調査

| | |
|------|---------|
| 遺構: | SD-102B |
| 層位: | 第4層 |
| 土色: | 黒色粘砂 |
| 取上: | — |
| No: | 274 |
| 様式: | 大和第IV様式 |
| 残存長: | 8.8 |
| 残存幅: | 7.9 |

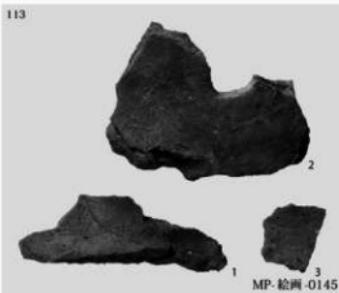


112 絵画土器（鋸歯文）

本絵画土器は、大和第IV様式の短頸壺脛部上半に描かれたものである。西地区の第20次調査の中世大溝から出土したため、原位置は不明である。絵画は、2条の横線内に下向きの鋸歯文を3つ描くが、さらに連続するかはわからない。鋸歯文の内部は1乃至2本の縦線を挿入する。中央の鋸歯文の右上には描き直しの線刻がみられる。

第20次調査

| | |
|------|---------|
| 遺構： | 中世大溝 |
| 層位： | 第4-c層 |
| 土色： | 暗灰粘 |
| 取上： | — |
| No.: | 551 |
| 様式： | 大和第IV様式 |
| 残存長： | 9.4 |
| 残存幅： | 9.4 |



113 絵画土器（不明）

本絵画土器は、大和第V様式の器台脛部に描かれたものである。南東端の第72次調査の環濠などから出土した。第2破片は縦線内を綾杉文で充填するものと少し間隔をあけて右に半円状を2重線で描きその内部を斜線で充填する。第1・3破片は細描きの曲線・直線を交えた線刻で描かれているが、ミガキにより一部絵画が消されている。

113-2

| | |
|------|--------|
| 遺構： | — |
| 層位： | — |
| 土色： | 茶灰色土 |
| 取上： | — |
| No.: | 2 |
| 様式： | 大和第V様式 |
| 残存長： | 7.9 |
| 残存幅： | 10.6 |



本絵画土器は、大和第V様式の壺脣部に描かれたものである。南地区の第61次調査の井戸から出土した。4片が残存する。第1破片は対になる蕨手状の渦文2つの下側に三角文と渦文を表現している。第2の破片は中央の小さな楕円形部分から弧状線が垂下しその下に鋸歯文を描いたもので、鋸歯文部分は横方向のナデによって一部消されている。これら2片の特徴は、渦文の輪郭をヘラの刺突によって形づくるところで、この手法は建物絵画の棟飾りの渦文にみられる手法である。このほか、第3破片では横向きの綾杉文、第4破片では長さが異なる縦線が5本描かれている。

114-1

| | |
|------|--------|
| 遺構： | SK-106 |
| 層位： | 第3層 |
| 土色： | 黒色粘砂 |
| 取上： | — |
| No.: | 471 |
| 様式： | 大和第V様式 |
| 残存長： | 9.3 |
| 残存幅： | 7.9 |

115 絵画土器（不明）

本絵画土器は、弥生時代後期の壺頸部に描かれたものである。南地区の第63次調査の落ち込み状遺構から出土した。3片のうち1片に絵画が残存する。いずれも肩部に竹管文を巡らせており。この竹管文に重なるようにヘラ先が2本になった工具で線刻しており、右方向に流れるように羽状表現で表している。

| |
|-----------|
| 第63次調査 |
| 遺構：落ち込みⅠ |
| 層位：第1層 |
| 土色：暗褐色粘質土 |
| 取上：— |
| No：58 |
| 時代：弥生時代後期 |
| 残存長：6.0 |
| 残存幅：8.2 |



MP-絵画-0140

116 絵画土器（不明）

本絵画土器は、大和第V様式の短頸壺頸部に描かれたものである。南地区の第69次調査の黒褐色土層から出土した。不整形な輪郭線の外側に短線を7本以上放射状に表現したもので、意匠はわからない。

| |
|-----------|
| 第69次調査 |
| 遺構：— |
| 層位：— |
| 土色：黒褐色土 |
| 取上：— |
| No：1132 |
| 様式：大和第V様式 |
| 残存長：5.5 |
| 残存幅：7.3 |



MP-絵画-0153

117 絵画土器（S字文・不明）



MP-絵画-0119



絵画模式図



本絵画土器は、大和第V-2様式の広口壺頸部に描かれたものである。南東端の第91次調査の環濠から出土した。絵画は複数あり、横方向に長く伸ばした「S」字文とその左に2条の斜線・短い横線の組み合わせがある。この「S」字文は龍の可能性があるだろう。

| |
|-------------|
| 第91次調査 |
| 遺構：SD-101B |
| 層位：第6(下)層 |
| 土色：黒灰色粘砂 |
| 取上：その2 |
| No：347 |
| 様式：大和第V-2様式 |
| 口径：14.6 |
| 残存高：11.2 |

118 絵画土器（不明）

118



MP-絵画-0142

本絵画土器は、大和第IV-2様式の短頸壺に描かれたと思われるものである。南地区の第69次調査の区画溝などから出土した。絵画は3片が残存し、第1破片は弧状線に綾杉文を充填したもの、第2破片は放射状、第3破片は2重の弧状線に斜線を付加したものである。いずれも何を表現しているかわからない。

118-1

第69次調査

遺構：SD-1104

層位：第2層

土色：暗灰褐色粘質土

取上： —

№：439

様式：大和第IV-2様式

残存長：6.0

残存幅：7.6

119



MP-絵画-0116

119 絵画土器（不明）

本絵画土器は、大和第V様式の広口壺の頸部に描かれたものである。南端の第69次調査の環濠から出土した。2つ以上の不明絵画で構成されている。左側の絵画は、3本の斜線が合わさったもので中央の線刻の下方が三叉状になっている。省略あるいは退化した絵画であろう。右側の線刻は、左上がりの斜線1本である。

第69次調査

遺構：SD-1109

層位：第5層

土色： —

取上：土-2544

№：313

様式：大和第V様式

口径：29.3

残存高：12.9

120



MP-絵画-0144

120 絵画土器（不明）

本絵画土器は、弥生時代後期の壺に描かれたものである。南地区の第69次調査の区画溝から出土した。小片のため、全体像は不明である。2重の弧状線の内側に短い斜線がつくものである。

第69次調査

遺構：SD-1103

層位：第1層

土色：黒褐色土

取上： —

№：383

時代：弥生時代後期

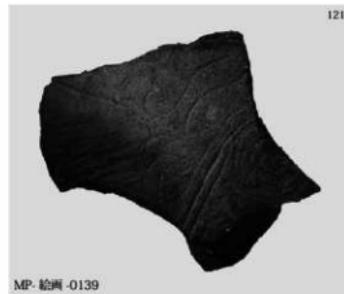
残存長：4.0

残存幅：4.0

121 絵画土器（不明）

本絵画土器は、大和第V様式の壺胴部に描かれたものである。南地区の第63次調査の落ち込み状遺構から出土した。絵画は複数からなっており、胴部上端には波状線、中央左側には2段になった逆「U」字形あるいはヒレ状と表現すれば良いような線刻、その右側には下方から右上方へ蔽手文状の太描きの線刻がある。

| |
|-----------|
| 第63次調査 |
| 遺構：落ち込みI |
| 層位：第2層 |
| 土色：灰褐色 |
| 取上：— |
| No：86 |
| 様式：大和第V様式 |
| 残存長：9.8 |
| 残存幅：12.1 |

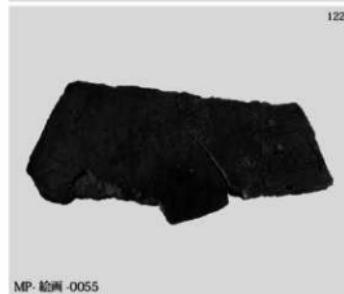


MP-絵画-0139

122 絵画土器（不明）

本絵画土器は、弥生時代後期の壺胴部に描かれたものである。中央区の第53次調査の黒色土層から出土した。絵画は、3段の横帯を斜格文で充填するもので、最下段は2本線、左端の区画線は横帯より上下に伸びている。

| |
|-----------|
| 第53次調査 |
| 遺構：— |
| 層位：— |
| 土色：黒色土 |
| 取上：— |
| No：22 |
| 時代：弥生時代後期 |
| 残存長：5.5 |
| 残存幅：12.3 |



MP-絵画-0055

123 絵画土器（不明）

本絵画土器は、大和第VI様式の長頸壺の頸部に描かれたものである。南地区の第69次調査の区画溝などから出土した。第1破片は、鹿の角状に分岐する直線で構成されるが、直線の向きと大きさから鹿の角ではなかろう。第2破片は、左上がりの2本の斜線の間に斜格文を充填するものである。いずれも線刻は細く鋭利である。

| |
|------------|
| 第69次調査 |
| 遺構：SD-1104 |
| 層位：第2層 |
| 土色：— |
| 取上：土-266 |
| No：288 |
| 様式：大和第VI様式 |
| 残存長：8.4 |
| 残存幅：7.7 |



MP-絵画-0141

124 絵画土器（不明）

本絵画土器は、大和第VI-3様式の台付鉢に描かれたものである。南地区の第69次調査の黒褐色土層から出土した。鉢部外面の4ヶ所に放射状に描かれており、土器表面の状態が不良で、線刻も極めて細い。線刻の一部は消されている可能性がある。「E」字形を横にしたような線刻と弧帶文風の部分を省略したような線刻である。

| |
|--------------|
| 第69次調査 |
| 遺構：— |
| 層位：— |
| 土色：黒褐色土 |
| 取上：— |
| No：114 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 口 径：29.3 |
| 残存高：12.9 |



MP-絵画-0115

**001 記号土器（曲線：F-C₁）**

本記号土器は、大和第Ⅰ-2様式の広口壺の頸部上半に浮文により表したものである。西地区中央部の第20次調査の土坑から出土した。壺の頸胸部で、頸胸部界には段を、頸部下半はヘラ描直線文を1条巡らす。記号は、逆「U」字形の粘土紐を貼付したもので、周囲は粗雑なミガキによって仕上げられている。

| |
|-------------|
| 第20次調査 |
| 遺構：SK-215 |
| 層位：第2(下)層 |
| 土色：灰黒粘 |
| 取上：土-1200 |
| No.：705 |
| 様式：大和第Ⅰ-2様式 |
| 残存長：20.9 |
| 残存幅：23.2 |

**002 記号土器（曲線：K-D₂）**

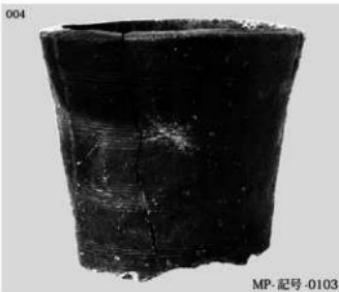
本記号土器は、大和第Ⅱ-2様式の広口長頸壺の頸部に櫛描きにより表したものである。中央区の第53次調査の落ち込み状遺構から出土した。口縁部を欠損する。4条1単位の櫛描直線文を頸部に5帯、頸部に2帯巡らす。記号は前述櫛描原体で、最下段の櫛描文から下方へ描く。対置方向に逆「C」字形の記号を2つと3つ重ねる。

| |
|-------------|
| 第53次調査 |
| 遺構：SR-101A |
| 層位：第4(上)層 |
| 土色：— |
| 取上：土-402 |
| No.：319 |
| 様式：大和第Ⅱ-2様式 |
| 残存高：29.1 |
| 胴径：21.1 |

**003 記号土器（直線：G-B₁'）**

本記号土器は、大和第Ⅱ-3様式の器台の口縁部内面に後刻したものである。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。広口長頸壺の頸部下半が欠損した後、破面を研磨し転用したものである。口縁端部には櫛描波状文、頸胸部には直線文を巡らす。記号は石器などで、口縁部内面や頸部側に「X」字形を太く刻んでいる。

| |
|-------------|
| 第37次調査 |
| 遺構：SK-2116 |
| 層位：第4層 |
| 土色：— |
| 取上：土-401 |
| No.：1091 |
| 様式：大和第Ⅱ-3様式 |
| 高さ：22.6 |
| 復元口径：29.3 |

**004 記号土器（直線：G-B₁'）**

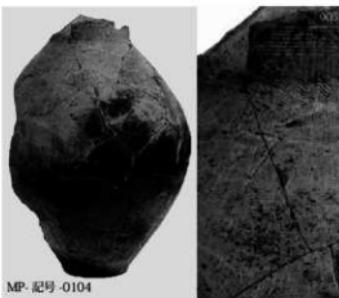
本記号土器は、大和第Ⅱ-3様式の細頸壺の頸部に後刻したものである。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。壺の口縁部から頸部の破片である。頸部には櫛描直線文4帯を巡らす。記号は石器などで、上から2段目の櫛描文上に重ねて「X」字形に小さく刻むが、目立たない。

| |
|-------------|
| 第37次調査 |
| 遺構：SK-2116 |
| 層位：第4層 |
| 土色：植物層 |
| 取上：— |
| No.：1085 |
| 様式：大和第Ⅱ-3様式 |
| 口径：13.2 |
| 残存高：12.0 |

005 記号土器（直線：G-B''₂）

本記号土器は、大和第III-3様式の細頸壺の胴部上半に後刻したものである。西地区北部の第37次調査の土坑から出土した。口頸部と胴部の一部を欠損する。頸胴部には櫛描直線文、頸胴部界に波状文を巡らす。煤の付着がある。記号は石器などで、胴部最上段の直線文上に重ねて右上がり三叉形を小さく刻むが、ほとんど目立たない。

| |
|---------------|
| 第37次調査 |
| 遺構：SK-2114 |
| 層位：第4層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：— |
| No.：282 |
| 様式：大和第III-3様式 |
| 残存高：32.2 |
| 口径：25.0 |

006 記号土器（直線：G-B''₂）

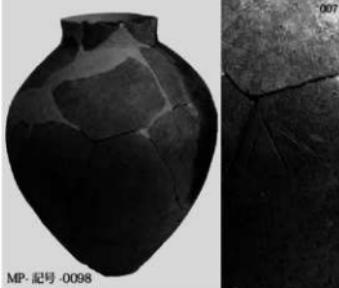
本記号土器は、大和第IV-1様式の高环の环部に後刻したものである。南地区の第33次調査の黒色粘質土層から出土した。环部と脚部の一部を欠損するが、ほぼ全形がわかる。口縁部には1条の凹線文を巡らす。器面の保存状態は悪い。記号は石器などで、环部外面中央に下向きの三叉形を刻むが、ほとんど目立たない。

| |
|--------------|
| 第33次調査 |
| 遺構：— |
| 層位：第IV(上)層 |
| 土色：黒色粘質土 |
| 取上：— |
| No.：630 |
| 様式：大和第IV-1様式 |
| 口径：15.7 |
| 高さ：16.9 |

007 記号土器（直線：G-B''₂）

本記号土器は、大和第IV-1様式の壺の胴部中央に後刻したものである。南地区の第61次調査の壺棺本体である。壺の口頸部と胴部の一部を欠損する。頸胴部界にヘラ書きの刺突文を巡らす。胴部上半は細条のタタキ後ハケ、下半はケズリを施す。記号は石器などで、ほぼ上向きの三叉形を刻む。右端の線刻は浅く、複数の線刻が重なる。

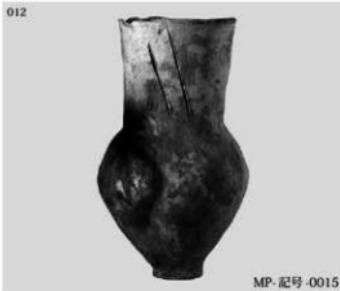
| |
|--------------|
| 第61次調査 |
| 遺構：SX-101 |
| 層位：第1層 |
| 土色：— |
| 取上：土-101 |
| No.：490 |
| 様式：大和第IV-1様式 |
| 残存高：37.0 |
| 口径：30.0 |

008 記号土器（曲線：F-C₁）

本記号土器は、大和第IV-1様式の有段口縁壺の胴部上半に浮文により表したものである。北地区の第48次調査の土器集積遺構から出土した。壺の口縁部から胴部上半の破片で、口縁部に4条の凹線文、頸胴部界にはハケ原体による刺突文を巡らす。記号は「C」字形に粘土紐を貼付するが、強く押捺するため平たくなり、目立たない。

| |
|--------------|
| 第48次調査 |
| 遺構：SX-1102 |
| 層位：— |
| 土色：— |
| 取上：— |
| No.：85 |
| 様式：大和第IV-1様式 |
| 口径：19.9 |
| 残存高：19.3 |





009 記号土器（直線：H-B''₁+H-B''₁）

本記号土器は、大和第IV-1様式の高壺の脚裾部に線刻したものである。西地区北部の第13次調査の井戸から出土した。完形の高壺で、口縁部には3条の凹線文、脚裾部には2孔一対の小円透孔を3方に配置する。記号は逆「V」字形を2つ並列させ、裾が開いた「M」字形のような形態になっている。

| |
|--------------|
| 第 13 次調査 |
| 遺構：SK-07 |
| 層位：第1層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：土-106 |
| No. : 529 |
| 様式：大和第IV-1様式 |
| 口径：12.0 |
| 高さ：12.3 |

010 記号土器（直線：H-A₁）

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺胴部上半に線刻したものである。北東端の第24次調査の環濠から出土した。ほぼ完形の壺で、胴部下半には煙が付着する。外面はハケ調整で仕上げる。記号は、胴部上端から下方へ縦線1本を刻んだものである。

| |
|--------------|
| 第 24 次調査 |
| 遺構：SD-107 |
| 層位：第3層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：土-326 |
| No. : 170 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：20.7 |
| 胴径：21.0 |

011 記号土器（直線：H-A₂）

本記号土器は、大和第VI-1様式の短頸壺の頸胴部に線刻したものである。南端の第33次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は、頸部から胴部上半にかけて縦線2本を深く大きく刻んだものである。

| |
|--------------|
| 第 69 次調査 |
| 遺構：SD-1109 |
| 層位：第5層 |
| 土色：— |
| 取上：土-1505 |
| No. : 313 |
| 様式：大和第VI-1様式 |
| 高さ：18.8 |
| 胴径：15.0 |

012 記号土器（直線：H-A₂）

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺頸部に線刻したものである。南端の第33次調査の井戸から出土した。ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げる。記号は、口縁部直下から頸部下端までやや斜めの縦線2本を太く大きく刻んだものである。

| |
|--------------|
| 第 33 次調査 |
| 遺構：SK-125 |
| 層位：第3層 |
| 土色：— |
| 取上：土-350 |
| No. : 493 |
| 様式：大和第VI-2様式 |
| 高さ：20.3 |
| 胴径：11.9 |

013 記号土器（直線：H-A₂）

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺胴部に線刻したものである。南地区の第33次調査の井戸から出土した。ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整を施した後、記号を刻む。記号は、胴部上端から底部近くまで縦線2本を大きく刻んだものである。

| |
|--------------|
| 第33次調査 |
| 遺構：SK-125 |
| 層位：第3層 |
| 土色：一 |
| 取上：土-355 |
| No：493 |
| 様式：大和第VI-2様式 |
| 高さ：22.2 |
| 胸径：11.0 |

014 記号土器（直線：H-A₂）

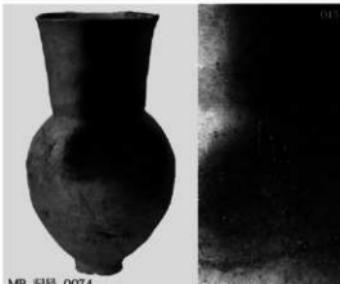
本記号土器は、大和第VI-3様式の長頸壺胴部上半に線刻したものである。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。完形の壺である。外面は、記号線刻後にミガキ調整で仕上げる。記号は胴部に縦線2本を刻んだものである。

| |
|--------------|
| 第14次調査 |
| 遺構：SK-106 |
| 層位：下層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：土-d |
| No：37 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：19.3 |
| 胸径：12.4 |

015 記号土器（直線：H-A₃）

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺胴部に線刻したものである。西端の第62次調査の環濠から出土した。完形の壺である。外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は、胴部上端に短い縦線3本を刻んだものである。

| |
|--------------|
| 第62次調査 |
| 遺構：SD-101 |
| 層位：第2層 |
| 土色：一 |
| 取上：土-223 |
| No：106 |
| 様式：大和第VI-2様式 |
| 高さ：24.4 |
| 胸径：14.0 |

016 記号土器（直線：H-A₄）

本記号土器は、大和第V-1様式の広口壺頸部に線刻したものである。南東端の第47次調査の環濠から出土した。口縁部と胴部一部欠損、胴部の器面に剥落がみられるが、ほぼ完形の壺である。胴部下半に煤の付着がみられる。外面はハケ調整後粗雑なミガキ調整をおこなう。記号は、頸部に縦線4本をやや鋭利なへらで線刻する。

| |
|-------------|
| 第47次調査 |
| 遺構：SD-2101 |
| 層位：第8層 |
| 土色：一 |
| 取上：土-872 |
| No：389 |
| 様式：大和第V-1様式 |
| 高さ：31.4 |
| 胸径：22.8 |



017 記号土器（直線：H-A₄）

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺胴部に線刻したものである。西地区中央部の第74次調査の井戸から出土した。完形の壺である。外面はナデ調整で仕上げる。記号は胴部上端に、短い縦線4本を線刻する。

| |
|--------------|
| 第74次調査 |
| 遺構：SK-119 |
| 層位：第3層 |
| 土色：— |
| 取上：土-329 |
| No.：662 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：17.0 |
| 胴径：14.2 |

018 記号土器（直線：H-A₄）

本記号土器は、大和第VI-3様式の長頸壺胴部に線刻したものである。南東端の第76次調査の環濠から出土した。ほぼ完形の壺である。外面はナデ調整で仕上げる。記号は、胴部上端に細描きで短い縦線を4本刻んだものである。

| |
|--------------|
| 第76次調査 |
| 遺構：SD-1106 |
| 層位：第2層 |
| 土色：— |
| 取上：土-206 |
| No.：104 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：16.4 |
| 胴径：11.6 |

019 記号土器（直線：H-A₃）

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺胴部に線刻したものである。西地区中央部の第74次調査の井戸から出土した。完形の壺である。外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は、胴部上端に細描きで縦線5本を浅く刻んだものである。

| |
|--------------|
| 第74次調査 |
| 遺構：SK-119 |
| 層位：第5層 |
| 土色：— |
| 取上：土-504 |
| No.：691 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：17.6 |
| 胴径：15.0 |

020 記号土器（直線：H-A'₂）

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺頸部に線刻したものである。南地区の第33次調査の井戸から出土した。口縁部・胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げる。記号は、頸部下位にやや右下がりの太めの横線2本を刻んだものである。

| |
|--------------|
| 第33次調査 |
| 遺構：SK-125 |
| 層位：第3層 |
| 土色：— |
| 取上：土-330 |
| No.：420 |
| 様式：大和第VI-2様式 |
| 高さ：30.3 |
| 胴径：16.5 |

021 記号土器（直線：H-A'₃）

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺頸部に線刻したものである。南端の第33次調査の環濠から出土した。口頸部の破片である。外面はハケ調整で仕上げる。記号は、頸部中央にやや太めの横線3本を刻んだものである。

| |
|--------------|
| 第33次調査 |
| 遺構：SD-109 |
| 層位：第5(下)層 |
| 土色：— |
| 取上：土-5376 |
| No.：341 |
| 様式：大和第VI-2様式 |
| 口 径：12.6 |
| 残存高：11.7 |



MP- 記号 -0010

022 記号土器（直線の組合せ：H-A''₄）

本記号土器は、大和第VI-1様式の長頸壺胴部に線刻したものである。南端の第69次調査の環濠から出土した。口縁部を欠損するが、ほぼ完形の壺で、胴部中央に穿孔がみられる。頸胴部界に刺突文を巡らす。外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は、胴部上端に横線1本と縱線4本を組み合わせたものである。

| |
|--------------|
| 第69次調査 |
| 遺構：SD-1109 |
| 層位：第5層 |
| 土色：— |
| 取上：土-580 |
| No.：313 |
| 様式：大和第VI-1様式 |
| 残存高：20.0 |
| 胴 径：14.5 |



MP- 記号 -0049

023 記号土器（直線の組合せ：H-A''₆）

本記号土器は、大和第VI-1様式の長頸壺胴部に線刻したものである。西地区北部の第79次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面全体はナデ調整、胴部中央から下半はミガキ調整で仕上げる。記号は胴部上半に大きく線刻され、横線1本と縱線6本を組み合わせたものである。

| |
|--------------|
| 第79次調査 |
| 遺構：SK-120 |
| 層位：第5層 |
| 土色：— |
| 取上：土-503 |
| No.：527 |
| 様式：大和第VI-1様式 |
| 高さ：28.2 |
| 胴径：17.3 |



MP- 記号 -0056

024 記号土器（直線の組合せ：H-A''₆）

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺胴部に線刻したものである。北西端の第13次調査の環濠から出土した。口縁部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。頸胴部に煤の付着がみられる。外面はハケ調整で仕上げる。記号は、胴部上半に横線1本と縱線6本を組み合わせたものである。

| |
|--------------|
| 第13次調査 |
| 遺構：SD-04 |
| 層位：中層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：土-06 |
| No.：144 |
| 様式：大和第VI-2様式 |
| 残存高：18.4 |
| 胴 径：13.7 |



MP- 記号 -0001



025 記号土器（直線の組合せ：H-A₃+H-A'₂）

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺脇部に線刻したものである。南地区の第33次調査の井戸から出土した。完形の壺（脇部下半の器面一部剥落）である。外面はハケ調整で仕上げる。記号は、脇部上端に横線2本と縦線3本を組み合わせたものである。

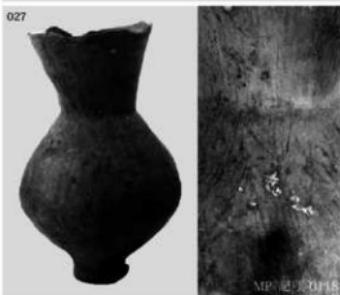
| |
|--------------|
| 第33次調査 |
| 遺構：SK-125 |
| 層位：第3層 |
| 土色：— |
| 取上：土-356 |
| No.：493 |
| 様式：大和第VI-2様式 |
| 高さ：24.7 |
| 胸径：13.1 |



026 記号土器（直線の組合せ：H-A'₂+A₁）

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺脇部に線刻したものである。南地区の第63次調査の井戸から出土した。ほぼ完形の壺で、脇部下半に煤の付着がみられる。外面はミガキ調整で仕上げる。使用による摩滅痕が底部にみられる。記号は、脇部上半に縦線1本とやや左下がりの横線2本を組み合わせたものである。

| |
|--------------|
| 第63次調査 |
| 遺構：SK-106 |
| 層位：第2層 |
| 土色：— |
| 取上：土-207 |
| No.：181 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：19.9 |
| 胸径：19.5 |



027 記号土器（直線の組合せ：H-B'',₁）

本記号土器は、大和第V-1様式の長頸壺脇部に線刻したものである。西地区中央部の第74次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はハケ後、ミガキ調整で仕上げる。記号は脇部上端に「V」字状の記号を浅く描く。

| |
|-------------|
| 第74次調査 |
| 遺構：SK-118 |
| 層位：第3層 |
| 土色：— |
| 取上：土-301 |
| No.：529 |
| 様式：大和第V-1様式 |
| 高さ：34.5 |
| 胸径：21.6 |



028 記号土器（直線：H-B'',₂）

本記号土器は、大和第V-2様式の長頸壺脇部に線刻したものである。南端の第69次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げる。記号は、脇部中央に上向きの三叉形を大きく線刻する。また、記号の左上部分の頸脇部界の凸帯にも6つの不明瞭な刻目を入れる。

| |
|-------------|
| 第69次調査 |
| 遺構：SD-1109 |
| 層位：第5(下)層 |
| 土色：— |
| 取上：土-6562 |
| No.：548 |
| 様式：大和第V-2様式 |
| 高さ：28.9 |
| 胸径：15.5 |

029 記号土器（直線：H-B''₂）

本記号土器は、大和第VI-1様式の長頸壺胴部に線刻したものである。南端の第69次調査の環濠から出土した。口縁部・胴底部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げる。記号は、胴部上端にやや雑な上向きの三叉形を線刻する。

| |
|--------------|
| 第 69 次調査 |
| 遺構：SD-1109 |
| 層位：第5(下)層 |
| 土色：一 |
| 取上：土-6508 |
| No. : 548 |
| 様式：大和第VI-1様式 |
| 残存高：22.0 |
| 胸 径：15.0 |



MP- 記号 -0044

029

030 記号土器（直線：H-B''₂）

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺胴部に線刻したものである。南端の第33次調査の環濠から出土した。口縁部・胴底部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げる。記号は、胴部上端に上向きの三叉形を線刻する。

| |
|--------------|
| 第 33 次調査 |
| 遺構：SD-109 |
| 層位：第5(下)層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：一 |
| No. : 354 |
| 様式：大和第VI-2様式 |
| 高さ：20.8 |
| 胸径：15.0 |



MP- 記号 -0017

030

031 記号土器（直線の組合せ：H-B''₃）

本記号土器は、大和第VI-3様式の長頸壺の胴部に線刻したものである。南地区の第63次調査の井戸から出土した。ほぼ完形の壺である。外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は、胴部上半に上向きの三叉形に斜線1本を付加したものである。

| |
|--------------|
| 第 63 次調査 |
| 遺構：SK-105 |
| 層位：第2層 |
| 土色：一 |
| 取上：土-202 |
| No. : 211 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：21.1 |
| 胸径：12.0 |



MP- 記号 -0091

031

032 記号土器（直線：H-B''₇）

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺頸部にヘラ描きしたものである。南地区の第33次調査の井戸から出土した。口縁部と胴部の一部のみ残存する。外面は記号線刻後にミガキ調整で仕上げる。記号は太描きで、頸部中央に縱方向のジグザグ状線を線刻する。

| |
|--------------|
| 第 33 次調査 |
| 遺構：SK-133 |
| 層位：第2(下)層 |
| 土色：一 |
| 取上：土-205 |
| No. : 508 |
| 様式：大和第VI-2様式 |
| 口 径：11.9 |
| 復元高：18.3 |



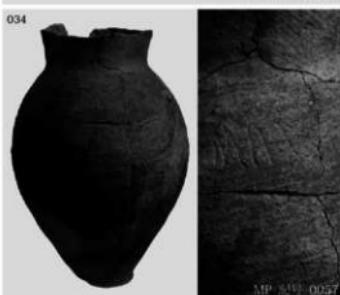
MP- 記号 -0009

032

033 記号土器（直線：H-B_N）

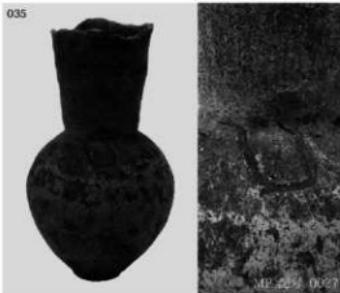
本記号土器は、大和第VI-1様式の長頸壺の胴部に線刻したものである。南端の第69次調査の環濠から出土した。胴部の一部と底部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。胴部下半に穿孔がみられる。外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は、胴部上半に左下がりのランダムな斜線を9本程度線刻する。

| |
|--------------|
| 第 69 次調査 |
| 遺構：SD-1109 |
| 層位：第5(下)層 |
| 土色：— |
| 取上：土-6502 |
| No. : 548 |
| 様式：大和第VI-1様式 |
| 残存高：21.9 |
| 胴 径：13.8 |

034 記号土器（直線：H-B''_{6N}）

本記号土器は、大和第V-2様式の短頸壺の胴部に線刻したものである。南端の第69次調査の環濠から出土した。口頸部と底部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はタタキ成形後、胴下半をミガキ調整で仕上げる。胴部に煤の付着がある。記号は、胴部上半に横方向にジグザグ状に線刻するが、浅くほとんど目立たない。

| |
|-------------|
| 第 69 次調査 |
| 遺構：SD-1109 |
| 層位：第6層 |
| 土色：— |
| 取上：土-643 |
| No. : 848 |
| 様式：大和第V-2様式 |
| 残存高：30.9 |
| 胴 径：21.1 |

035 記号土器（曲線：H-C₁）

本記号土器は、大和第VI-1様式の長頸壺胴部に線刻したものである。西地区北部の第79次調査の井戸から出土した。口縁部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げるが、使用による摩滅痕が胴部中央から底部にみられる。胴部上半に小動物爪圧痕がある。記号は、胴部上端に「U」字形を太く線刻する。

| |
|--------------|
| 第 79 次調査 |
| 遺構：SK-120 |
| 層位：第6層 |
| 土色：— |
| 取上：土-601 |
| No. : 535 |
| 様式：大和第VI-1様式 |
| 残存高：29.6 |
| 胴 径：17.1 |

036 記号土器（曲線：H-C₁）

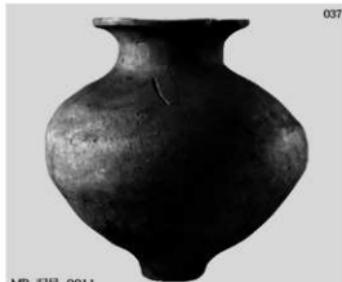
本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺胴部に線刻したものである。南地区の第33次調査の井戸から出土した。ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げる。記号は、胴部上端に2度描きによる「U」字形を線刻する。

| |
|--------------|
| 第 33 次調査 |
| 遺構：SK-133 |
| 層位：第3層 |
| 土色：— |
| 取上：土-302 |
| No. : 33 |
| 様式：大和第VI-2様式 |
| 高さ：19.4 |
| 胴径：12.0 |

037 記号土器（曲線：H-C₁）

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺胴部に線刻したものである。南地区の第33次調査の井戸から出土した。ほぼ完形（口縁一部欠損）の壺である。外面はハケ調整で仕上げる。記号は、胴部上端に「U」字形を線刻する。

| |
|--------------|
| 第33次調査 |
| 遺構：SK-114 |
| 層位：第5層 |
| 土色：一 |
| 取上：土・504 |
| No.：476 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：20.5 |
| 胸径：21.1 |



037

038 記号土器（曲線：H-C₁）

本記号土器は、大和第VI-3様式の長頸壺胴部に線刻したものである。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げる。記号は、胴部上半に逆「U」字形を大きく線刻する。

| |
|--------------|
| 第14次調査 |
| 遺構：SK-106 |
| 層位：下層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：土・21 |
| No.：38 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：20.1 |
| 胸径：11.1 |



038

039 記号土器（曲線：F-C₁）

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺の胴部に浮文により表したものである。南地区の第63次調査の井戸から出土した。完形の壺である。外面はハケ後ナデ調整で仕上げるが、煤が厚く付着する。記号は胴部上半に、平坦な粘土紐を逆「U」字形に貼付するが、右端のみ残存する。

| |
|--------------|
| 第63次調査 |
| 遺構：SK-106 |
| 層位：第2層 |
| 土色：一 |
| 取上：土・210 |
| No.：181 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：21.4 |
| 胸径：18.7 |



039

040 記号土器（曲線：F-C₁）

本記号土器は、大和第VI-4様式の広口壺胴部に浮文により表したものである。北東端の第34次調査の環濠から出土した。口縁部欠損、胴部下半に器面剥落がみられるが、ほぼ完形の盆地東南部産の壺である。外面はナデ調整で仕上げる。記号は、胴部上半中央に逆「U」字形の粘土紐を貼付する。

| |
|--------------|
| 第34次調査 |
| 遺構：SD-102 |
| 層位：第3層 |
| 土色：灰粘 |
| 取上：一 |
| No.：58 |
| 様式：大和第VI-4様式 |
| 残存高：20.7 |
| 胸径：20.5 |



040



041 記号土器 (F-C₁)

本記号土器は、大和第VI-4様式の広口壺胴部に浮文により表したものである。北東端の第34次調査の環濠から出土した。底部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。胴部中央に穿孔がみられる。外面はナデ調整で仕上げる。記号は、胴部上半に逆「U」字形の粘土紐を貼付する。

第34次調査

| | |
|-----|-----------|
| 遺構 | SD-103 |
| 層位 | 第1層 |
| 土色 | 黒色粘質土 |
| 取上 | — |
| No. | 65 |
| 様式 | 大和第VI-4様式 |
| 復元高 | 14.2 |
| 胸径 | 13.7 |

042 記号土器 (曲線 : K-C_N)

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺頸部に櫛描きしたものである。南地区的第33次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損し、胴部中央の一部に器面剥落があるが、ほぼ完形の壺である。外面はナデ調整で仕上げる。記号は、頸部中央に櫛描波状文を1/3周ほど施文する。

第33次調査

| | |
|-----|-----------|
| 遺構 | SK-125 |
| 層位 | 第3層 |
| 土色 | 黒粘 |
| 取上 | 土-344 |
| No. | 438 |
| 様式 | 大和第VI-2様式 |
| 高さ | 22.6 |
| 胸径 | 14.2 |

043 記号土器 (曲線 : K-C_N)

本記号土器は、大和第VI-3様式の長頸壺胴部に櫛描きしたものである。南地区的第69次調査の井戸から出土した。ほぼ完形の壺である。外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は、胴部上端に櫛描波状文を1/3周ほど施文する。

第69次調査

| | |
|-----|-----------|
| 遺構 | SK-1128 |
| 層位 | 第2層 |
| 土色 | — |
| 取上 | 土-209 |
| No. | 1840 |
| 様式 | 大和第VI-3様式 |
| 高さ | 16.4 |
| 胸径 | 11.5 |

044 記号土器 (曲線 : H-D₁)

本記号土器は、大和第V-2様式の長頸壺胴部に線刻したものである。南端の第69次調査の環濠から出土した。口縁部をわずかに欠損するが、ほぼ完形の壺である。記号は、胴部上端に「ノ」字形を小さく線刻し、その後ミガキ調整で仕上げる。

第69次調査

| | |
|-----|----------|
| 遺構 | SD-1109 |
| 層位 | 第6層 |
| 土色 | — |
| 取上 | 土-620 |
| No. | 848 |
| 様式 | 大和第V-2様式 |
| 高さ | 23.7 |
| 胸径 | 14.3 |

045 記号土器（曲線：H-D₁）

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺胴部に線刻したものである。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。ほぼ完形の壺である。外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。胴部下半から底部には使用による摩滅がみられる。記号は、胴部上端に逆「ノ」字形を深く線刻する。

| |
|--------------|
| 第14次調査 |
| 遺構：SK-101 |
| 層位：最下層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：土-03 |
| No.：3 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：22.1 |
| 胸径：18.4 |



045

046 記号土器（曲線：H-C₂）

本記号土器は、大和第VI-3様式の小形の短頸壺胴部に線刻したものである。西端の第62次調査の環濠から出土した。ほぼ完形の壺である。外面はハケ調整で仕上げる。記号は、胴部上半に逆「C」字形を2つ重ねたような線刻である。

| |
|--------------|
| 第62次調査 |
| 遺構：SD-101 |
| 層位：第2層 |
| 土色：— |
| 取上：土-242 |
| No.：106 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：12.9 |
| 胸径：10.4 |



046

047 記号土器（曲線：H-D₃）

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺胴部に線刻したものである。南地区の第49次調査の井戸から出土した。完形の壺である。外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は、胴部上端に逆「ノ」字形を3つ重ねる。

| |
|--------------|
| 第49次調査 |
| 遺構：SK-111 |
| 層位：第6層 |
| 土色：— |
| 取上：土-601 |
| No.：143 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：19.0 |
| 胸径：16.3 |



047

048 記号土器（曲線：H-D'₁）

本記号土器は、大和第V-2様式の長頸壺頸部に線刻したものである。南端の第69次調査の環濠から出土した。口頸部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げる。壺全体に煤が付着する。記号は、頸部中央に右端が収束しない上向きの三日月形を線刻する。

| |
|-------------|
| 第69次調査 |
| 遺構：SD-1109 |
| 層位：第6層 |
| 土色：— |
| 取上：土-602 |
| No.：848 |
| 様式：大和第V-2様式 |
| 高さ：26.8 |
| 胸径：14.2 |



048

**049 記号土器（曲線：H-D₁）**

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺胴部に線刻したものである。北東端の第34次調査の環濠から出土した。胴部上半に一部器面の剥落がみられるが、完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げる。記号は胴部上半に、右端が収束しない下向きの三日月形を線刻する。

| |
|--------------|
| 第34次調査 |
| 遺構：SD-103 |
| 層位：第2層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：— |
| No.：77 |
| 様式：大和第VI-2様式 |
| 高さ：24.2 |
| 胴径：13.8 |

**050 記号土器（曲線：H-C₂）**

本記号土器は、大和第V-1様式の長頸壺頸部に線刻したものである。北西端の第13次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げる。記号は、頸部中央に「し」字形を2重に線刻する。

| |
|-------------|
| 第13次調査 |
| 遺構：SD-06B |
| 層位：第4層 |
| 土色：灰黒粘 |
| 取上：土-401 |
| No.：335 |
| 様式：大和第V-1様式 |
| 高さ：26.6 |
| 胴径：15.5 |

**051 記号土器（曲線：K-F₂）**

本記号土器は、大和第VI-1様式の長頸壺胴部に線刻したものである。南地区の第69次調査の区画溝から出土した。胴部下半の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は、櫛状工具で胴部上半に逆「し」字形を2重に線刻する。

| |
|--------------|
| 第69次調査 |
| 遺構：SD-1102 |
| 層位：第2(下)層 |
| 土色：— |
| 取上：土-1252 |
| No.：1250 |
| 様式：大和第VI-1様式 |
| 高さ：25.0 |
| 胴径：14.6 |

**052 記号土器（曲線：H-C₂）**

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺胴部に線刻したものである。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。胴部中央の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。胴部上半ハケ後、「し」字形を2重に小さく線刻する。記号を除いた部分はミガキ調整で仕上げる。また、口縁端部に2つの刻目を施す。

| |
|--------------|
| 第37次調査 |
| 遺構：SK-2121 |
| 層位：第7層 |
| 土色：黒灰粘 |
| 取上：土-703 |
| No.：416 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：25.9 |
| 胴径：23.9 |

053 記号土器（曲線：H-C₄）

本記号土器は、大和第VI-3様式の小形長頸壺胸部に線刻したものである。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。完形の壺である。外面はハケ調整で仕上げる。記号は、胴部下半に大きく円形を4方に線刻するが、円形の下側が収束していないため、逆「U」字形ともみらわれるものである。

| |
|--------------|
| 第14次調査 |
| 遺構：SK-106 |
| 層位：中層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：土-32 |
| No.：49 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：14.6 |
| 胸径：10.3 |

054 記号土器（曲線：T-G₁）

本記号土器は、大和第V-2様式の長頸壺の胸部に印刻したものである。南東端の第91次調査の環濠から出土した。ほぼ完形の壺で、外面はハケ後ミガキ調整で仕上げる。記号は対置するように円形の竹管文1つずつを胸部上半に押捺する。

| |
|-------------|
| 第91次調査 |
| 遺構：SD-101B |
| 層位：第6(下)層 |
| 土色：一 |
| 取上：土-2687 |
| No.：361 |
| 様式：大和第V-2様式 |
| 高さ：20.0 |
| 胸径：12.8 |

055 記号土器（曲線：S-G₂）

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺胸部に印刻したものである。西地区中央部の第74次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はハケ調整で仕上げる。記号は胴部上端に、指頭の押捺による円形のくぼみ2つを並列させる。

| |
|--------------|
| 第74次調査 |
| 遺構：SK-119 |
| 層位：第4層 |
| 土色：一 |
| 取上：土-401 |
| No.：684 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：23.4 |
| 胸径：18.1 |

056 記号土器（曲線：T-G₂）

本記号土器は、大和第V-2様式の長頸壺の胸部に印刻したものである。西地区北部の第93次調査の井戸から出土した。口縁部を欠くが、ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げる。胴部下半から底部は使用による摩滅がみられる。記号は、胴部上半に小さめの円形竹管文2つを並列に押捺する。

| |
|-------------|
| 第93次調査 |
| 遺構：SK-1120 |
| 層位：第8層 |
| 土色：一 |
| 取上：土-802 |
| No.：306 |
| 様式：大和第V-2様式 |
| 残存高：27.6 |
| 胸径：19.3 |



057 記号土器（曲線：T-G₂）

本記号土器は、大和第VI-3様式の長頸壺肩部に印刻したものである。西地区中央部の第74次調査の井戸から出土した。完形の壺である。口縁部から肩部上半はハケ、肩部下半はナデ調整で仕上げる。記号は、肩部上端に円形竹管文を2つ並列に押捺する。

| 第74次調査 | |
|--------|-----------|
| 遺構： | SK-119 |
| 層位： | 第6層 |
| 土色： | — |
| 取上： | 土-604 |
| No： | 708 |
| 様式： | 大和第VI-3様式 |
| 高さ： | 20.9 |
| 胸径： | 11.1 |

058 記号土器（曲線：T-G₂）

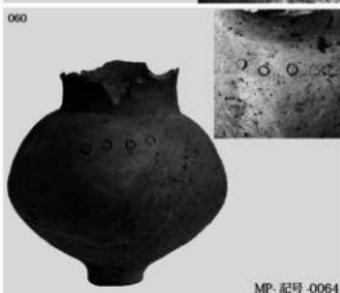
本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺肩部に印刻したものである。西地区中央部の第74次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は、肩部上端に円形竹管文を2つ並列に押捺する。

| 第74次調査 | |
|--------|-----------|
| 遺構： | SK-119 |
| 層位： | 第6層 |
| 土色： | — |
| 取上： | 土-602 |
| No： | 980 |
| 様式： | 大和第VI-3様式 |
| 高さ： | 20.4 |
| 胸径： | 17.6 |

059 記号土器（曲線：T-G''₃）

本記号土器は、大和第VI-1様式の長頸壺の頸肩部に印刻したものである。北地区北半の第37次調査の井戸から出土した。ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げる。肩部下半から底部は使用による摩滅がみられる。記号は円形竹管文を頸部下端に1つ、肩部上端に2つを並列押捺するが、ミガキ調整によって一部が消えている。

| 第37次調査 | |
|--------|-----------|
| 遺構： | SK-2122 |
| 層位： | 第13層 |
| 土色： | — |
| 取上： | 土-1301 |
| No： | 944 |
| 様式： | 大和第VI-1様式 |
| 高さ： | 27.5 |
| 胸径： | 16.0 |

060 記号土器（曲線：T-G₄+T-G₄）

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺肩部に印刻したものである。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。口縁部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は、肩部上半に円形竹管文4つを並列に押捺する。また、同様の記号を反対面にも押捺する。

| 第14次調査 | |
|--------|-----------|
| 遺構： | SK-101 |
| 層位： | 中層 |
| 土色： | 黒粘 |
| 取上： | 土-05 |
| No： | 17 |
| 様式： | 大和第VI-3様式 |
| 残存高： | 16.7 |
| 胸径： | 16.3 |

061 記号土器（曲線：T-G''_s）

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺頸部に印刻したものである。南地区の第63次調査の井戸から出土した。口縁部・胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げる。胴部下半に煤が、底部内面に炭化物が付着する。記号は胴部上端に、円形竹管文を上下2段に3つと2つ並列に押捺する。

| |
|--------------|
| 第63次調査 |
| 遺構：SK-106 |
| 層位：第2層 |
| 土色：— |
| 取上：土-208 |
| No：181 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：21.9 |
| 胸径：19.5 |



061

062 記号土器（曲線：T-G'₃+T-G₃）

本記号土器は、大和第VI-1様式の長頸壺の頸部と胴部に印刻したものである。西地区北部の第79次調査の井戸から出土した。ほぼ完形の壺である。外面は、記号部分を避けてミガキ調整で仕上げる。記号は、小さめの円形竹管文を頸部中央に縱3つ、胴部上端に横3つ押捺する。

| |
|--------------|
| 第79次調査 |
| 遺構：SK-120 |
| 層位：第6層 |
| 土色：— |
| 取上：土-603 |
| No：535 |
| 様式：大和第VI-1様式 |
| 高さ：23.5 |
| 胸径：13.7 |



062

063 記号土器（曲線：T-G'₃+T-G'₃）

本記号土器は、大和第VI-1様式の長頸壺の頸部に印刻したものである。西地区北部の第79次調査の井戸から出土した。胴部外面に一部剥落があるが、ほぼ完形の壺である。外面は、記号部分を避けてミガキ調整で仕上げる。記号は、頸部中央に縱3つの円形竹管文を2列に配置する。

| |
|--------------|
| 第79次調査 |
| 遺構：SK-120 |
| 層位：第5層 |
| 土色：— |
| 取上：土-502 |
| No：527 |
| 様式：大和第VI-1様式 |
| 高さ：27.5 |
| 胸径：13.4 |



063

064 記号土器（曲線：T-G'₅+T-G'₃）

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺の頸部に印刻したものである。南地区の第69次調査の井戸から出土した。胴部下半を欠損する。外面はハケ後ミガキ調整で仕上げ、その後、頸部下半に縱5つの円形竹管文を2列に配置する。

| |
|--------------|
| 第69次調査 |
| 遺構：SK-1103 |
| 層位：第4層 |
| 土色：— |
| 取上：土-444 |
| No：1489 |
| 様式：大和第VI-2様式 |
| 残存高：20.1 |
| 胸径：14.5 |



064

065



MP-記号-0020

066



MP-記号-0087

067



MP-記号-0117

068



MP-記号-0094

065 記号土器（曲線：F-G₁）

本記号土器は、大和第V-1様式の短頸壺の胴部に浮文により表したものである。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。底部は使用による摩滅、煤の付着、胴部中央の穿孔がみられる。記号は、ハケ後円形の粘土粒1つを胴部上端に貼付し、その後ミガキ調整で仕上げる。

第37次調査

| | |
|------|----------|
| 遺構： | SK-2103 |
| 層位： | 第6層 |
| 土色： | 灰粘 |
| 取上： | 土-601 |
| No.： | 274 |
| 様式： | 大和第V-1様式 |
| 高さ： | 28.8 |
| 胴径： | 20.3 |

066 記号土器（曲線：F-G₁+S-J₁）

本記号土器は、大和第V-1様式の短頸壺の胴部に浮文により表したものである。南地区的第76次調査の井戸から出土した。ほぼ完形の壺である。外面はタタキ成形後、胴部上端をナデ、胴部下半をケズリ調整で仕上げる。記号は、円形の粘土粒1つを胴部上端に貼付し、その中央を刺突する。

第76次調査

| | |
|------|----------|
| 遺構： | SK-1108 |
| 層位： | 第3層 |
| 土色： | — |
| 取上： | 土-302 |
| No.： | 411 |
| 様式： | 大和第V-1様式 |
| 高さ： | 29.1 |
| 胴径： | 19.0 |

067 記号土器（曲線：F-G₂）

本記号土器は、大和第V-2様式の短頸壺の胴部に浮文により表したものである。南東端の第91次調査の環濠から出土した。完形の壺で、胴部外面はナデ調整で仕上げる。記号は胴部上端に円形の扁平な粘土粒2つを、少し間隔を空けて並列に貼付する。

第91次調査

| | |
|------|----------|
| 遺構： | SD-101B |
| 層位： | 第6(下)層 |
| 土色： | — |
| 取上： | 土-2688 |
| No.： | 361 |
| 様式： | 大和第V-2様式 |
| 高さ： | 21.4 |
| 胴径： | 15.7 |

068 記号土器（曲線：F-G₁）

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺の胴部に浮文により表したものである。南地区の第63次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面はハケ後ナデ調整で仕上げるが、煤が付着する。胴部上半中央にはヘラ描きによる直線文が1周する。記号は、円形の粘土粒1つを胴部上端に貼付する。

第63次調査

| | |
|------|-----------|
| 遺構： | SK-106 |
| 層位： | 第2層 |
| 土色： | — |
| 取上： | 土-206 |
| No.： | 181 |
| 様式： | 大和第VI-3様式 |
| 高さ： | 21.8 |
| 胴径： | 17.7 |

069 記号土器（曲線：F-G₁）

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺の胴部に浮文により表したものである。東端の第54次調査の河跡から出土した。完形の壺である。外面はハケ調整で仕上げる。胴部下半に煤の付着がある。記号は胴部上端に、円形の扁平な粘土粒1つを貼付する。

| |
|--------------|
| 第54次調査 |
| 遺構：SR-102A |
| 層位：第3層 |
| 土色：— |
| 取上：土-301 |
| No：11 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：24.9 |
| 胸径：19.9 |

070 記号土器（点：H-J₅）

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺口縁部に刻んだものである。西地区北部の第37次調査の区画溝から出土した。完形の壺である。外面胴部上半はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は、口縁端部にヘラ押捺による刻目を5つ付ける。

| |
|--------------|
| 第37次調査 |
| 遺構：SD-2101 |
| 層位：第4層 |
| 土色：— |
| 取上：土-402 |
| No：42 |
| 様式：大和第VI-2様式 |
| 高さ：24.5 |
| 胸径：14.7 |

071 記号土器（点：S-J₃）

本記号土器は、大和第VI-1様式の長頸壺の胴部に刻んだものである。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠くが、ほぼ完形の壺である。胴部上半はハケ調整で仕上げる。底部は使用による摩滅がみられる。記号は、頸胴部界に近い胴部上端にヘラによる刺突文を7つ付ける。

| |
|--------------|
| 第37次調査 |
| 遺構：SK-2122 |
| 層位：第25層 |
| 土色：— |
| 取上：土-2503 |
| No：1010 |
| 様式：大和第VI-1様式 |
| 高さ：28.0 |
| 胸径：15.2 |

072 記号土器（点：S-J₄）

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺の胴部に刻んだものである。北地区の第48次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠くが、ほぼ完形の壺である。外面はミガキ調整で仕上げる。記号は、胴部上端にヘラ先による刺突文を4つ付けるが、目立たない。

| |
|--------------|
| 第48次調査 |
| 遺構：SK-1114 |
| 層位：第3層 |
| 土色：— |
| 取上：— |
| No：408 |
| 様式：大和第VI-2様式 |
| 高さ：26.0 |
| 胸径：16.2 |



MP- 記号-0032



MP- 記号-0107



MP- 記号-0109



MP- 記号-0110

073 記号土器 (直線・曲線の組合せ : H-D''₁+H-B''₂)

本記号土器は、大和第VI-1様式の長頸壺の頸部に線刻されたものである。南端の第33次調査の環濠から出土した。底部と胴部の一部を欠損する。胴部上端に櫛描波状文を巡らす。頸部はミガキ調整後、記号を描く。頸部中央の対面2ヶ所に、三日月形を半分にした形の記号に三叉形の記号が突き抜けるように細描きされている。

| |
|----------------|
| 第33次調査 |
| 遺構 : SD-109 |
| 層位 : 第4(下)層 |
| 土色 : - |
| 取上 : 土-401 |
| No. : 253 |
| 様式 : 大和第VI-1様式 |
| 復元高 : 29.1 |
| 胸 径 : 17.0 |

074 記号土器 (直線・曲線の組合せ : H-B''₂+T-G''₃)

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺頸部に線刻、胴部に印刻したものである。南地区の第33次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。外面頸部はハケ、胴部はナデ調整で仕上げる。記号は頸部下端に下向きの三叉形、その下の胴部上端に円形竹管文3つを2(上)・1(下)の2段に押捺する。

| |
|----------------|
| 第33次調査 |
| 遺構 : SK-125 |
| 層位 : 第6層 |
| 土色 : 黒粘ソフト |
| 取上 : 土-603 |
| No. : 506 |
| 様式 : 大和第VI-2様式 |
| 高さ : 27.0 |
| 胸 径 : 16.5 |

075 記号土器 (直線・曲線の組合せ : T-B''₂)

本記号土器は、大和第VI-1様式の壺の胴部に線刻・印刻したものである。南端の第69次調査の環濠から出土した。胴部の約半分が残存する。胴部上半の外面はハケ後ナデ調整で仕上がる。記号は円形の竹管文を横方向に不連続に押捺するとともに、竹管文間に6方向に放射する線を組合せる。

| |
|----------------|
| 第69次調査 |
| 遺構 : SD-1109 |
| 層位 : 第6層 |
| 土色 : - |
| 取上 : 土-613 |
| No. : 848 |
| 様式 : 大和第VI-1様式 |
| 残存高 : 16.2 |
| 胸 径 : 16.9 |

076 記号土器 (直線・曲線の組合せ : H-D'₁+H-B''₁)

本記号土器は、大和第VI-3様式の長頸壺の胴部に線刻したものである。南端の第33次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。胴部に煤の付着がみられる。外面はミガキ調整で仕上げる。記号は胴部中央に曲線・直線の組合せで、「介」字状に線刻する。

| |
|----------------|
| 第33次調査 |
| 遺構 : SD-109 |
| 層位 : 第5層 |
| 土色 : 黒粘 |
| 取上 : 土-505 |
| No. : 275 |
| 様式 : 大和第VI-3様式 |
| 高さ : 17.3 |
| 胸 径 : 11.0 |

077 記号土器 (直線・曲線の組合せ : H-C₁+H-A₁)

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口長頸壺胴部に線刻したものである。南地区の第63次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。胴部下半に煤の付着がみられる。外面はミガキ調整で仕上げる。記号は、胴部上半に「U」字形とその中央に縱線1本を挿入するものである。

| |
|----------------|
| 第 63 次調査 |
| 遺構 : SK-106 |
| 層位 : 第2層 |
| 土色 : - |
| 取上 : 土・204 |
| No : 181 |
| 様式 : 大和第VI-3様式 |
| 高さ : 32.4 |
| 胸径 : 17.8 |

078 記号土器 (直線・曲線の組合せ : H-E₁)

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺胴部に線刻したものである。南地区の第63次調査の井戸から出土した。ほぼ完形の壺である。頭胴部界と胴部中央に穿孔がある。胴部下半に煤の付着がみられる。外面はミガキ調整で仕上げる。記号は胴部上半に、「U」字形と「U」の上部分を塞ぐような横線1本を組み合せたものである。

| |
|----------------|
| 第 63 次調査 |
| 遺構 : SK-106 |
| 層位 : 第2層 |
| 土色 : - |
| 取上 : 土・203 |
| No : 181 |
| 様式 : 大和第VI-3様式 |
| 高さ : 24.1 |
| 胸径 : 19.6 |

079 記号土器 (直線・曲線の組合せ : H-C₁+H-A₁)

本記号土器は、大和第V-2様式の長頸壺頭部に線刻したものである。南東端の第91次調査の環濠から出土した。ほぼ完形の壺である。外面はナデ後ミガキ調整で仕上げる。記号は、頭部中央にやや歪な横長の逆「U」字形を描き、その下端を横線1本で塞ぐ。また、同様の記号を反対面にも描く。

| |
|---------------|
| 第 91 次調査 |
| 遺構 : SD-101B |
| 層位 : 第6(下)層 |
| 土色 : - |
| 取上 : 土・2683 |
| No : 361 |
| 様式 : 大和第V-2様式 |
| 高さ : 21.4 |
| 胸径 : 15.8 |

080 記号土器 (直線・曲線の組合せ : H-B₃+H-C₁)

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺の胴部に線刻したものである。西端の第62次調査の環濠から出土した。ほぼ完形の壺(胴部下半小欠)である。外面はナデ調整で仕上げる。記号は胴部上半に逆「V」字形を3つ並列させたもの下に「U」字形を連結させたものである。

| |
|----------------|
| 第 62 次調査 |
| 遺構 : SD-101 |
| 層位 : 第2層 |
| 土色 : - |
| 取上 : 土・211 |
| No : 106 |
| 様式 : 大和第VI-2様式 |
| 高さ : 23.4 |
| 胸径 : 15.8 |



081 記号土器（直線・曲線の組合せ：H-C₁+H-B₂）

本記号土器は、大和第V-2様式の長頸壺胴部に線刻したものである。南東端の第91次調査の環濠から出土した。口頸部の一部を欠くが、全容のわかる壺である。外面はナデ調整で仕上げる。記号は、胴部上半に横長の逆「U」字形を描き、その内部に5本の斜線を充填する。

| 第 91 次調査 | |
|----------|----------|
| 遺構： | SD-101B |
| 層位： | 第6(下)層 |
| 土色： | — |
| 取上： | 土-2670 |
| No.： | 361 |
| 様式： | 大和第V-2様式 |
| 高さ： | 17.6 |
| 胸径： | 13.3 |

082 記号土器（直線・曲線の組合せ：H-C₂+H-B₂）

本記号土器は、大和第V-1様式の小形壺の胴部に線刻したものである。南東端の第40次調査の環濠から出土した。完形の壺で、外面はナデ調整で仕上げる。記号は胴部上端から下端の左下方向に細い三日月状を描き、その円弧外側に放射状の斜線8本を描く。

| 第 40 次調査 | |
|----------|----------|
| 遺構： | SD-101 |
| 層位： | 第7層 |
| 土色： | — |
| 取上： | 土-702 |
| No.： | 273 |
| 様式： | 大和第V-1様式 |
| 高さ： | 7.9 |
| 胸径： | 7.5 |

083 記号土器（曲線の組合せ：F-G₁+F-C₁）

本記号土器は、大和第V-1様式の短頸壺の胴部に浮文により表したものである。南地区の第65次調査の井戸から出土した。頸部から胴部の破片である。外面はナデ調整で仕上げる。記号は円形の平坦な粘土粒1つとその右に「U」字形の粘土紐を組合せて、胴部上端に貼付する。

| 第 65 次調査 | |
|----------|----------|
| 遺構： | SK-134 |
| 層位： | 第2層 |
| 土色： | — |
| 取上： | 土-217 |
| No.： | 646 |
| 様式： | 大和第V-1様式 |
| 残存長： | 9.8 |
| 残存幅： | 14.3 |

084 記号土器（直線・曲線の組合せ：H-G₁+H-A₁）

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺胴部に線刻したものである。南地区の第33次調査の井戸から出土した。口縁部を小欠するが、ほぼ完形の壺である。外面はナデ調整で仕上げる。記号は太描きで、胴部上半に縱方向の楕円形の中に縱線1本を挿入するものである。

| 第 33 次調査 | |
|----------|-----------|
| 遺構： | SK-133 |
| 層位： | 第3層 |
| 土色： | — |
| 取上： | 土-303 |
| No.： | 510 |
| 様式： | 大和第VI-2様式 |
| 高さ： | 21.1 |
| 胸径： | 11.9 |

085 記号土器 (直線・曲線の組合せ: H-G'',+H-A₁)

本記号土器は、大和第V-2様式の長頸壺頭部に線刻したものである。南東端の第91次調査の環濠から出土した。ほぼ完形の壺である。記号は頸部下端に零状を描き、その内部に縦線1本を充填するが、ミガキが及ばなかつたため残存したようである。この記号の左上にも同様な記号2つの線刻があるが、ミガキによって消されている。

| |
|--------------|
| 第 91 次調査 |
| 遺構: SD-101B |
| 層位: 第6層 |
| 土色: - |
| 取上: 土-672 |
| No: 298 |
| 様式: 大和第V-2様式 |
| 高さ: 27.6 |
| 胸径: 15.8 |



MP- 記号-0112

086 記号土器 (直線・曲線の組合せ: H-D₁+R-不明)

本記号土器は、大和第VI-1様式の長頸壺の胸部に線刻・赤彩したものである。南端の第69次調査の環濠から出土した。口縁部・底部の一部を欠損する。胸部上半の外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は胸部上端に、ヘラで横方向の「ノ」字形(左)、赤彩で「H」字形(右)に描くものである。

| |
|---------------|
| 第 69 次調査 |
| 遺構: SD-1109 |
| 層位: 第5(下)層 |
| 土色: - |
| 取上: 土-7555 |
| No: 721 |
| 様式: 大和第VI-1様式 |
| 高さ: 20.0 |
| 胸径: 11.9 |



MP- 記号-0048

087 記号土器 (直線の組合せ: H-A₄+R-A₁)

本記号土器は、大和第VI-2様式の長頸壺の胸部に線刻・赤彩したものである。北東端の第34次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ全形のわかる壺である。全体に煤の付着がみられる。胸部はミガキ調整で仕上げる。記号は胸部上端に、ヘラで短い縦線4本を、その右に赤彩で縦線1本を組合せたものである。

| |
|---------------|
| 第 34 次調査 |
| 遺構: SD-103 |
| 層位: 第2層 |
| 土色: 黒粘 |
| 取上: - |
| No: 120 |
| 様式: 大和第VI-2様式 |
| 高さ: 22.5 |
| 胸径: 13.7 |



MP- 記号-0090

088 記号土器 (直線・曲線の組合せ: H-B'',+H-B'',+T-G₁)

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺に印刻・線刻したものである。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。口縁部の一部を欠損する。記号は、円形竹管文を口縁部内面に6つ以上、胸部上端の3ヶ所に4つ(左)・1つ(中)・2つ(右)を並列で押捺、頭部にはヘラ描きで山形文2つに斜線をつけだものが描かれている。

| |
|---------------|
| 第 14 次調査 |
| 遺構: SK-102 |
| 層位: 最下層 |
| 土色: 黒粘 |
| 取上: 土-05 |
| No: 24 |
| 様式: 大和第VI-3様式 |
| 高さ: 22.4 |
| 胸径: 20.0 |



口縁部内面



反対面の竹管文

089 記号土器（直線・曲線の組合せ：H-E₁+R-A₁）

089



MP- 記号 -0066

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺の胴部に線刻・赤彩したものである。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。ほぼ完形の壺で、底部は使用による摩滅がみられる。胴部上半はナデ調整で仕上げる。記号は胴部上端の3分割のうちの2方向に、ヘラで逆「L」字形(左)、赤彩で縦線1本(右)を組合せたものである。

| |
|---------------|
| 第14次調査 |
| 遺構：SK-106 |
| 層位：下層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：土・4 |
| No. : 37 |
| 様式：大和第VI-3 様式 |
| 高さ：19.3 |
| 胴径：17.5 |

090 記号土器（直線・曲線の組合せ：R-A'₁+H-A₁+H-C₁+T-G₂+H- 不明）

090



MP- 記号 -0079

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺の胴部に赤彩・線刻・押捺したものである。西端の第62次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。胴部上半はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は、3つの手法で胴部上端の4ヶ所と底部付近に付けられている。左から横線の赤彩、逆「U」字形のヘラ描き、並列する2個の円形竹管文状のヘラ描き、崩れた逆「S」字状のヘラ描き(抽象化した龍?)である。底部付近の記号は縦線1本を描く。

| |
|---------------|
| 第62次調査 |
| 遺構：SD-101 |
| 層位：第1(下)層 |
| 土色： — |
| 取上：土・1154 |
| No. : 94 |
| 様式：大和第VI-3 様式 |
| 高さ：15.8 |
| 胴径：12.8 |

091 記号土器（直線・曲線の組合せ：H- 不明）

本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺胴部に線刻したものである。南地区の第65次調査の方形周溝墓の北周溝から出土した。口縁部・胴部の一部を欠損する。外面はタタキ後ハケ調整で仕上げる。記号は胴部上半に、左から変形した逆「U」字形の中央に縦線、逆「L」字形のような鉤状、「U」字形の中央に縦線の記号を大きく並列させる。

| |
|---------------|
| 第 65 次調査 |
| 遺構：SD-101N |
| 層位：第 1 層 |
| 土色：一 |
| 取上：土-108 |
| No. : 103 |
| 様式：大和第VI-3 様式 |
| 高さ：16.1 |
| 胸径：13.6 |



MP- 記号 -0099

092 記号土器（直線と曲線の組合せ：S-J₅・H-B₂+B₁）

本記号土器は、大和第V-2様式の長頸壺胴部に印刻・線刻したものである。南東端の第91次調査の環濠から出土した。口頸部・胴部下端の各一部を欠く。外面はナデ調整で仕上げる。記号は胴部上端にヘラによる刺突文5つを付け、その下に左下がりの斜線2本を描き、その逆方向の斜線1本を交差させる。

| |
|--------------|
| 第 91 次調査 |
| 遺構：SD-101B |
| 層位：第 6 (下) 層 |
| 土色：一 |
| 取上：土-1674 |
| No. : 298 |
| 様式：大和第V-2 様式 |
| 復元高：27.3 |
| 胸 径：17.7 |



MP- 記号 -0113

093 記号土器（直線・曲線の組合せ：H-C₂+A₆+ 不明 + 不明）

MP- 記号 -0105



093

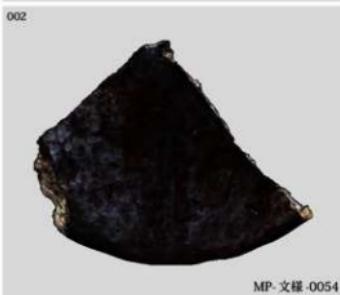
本記号土器は、大和第VI-3様式の広口壺の胴部に線刻したものである。北東端の第24次調査の環濠から出土した。口縁部・胴部の一部を欠損するが、ほぼ完形の壺である。胴部上半はハケ後ナデ調整で仕上げる。記号は胴部上半の約半面に細描きのヘラで6記号(うち3記号は組合せ)が記されているが、そのうち3つの記号の一部が消されている。記号は2本の弧線、縦線6本、「R」字状のもの、渦文を変形させたようなもの(渦の両側に横線4本と弧線・直線を組合せる)である。

| |
|---------------|
| 第 24 次調査 |
| 遺構：SD-107 |
| 層位：第 3 層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：一 |
| No. : 116 |
| 様式：大和第VI-3 様式 |
| 高さ：19.8 |
| 胸径：16.0 |

**001 土器文様（木葉文）**

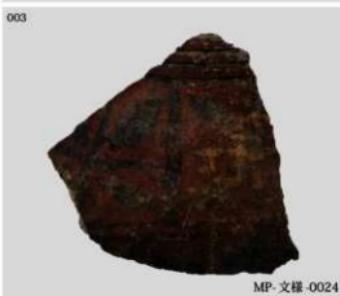
本文様(彩文)は、大和第I-1様式の広口壺蓋の外面に彩色で描かれたものである。西地区の第82次調査の土坑から出土した。裾部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。笠形の蓋で、天井部には穿孔による孔をもつ。外面には天井部の孔から3方向に有輪の木葉文を平塗りで表現する。また、裾部には内向する鋸歯文らしき彩色がある。

| |
|---------------|
| 第 82 次調査 |
| 遺構 : SK-217 |
| 層位 : 第2層 |
| 土色 : 灰黒色粘砂 |
| 取上 : 一 |
| No. : 270 |
| 様式 : 大和第I-1様式 |
| 高さ : 3.6 |
| 幅径 : 9.7 |

**002 土器文様（木葉文）**

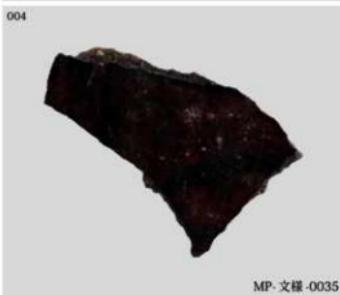
本文様(彩文)は、大和第I-1様式の広口壺の蓋外面に描かれたものである。西地区の第82次調査の土坑から出土した。壺蓋の1/4程度を残す破片である。外面に有輪の木葉文を平塗りで表現する。

| |
|---------------|
| 第 82 次調査 |
| 遺構 : SK-206 |
| 層位 : 第3層 |
| 土色 : 灰黒粘 |
| 取上 : 一 |
| No. : 279 |
| 様式 : 大和第I-1様式 |
| 残存高 : 2.4 |
| 残存幅 : 6.1 |

**003 土器文様（木葉文）**

本文様(彩文)は、大和第I-1様式の広口壺の胴部中央に彩色で表現されたものである。西地区中央部の第38次調査の土坑から出土した。胴部の小片である。黒色物塗布の器面に赤彩による上下2本の文様帯の区画線を設け、木葉文の単位となる縦線を引く。その後、上下対称の弧形を塗りつぶして木葉形とする。

| |
|---------------|
| 第 38 次調査 |
| 遺構 : SK-207 |
| 層位 : 第1層 |
| 土色 : 灰色砂 |
| 取上 : 一 |
| No. : 151 |
| 様式 : 大和第I-1様式 |
| 残存長 : 6.9 |
| 残存幅 : 7.2 |

**004 土器文様（木葉文？）**

本文様(彩文)は、大和第I-1様式のやや大形の広口壺の胴部中央に彩色で表現されたものである。西地区北部の第37次調査の河跡から出土した。胴部の小片である。黒色物塗布の器面に赤彩で平塗りしている。左辺と下辺を塗り残し区画線とし、その内部に木葉状に見える塗り残しがあるが、全体は不明である。

| |
|---------------|
| 第 37 次調査 |
| 遺構 : SK-4201 |
| 層位 : 第2層 |
| 土色 : 灰黒色砂質土 |
| 取上 : 一 |
| No. : 847 |
| 様式 : 大和第I-1様式 |
| 残存長 : 7.8 |
| 残存幅 : 6.1 |

005 土器文様（木葉文）

本文様は、大和第I-1様式の広口壺蓋の外面にヘラ描きで描かれたものである。北端の第17次調査の河跡から出土した。笠形の蓋で裾部が欠損する。天井部に2重、裾部に2重?のヘラ描同心円文を描き、その間に4方向の有軸木葉文を描く。木葉文は3条の軸に3~4条の弧線で構成される。裾部に重弧文(半裁の木葉文)を充填する。

| |
|-------------|
| 第17次調査 |
| 遺構：SX-01 |
| 層位：－ |
| 土色：黒色粘砂 |
| 取上：－ |
| No：14 |
| 様式：大和第I-1様式 |
| 残存高：3.1 |
| 残存長：7.5 |



005

006 土器文様（木葉文）

本文様は、大和第I-1様式の広口壺蓋の外面にヘラ描きで描かれたものである。中央区の第53次調査の土坑から出土した。ほぼ完形である。天井部に2重、裾部に3重のヘラ描きの同心円文を描き、その間に4方向に有軸の木葉文を描く。ただし、木葉文の両端は収束しておらず、十字文とみなすこともできる。

| |
|-------------|
| 第53次調査 |
| 遺構：SX-201 |
| 層位：－ |
| 土色：灰黒粘 |
| 取上：－ |
| No：431 |
| 様式：大和第I-1様式 |
| 残存高：4.2 |
| 裾径：12.2 |



006

007 土器文様（木葉文）

本文様は、大和第I-1様式の広口壺の胴部中央にヘラ描きされたものである。西地区の第14次調査の土坑から出土した。胴部の3小破片が残る。段を有する壺で、2条のヘラ描直線文間に無軸の木葉文を描く。木葉文の交点には珠文が付けられている。

| |
|-------------|
| 第14次調査 |
| 遺構：SK-201 |
| 層位：下層 |
| 土色：－ |
| 取上：－ |
| No：66 |
| 様式：大和第I-1様式 |
| 残存長：5.9 |
| 残存幅：6.1 |



007

008 土器文様（木葉文）

本文様は、大和第I-1様式の小形の広口壺胴部中央にヘラ描きされたものである。南地区的第44次調査の暗黄灰色粘質土層から出土した。胴部の小破片で、2条の太いヘラ描直線文間に無軸の木葉文を描く。

| |
|-------------|
| 第44次調査 |
| 遺構：－ |
| 層位：－ |
| 土色：暗黄灰色粘質土 |
| 取上：その1 |
| No：367 |
| 様式：大和第I-1様式 |
| 残存長：4.1 |
| 残存幅：5.2 |



008

009



MP- 文様 -0082

010



MP- 文様 -0052

011



MP- 文様 -0068

012



MP- 文様 -0088

009 土器文様（木葉文）

本文様は、大和第I-1様式の広口壺胴部中央にヘラ描きされたものである。西地区北部の第37次調査の暗黄灰色粘質土層から出土した。胴部の破片で、3条のヘラ描直線文下に有輪の木葉文を描く。木葉文の線刻は、浅く弱い。

第37次調査

| | |
|------|----------|
| 遺構： | — |
| 層位： | — |
| 土色： | 暗黄灰色粘質土 |
| 取上： | — |
| No.: | 731 |
| 様式： | 大和第I-1様式 |
| 残存長： | 5.6 |
| 残存幅： | 9.4 |

010 土器文様（重弧文）

本文様は、大和第I-2様式の小形の広口壺胴部中央にヘラ描きされたものである。西地区中央部の第20次調査の土坑から出土した。口縁部と胴部の一部を欠損する。ヘラミガキ後に直線文を頭部に3条、胴部に5条、胴部の直線文下に上向きの重弧文(弧線3)を描くが、線刻は浅く弱い。外面には黒褐色物の塗布がみられる。

第20次調査

| | |
|------|----------|
| 遺構： | SK-217 |
| 層位： | 第2層 |
| 土色： | 暗青灰色粘質土 |
| 取上： | — |
| No.: | 671 |
| 様式： | 大和第I-2様式 |
| 残存高： | 10.3 |
| 残存幅： | 11.4 |

011 土器文様（山形文）

本文様は、大和第I-1様式の広口壺胴部にヘラ描きされたものである。西地区中央部の第19次調査の土坑から出土した。口縁部と胴部の一部が残存する。口縁部と頸胴部界に段をもち、胴部上端には2条のヘラ描直線文を入れる。頸部に2本を1単位として山形文を右から左へと描く。外面には黒褐色物の塗布がみられる。

第19次調査

| | |
|------|----------|
| 遺構： | SK-1103 |
| 層位： | 第6層 |
| 土色： | 黒灰粘 |
| 取上： | 土-602 |
| No.: | 868 |
| 様式： | 大和第I-1様式 |
| 口径： | 14.5 |
| 残存高： | 12.3 |

012 土器文様（羽状文）

本文様は、大和第I様式の広口壺胴部にヘラ描きされたものである。北地区の第26次調査の黒褐色土層から出土した。胴部の小破片である。頸胴部界に段をもち、3条のヘラ描直線文間に4本を1単位として羽状文を2段に重ね、これを互いに向かい合わせにして全体を構成するようである。

第26次調査

| | |
|------|--------|
| 遺構： | — |
| 層位： | 第III層 |
| 土色： | 黒褐色土 |
| 取上： | — |
| No.: | 90 |
| 様式： | 大和第I様式 |
| 残存長： | 5.6 |
| 残存幅： | 5.4 |

013 土器文様（綾杉文）

本文様は、大和第II-1様式の広口壺胴部にヘラ描きされたものである。西地区南部の第96次調査の区画溝から出土した。胴部の小破片である。胴部に10条のヘラ描直線文を引き、その直線文間に互いに向かい合わせになるように櫛状工具による刺突で綾杉文とするものである。

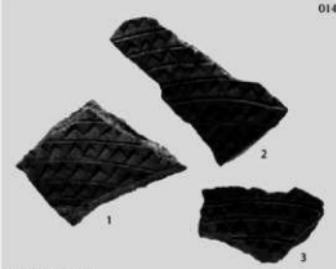
| | |
|----------|-----------|
| 第 96 次調査 | |
| 遺構: | SD-101 |
| 層位: | 第6層 |
| 土色: | 黒色粘砂（植物認） |
| 取上: | — |
| No: | 102 |
| 様式: | 大和第II-1様式 |
| 残存長: | 10.5 |
| 残存幅: | 13.9 |



014 土器文様（三角刺突文）

本文様は、大和第II様式の広口長頸壺口縁部内面にヘラの刺突によってつけられたものである。西地区中央部の第14・22次調査の中世大溝や土坑などから出土した。口縁部の3小破片が残存する。口縁部内面に約1cm間隔にヘラ描直線文を巡らせ、その直線文間に上向きの三角刺突文を9段以上押捺す。

| | |
|-------|----------|
| 014-2 | 第 22 次調査 |
| 遺構: | 中世大溝 |
| 層位: | — |
| 土色: | 黒灰色砂質土 |
| 取上: | — |
| No: | 178 |
| 様式: | 大和第II様式 |
| 残存長: | 7.3 |
| 残存幅: | 8.8 |



015 土器文様（放射状文 + 円形刺突文）

本文様は、大和第I-1様式の壺蓋にヘラ描きと刺突によってつけられたものである。遺跡北端の第25次調査の溝から出土した。完形品である。扁平な円板状で、中央の摘み部は細長く突出させ、紐孔を2孔あける。3~5本を一単位とした直線文を中央から7方向に放射状に引き、その間に8~12段の円形刺突文を挿入する。

| | |
|-----|----------|
| 015 | 第 25 次調査 |
| 遺構: | SD-201 |
| 層位: | 第3層 |
| 土色: | 灰褐色砂質土 |
| 取上: | — |
| No: | 7 |
| 様式: | 大和第I-1様式 |
| 高さ: | 2.9 |
| 幅径: | 10.6 |



016 土器文様（工字文）

本文様は、大和第I-2様式の鉢にヘラ描きされたものである。西地区中央部の第20次調査の木器貯蔵穴から出土した。口縁部と胴部を半欠する。10条のヘラ描直線文の施設後、上下2段(4条一単位)、違えて4方向に縦の区画線を入れ工字文とするものである。外面には黒褐色物が塗布され、直線文内部に赤彩が残る。

| | |
|-------|----------|
| 016 | 第 20 次調査 |
| 遺構: | SK-215 |
| 層位: | 第2層 |
| 土色: | 灰黒粘 |
| 取上: | — |
| No: | 681 |
| 様式: | 大和第I-2様式 |
| 復元口径: | 16.0 |
| 残存高: | 8.4 |





017 土器文様（工字文）

本文様は、大和第II-2様式の広口長頸壺にヘラ描きされたものである。南地区の第33次調査の区画溝から出土した。頸部の破片で、口縁部は欠損後、破面を研磨している。頸部には18条のヘラ描直線文を巡らせた後、4条一単位の縦線を各2段、4方向にいれて工字文とするものである。外面には黒褐色物が塗被される。

| |
|--------------|
| 第33次調査 |
| 遺構：SD-202 |
| 層位：第5層 |
| 土色：灰黒粘 |
| 取上：— |
| No.：1057 |
| 様式：大和第II-2様式 |
| 残存高：24.4 |
| 残存幅：27.1 |

018 土器文様（流水文）

本文様は、大和第II-2様式の鉢に櫛描きで描かれたものである。北地区の第23次調査の土坑から出土した。口縁部から底部の約半分を欠損する。胴部が直線的な鉢で、底部は外側に突出し端部に刻目を入れる。口縁部から底部まで櫛描直線文を9帯巡らした後、上下2帯を4方向1帯ずつずらして連結させる縦型流水文とする。

| |
|--------------|
| 第23次調査 |
| 遺構：SK-123 |
| 層位：第4層 |
| 土色：炭灰層 |
| 取上：土-401 |
| No.：340 |
| 様式：大和第II-2様式 |
| 復元口径：18.0 |
| 高さ：13.1 |

019 土器文様（流水文）

本文様は、大和第III様式の壺蓋に櫛描きで描かれたものである。南地区的第76次調査の区画溝の最上層から出土した。壺部の一部が欠損する。笠形の蓋で、小さな摘み部がつく。2孔一对の紐孔を壺部に有する。2段の横型流水文で、流水文は3帯の櫛描文を2区画で横型としている。下段の流水文は2帯の櫛描文しか描かれていない。

| |
|-----------------|
| 第76次調査 |
| 遺構：— |
| 層位：東壁 Sec. 第IV層 |
| 土色：— |
| 取上：— |
| No.：435 |
| 様式：大和第III様式 |
| 高さ：3.0 |
| 幅径：9.8 |

020 土器文様（流水文）

本文様は、大和第III-1様式の水差形土器に櫛描きで描かれたものである。南地区的第61次調査の井戸から出土した。完形品(胴部下半に剥離痕)である。頸部から胴部上端にかけて纏状文3帯、胴部中央に3分割された縦型流水文を描き、その残部に方画文を充填する。底部には使用による摩滅痕がみられる。

| |
|---------------|
| 第61次調査 |
| 遺構：SK-142 |
| 層位：第4層 |
| 土色：黒灰粘（砂混） |
| 取上：土-401 |
| No.：1578 |
| 様式：大和第III-1様式 |
| 高さ：13.2 |
| 幅径：14.0 |

021 土器文様（流水文）

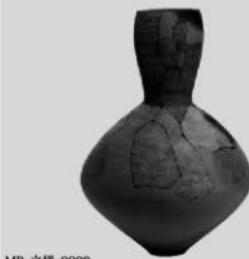
本文様は、大和第III-3様式の小形の水差形土器に櫛描きで描かれたものである。西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。把手を欠損するが、ほぼ完形である。外面に煤が付着する。口縁部には櫛描刺突文、頸・胸部界には直線文と簾状文を巡らす。胸部には3方向に割り付けられた「工」状の横型流水文を描く。

| |
|----------------|
| 第37次調査 |
| 遺構: SK-2130 |
| 層位: 第10層 |
| 土色: 黒灰粘 |
| 取上: 土-1002 |
| No: 946 |
| 様式: 大和第III-3様式 |
| 高さ: 9.7 |
| 胸径: 9.0 |

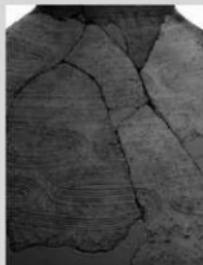


MP-文様-0021

022 土器文様（流水文）



MP-文様-0009



022

本文様は、大和第III-3様式の細頸壺に櫛描きで描かれたものである。北西端の第19次調査の環濠から出土した。口縁部・頸部・胸部の一部と底部を欠損する。口縁部には2段の櫛描刺突文、頸部に直線文、頸・胸部界に簾状文を巡らす。胸部には3段にわたって横型流水文を描く。

| |
|----------------|
| 第19次調査 |
| 遺構: SD-204 |
| 層位: 第5-a層 |
| 土色: 黒粘 |
| 取上: 一 |
| No: 806 |
| 様式: 大和第III-3様式 |
| 復元高: 37.8 |
| 復元胸径: 26.3 |

023 土器文様（流水文）

本文様は、大和第III-3様式の広口壺に櫛描きで描かれたものである。中央区の第50次調査の区画溝から出土した。口縁部・頸部・胸部の一部を欠損する。口縁部上面には櫛描扇形文、端部に波状文、頸部に直線文を巡らす。胸部には2段の横型流水文と最下段に扇形文を描く。流水文は、4区画に割り付けられている。

| |
|----------------|
| 第50次調査 |
| 遺構: SD-106 |
| 層位: 第3層 |
| 土色: 黒灰色砂質土 |
| 取上: 一 |
| No: 297 |
| 様式: 大和第III-3様式 |
| 高さ: 18.0 |
| 胸径: 16.7 |



MP-文様-0031

023

024 土器文様（流水文）

024



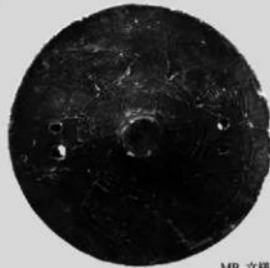
MP-文様-00016

本文様は、大和第III-3様式の把手付鉢に櫛描きで描かれたものである。南地区の第33次調査の木器貯蔵穴から出土した。口縁部と胴部の一部、把手を欠損する。本鉢の形態は、口縁部の内湾や縦長の胴部の形態からこの時期の大形細頸壺の口頭部を模倣したものと考えられる。文様は、口縁部上端から櫛描簾状文、円形文、横型流水文を描き、さらにその下は5帯の直線文間に扇形文、最下段に波状文を巡らすものである。流水文は2段で、回転の間隔は6cm程度と短く、割り付けは不明である。

第33次調査

| | |
|-----|------------|
| 遺構 | SK-124 |
| 層位 | 第7層 |
| 土色 | 灰黒粘 |
| 取上 | — |
| No. | 793 |
| 様式 | 大和第III-3様式 |
| 高さ | 22.0 |
| 胴径 | 17.6 |

025



MP-文様-0051

025 土器文様（扇形文）

本文様は、大和第III-1様式の壺蓋の外面に櫛描きで描かれたものである。北地区の第51次調査の区画溝から出土した。ほぼ完形(縦部小欠)の蓋である。扁平な笠形で、天井部は小さな平坦面を有する。黒褐色を呈し、2孔一対の紐孔を有する。櫛描きの扇形文は、天井部の中心部から2段に描き、内側は7、外側は12を割り付ける。

第51次調査

| | |
|-----|------------|
| 遺構 | SD-103 |
| 層位 | 第4層 |
| 土色 | 植物層 |
| 取上 | その1 |
| No. | 88 |
| 様式 | 大和第III-1様式 |
| 高さ | 2.1 |
| 縦径 | 8.4 |

026



MP-文様-0010

026 土器文様（鋸歯文）

本文様は、大和第III-3様式の壺蓋にヘラ描きされたものである。南地区の第76次調査の土坑から出土した。縦部が欠損する。笠形の蓋で、摘み部は高台状に突出させ、刻目を入れる。3条のヘラ描直線文間に2段の内向する鋸歯文を描く。上段に8、下段に14の鋸歯文を描き、最終的にその内部を右下がりの斜線で充填する。

第76次調査

| | |
|------|------------|
| 遺構 | SK-1115 |
| 層位 | 第1層 |
| 土色 | 灰黒粘(炭灰) |
| 取上 | — |
| No. | 343 |
| 様式 | 大和第III-3様式 |
| 残存高 | 4.4 |
| 残存縦径 | 10.2 |

027 土器文様（鋸歯文）

本文様は、大和第III-3様式の台付鉢の脚台にヘラ描きされたものである。北地区の第51次調査の区画溝から出土した。脚台部のみ残存する。鋭利なヘラ状工具により裾部に細長い三角状の切れ込みを入れ鋸歯文風とする。また、その上部のヘラ描直線文間に内向する鋸歯文13を巡らす。鋸歯文の内部は右下がりの斜線を充填する。

| |
|---------------|
| 第 51 次調査 |
| 遺構：SD-103 |
| 層位：第3層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：土・305 |
| No.：58 |
| 様式：大和第III-3様式 |
| 残存高：6.8 |
| 裾 径：10.5 |



MP- 文様 -0027

028 土器文様（鋸歯文）

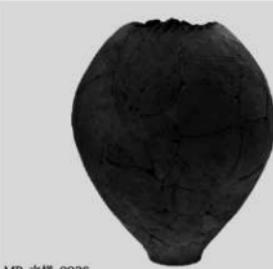
本文様は、大和第IV-1様式の高环脚部にヘラ描きされたものである。北西端の第13次調査の環溝から出土した。脚部のみ残存する。脚柱部の上・中・下段に3条のヘラ描直線文を巡らせ、その間の4方向に長方形の透孔をいれる。裾部にはヘラによる刺突文を巡らす。その上部には斜格文を充填した鋸歯文12と斜格文帯を描く。

| |
|--------------|
| 第 13 次調査 |
| 遺構：SD-06C |
| 層位：第6層 |
| 土色：砂質土 |
| 取上：土・629 |
| No.：346 |
| 様式：大和第IV-1様式 |
| 残存高：14.8 |
| 裾 径：17.2 |



MP- 文様 -0004

029 土器文様（双頭渦文）



MP- 文様 -0026



029

本文様は、大和第IV-1様式の短頸壺胴部に印刻されたものである。北地区の第48次調査の土器溜まりから出土した。口頸部と胴部の一部を欠損する。頸胴部界にはハケ状工具による刺突文、胴部上半は双頭渦文を刻んだタタキ板による成形、その後ハケ調整によって胴部中央部はその一部が消されている。また、胴部下半はケズリによって仕上げられている。双頭渦文は2~3段の重複があり、単位の把握は困難であるが、1つの渦巻きの直径は3.2cmほどである。したがって、タタキ原体の幅はその倍の7cmほどであろう。

| |
|--------------|
| 第 48 次調査 |
| 遺構：SX-1102 |
| 層位：－ |
| 土色：－ |
| 取上：－ |
| No.：85 |
| 様式：大和第IV-1様式 |
| 残存高：31.0 |
| 胴 径：25.3 |

030 土器文様（渦文）

030



MP-文様-0020

本文様は、大和第IV-2様式の短頸壺胴部に印刻されたものである。南地区の第52次調査の河跡から出土した。頸部と胴部の一部が残存する。頸胴部界にはハケ状工具による刺突文を巡らす。胴部上半はハケ調整、下半はケズリによって仕上げる。逆「S」字状の両端に渦をもつ文様を一単位として刻んだ原体を胴部上端では縦方向に、その下位では横方向に3段ほど印刻するものである。ただし、横方向の印刻はハケによって消され、軸部分のみとなりほとんど見えない。

第52次調査

| | |
|-------|-----------|
| 遺構： | SX-101 |
| 層位： | 第1(下)層 |
| 土色： | 茶灰色粘質土 |
| 取上： | — |
| No.： | 14 |
| 様式： | 大和第IV-2様式 |
| 残存高： | 37.8 |
| 残存胴径： | 26.3 |

031



MP-文様-0065

031 土器文様（双頭渦文）

本文様は、大和第IV-2様式の短頸壺胴部に印刻されたものである。南地区の第65次調査の土坑から出土した。胴部片のみ残存する。胴部上半に双頭渦文を2～3段重複させながら印刻するもので、単位の把握は困難であるが、1つの渦巻きの直径は3.5cmほどである。したがって、タタキ原体の幅はその倍の8cmほどであろう。

031-1

第65次調査

| | |
|------|-----------|
| 遺構： | SK-109 |
| 層位： | 第1(下)層 |
| 土色： | 暗灰褐色土 |
| 取上： | — |
| No.： | 373 |
| 様式： | 大和第IV-2様式 |
| 残存長： | 10.2 |
| 残存幅： | 8.2 |

032



MP-文様-0049

032 土器文様（渦文）

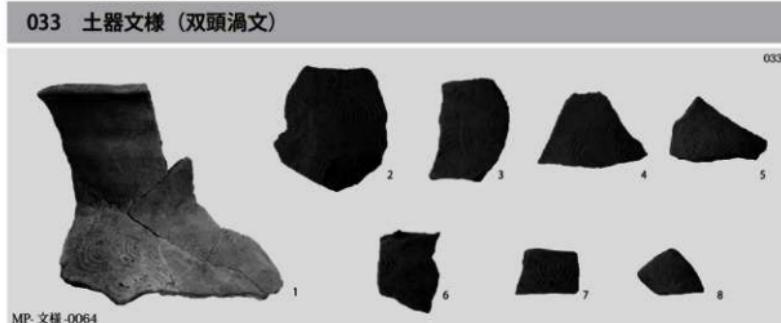
本文様は、大和第V様式の短頸壺胴部に印刻されたものである。南地区の第76次調査の環濠などから出土した。胴部片のみ残存する。胴部上端に円形竹管文を巡らす。その下に右斜めを向く渦巻き1つを一単位として刻んだ原体を印刻して巡らすものである。

第76次調査

| | |
|------|---------|
| 遺構： | SD-1107 |
| 層位： | — |
| 土色： | 灰黒粘 |
| 取上： | — |
| No.： | 221 |
| 様式： | 大和第V様式 |
| 残存長： | 7.5 |
| 残存幅： | 11.0 |

033 土器文様（双頭渦文）

033



MP.文様-0064

本文様は、大和第IV・2様式の短頸壺胴部に印刻されたものである。南地区の第33次調査の井戸、第69次調査の区画溝などから出土した。頸胴部界にはハケ状工具による刺突文を巡らす。胴部下半はケズリによって仕上げる。双頭渦文は、胴部上半に2~3段右回りに印刻されているが、ハケ調整によって一部消されている。

033-1

第33次調査

遺構: SK-159

層位: 第2層

土色: 炭灰層

取上: 一

No: 743

様式: 大和第IV・2様式

残存高: 12.6

残存幅: 14.5

034 土器文様（方画文）

034



MP.文様-0042

本文様は、大和第IV様式の壺と思われる胴部に印刻されたものである。北西端の第19次調査の環濠から出土した。胴部下半が残存する。胴部の上半はタタキがハケ調整によって消されており明確ではないが、下半は方画文タタキが残っている。重複により方画文の全体が不明であるが、およそ4×5cmで9つの長方形の囲みで構成されている。

第19次調査

遺構: SD-204

層位: 第5層

土色: 灰黑色粗砂

取上: G-503

No: 748

様式: 大和第IV様式

残存高: 21.2

残存幅: 13.1

035



MP- 文様 -0048

035 土器文様（鉤状文）

本文様は、大和第V様式の有孔鉢に印刻されたものである。南地区の第69次調査の環濠から出土した。完形品である。有孔鉢の胸部上半に印刻された鉤状文で、左上がりの並行タタキ後に縱方向に鉤状文タタキをおこなうが、鉤部分はわずかに円弧が残る程度で全体像と単位はおさえられない。鉢上半と下半では胎土である粘土が異なる。

第 69 次調査

遺構 : SD-1109

層位 : 第5(下)層

土色 : 一

取上 : 土 -7510

No. : 721

様式 : 大和第V様式

口径 : 13.5

高さ : 10.6

036



MP- 文様 -0014

036 土器文様（綾杉文）

本文様は、大和第V様式の器台胸部にヘラ描きされたものである。北西端の第13次調査の環濠から出土した。胸部下半の破片である。胸部中央と裾部に縦凹線文を巡らせ、その間の4方に長方形の透孔を入れる。この透孔間に縱方向の綾杉文を3帯挿入する。綾杉文はまず羽状に描いた後、中軸線を描く。線刻部にはわずかに赤彩が残る。

第 13 次調査

遺構 : SD-06

層位 : 崩壊土

土色 : 一

取上 : 一

No. : 308

様式 : 大和第V様式

残存長 : 10.4

残存幅 : 10.6

037



MP- 文様 -0022

037 土器文様（山形文・簾状文）

本文様は、大和第V様式の高坏に櫛描きされたものである。西地区北部の第37次調査の河跡から出土した。坏部の一部を欠くが、ほぼ完形である。脚裾部には櫛描きの山形文と直線文、坏部には2帯の山形文の間に簾状文を巡らす。また、脚端部と口縁端部には刻目を入れる。坏部内面にはミガキ(暗文)を放射状に入れる。

第 37 次調査

遺構 : SX-2101

層位 : 第8層

土色 : 灰黒色粘砂

取上 : 一

No. : 305

様式 : 大和第V様式

高さ : 12.5

口径 : 12.4

038



MP- 文様 -0043

038 土器文様（山形文・簾状文）

本文様は、大和第V様式の高坏に櫛描きされたものである。北東端の第24次調査の環濠から出土した。「ハ」字状に拡がる脚部の破片である。脚裾部には櫛描きの2帯の簾状文の間に山形文を巡らす。文様の上には、2孔一対の円形透孔を2段並べる。

第 24 次調査

遺構 : SD-107

層位 : 第4層

土色 : 植物層

取上 : 一

No. : 189

様式 : 大和第V様式

残存長 : 11.0

残存幅 : 15.2

039 土器文様（半円文・直線文）

本文様は、大和第VI-3様式の細頸壺に印刻・櫛描きされたものである。西地区中央部の第14次調査の井戸から出土した。半円文は半裁竹管状工具により印刻され、頸部下端から口縁部へ半円文と直線文を交互に入れ。上段の2つの半円文は上下に逆方向の半円文を重ねることで逆「S」字状を呈す。また、消された半円文もみられる。

| |
|--------------|
| 第14次調査 |
| 遺構：SK-102 |
| 層位：下層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：土-05 |
| No：27 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：19.2 |
| 胸径：14.4 |



039

040 土器文様（弧帯文）



MP. 特殊 -0106



MP. 特殊 -0106



040

| |
|--------------|
| 第13次調査 |
| 遺構：SD-02 |
| 層位：砂層 |
| 土色：— |
| 取上：土-3 |
| No：72 |
| 様式：大和第V様式 |
| 高さ：17.8 |
| 胸径：18.5×15.3 |

041 土器文様（弧帯文）

本文様は、大和第VI-3様式の壺にヘラ描きされたものである。西地区の第14次調査の井戸から出土した。ナデ調整で仕上げられた壺胴部中央の破片である。弧帯文は明瞭な線刻で、胴部の一部に描かれたと思われる。「S」字状の文様を縱方向に書き、上方の曲線の右側や交点部分に撥状の線刻をいれるものである。

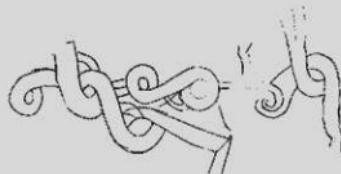
| |
|--------------|
| 第14次調査 |
| 遺構：SK-106 |
| 層位：上層 |
| 土色：黒粘 |
| 取上：— |
| No：53 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 残存長：7.7 |
| 残存幅：11.4 |



041

042 土器文様（弧帯文）

042



MP- 文様 -0041

本文様は、大和第VI-3様式の小形台付長頸壺にヘラ描きされたものである。南東端の第91次調査の環濠から出土した。ナデ調整で仕上げられた壺で、口縁部と脚台部の一部を欠損する。胴部の全面に細線で文様を描く。弧帯文は、逆「S」字状・「S」字状の文様を横方向に連続的に組み合わせたものである。

| |
|-----------------|
| 第 91 次調査 |
| 遺構 : SD-101B |
| 層位 : 第 6(下)層 |
| 土色 : 黒灰色粘土 |
| 取上 : — |
| No. : 346 |
| 様式 : 大和第VI-3 様式 |
| 復元高 : 10.4 |
| 胴 径 : 7.0 |

043



MP- 文様 -0002

043 土器文様（弧帯文）

本文様は、大和第VI-3様式の小形長頸壺にヘラ描きされたものである。南東端の第91次調査の環濠から出土した。口縁部の一部が欠損する。弧帯文は壺胴部の一部に描かれ、その主体となる逆「S」字状文様は3本一単位で、下側の曲線は底部近くで、表現できていない。この曲線に組み合う曲線は頸部から底部方向に描かれている。

| |
|-----------------|
| 第 91 次調査 |
| 遺構 : SD-103 |
| 層位 : 第 2(下)層 |
| 土色 : — |
| 取上 : G-261 |
| No. : 185 |
| 様式 : 大和第VI-3 様式 |
| 高さ : 9.2 |
| 胴径 : 7.5 |

044



MP- 文様 -0040

044 土器文様（弧帯文）

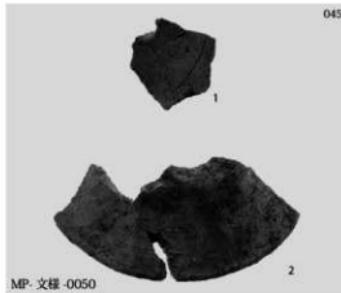
本文様は、大和第VI-3様式の壺にヘラ描きされたものである。南東端の第40・86次調査の環濠から出土した。ナデ調整で仕上げられた壺で、壺胴部中央の2破片が残存する。文様は部分的に明瞭に描かれている。弧帯文の全体は不明であるが、3~5本を一単位とする曲線が組み合わされている。第1破片は梢円形状、第2破片は壺状の文様となっている。

| |
|-----------------|
| 第 40 次調査 |
| 遺構 : SD-101 |
| 層位 : 第 4(上)層 |
| 土色 : 灰褐色砂質土 |
| 取上 : — |
| No. : 179 |
| 様式 : 大和第VI-3 様式 |
| 残存長 : 9.7 |
| 残存幅 : 10.6 |

045 土器文様（弧帯文）

本文様は、大和第VI-3様式の器台にヘラ描きされたものである。西地区の第99次調査の環濠から出土した。胴部中央から裾部の破片が残存する。文様は細線で全周し、基本的には2本一単位で描かれるが、その2本線で構成された文様間に1本線が挿入される。弧帯文は、左斜め方向と横方向の弧線が組み合うように描かれている。

| |
|--------------|
| 第99次調査 |
| 遺構：SD-8101 |
| 層位：第1層 |
| 土色：黒褐色粘質土 |
| 取上：その1 |
| No：65 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 残存高：4.8 |
| 復元周径：16.0 |



MP-文様-0050

046 土器文様（ヒレ形文等）

MP-文様-0067



046

本文様は、大和第VI-3様式の小形長頸壺にヘラ描きされたものである。西地区の第74次調査の井戸から出土した。ほぼ完形の壺である。文様は明瞭な細線で、口頭部では上から波状文・斜格文と弧帶文・弧帶文風文様とヒレ形文・斜線文を全周させている。弧帶文風文様は全体の2/3を占め、2本一単位で波状に描きその上下に溝文を挿入するものである。残りの1/3にはヒレ形文を上の山形文から、あるいは下の斜線文から互いに向き合うように描いている。胴部の文様は、胴部中央を界に上下に桥をつくるように描かれている。2本一単位で、上端の横線を引いた後、12方向に垂下させる縦線、そして胴部中央の横線、底部近くの横線を引いている。これら文様が描かれる前にも何らかの文様などが描かれていたよううで、胴部上端や底部近くにナデによって消されなかつたわずかな線刻がある。

| |
|--------------|
| 第74次調査 |
| 遺構：SK-119 |
| 層位：第1層 |
| 土色：— |
| 取上：土-150 |
| No：616 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 高さ：13.0 |
| 周径：10.2 |

047 土器文様（ヒレ形文）

本文様は、大和第VI-3様式の長頸壺の口頭部にヘラ描きされたものである。北地区の第59次調査の黒褐色土層から出土した。口頭部の一部のみ残存する。文様は頭部を全周させるように描かれたと思われ、明瞭な線刻である。1条の直線文を描き、その直線と重なるように三日月形の上半部分のようなヒレ形文を連続的に描いている。

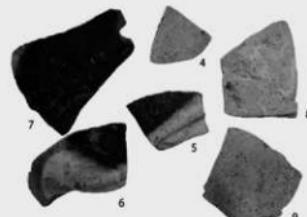
| |
|--------------|
| 第59次調査 |
| 遺構：— |
| 層位：— |
| 土色：黒褐色土 |
| 取上：その1 |
| No：52 |
| 様式：大和第VI-3様式 |
| 残存長：5.0 |
| 残存幅：6.6 |



MP-文様-0066



絵画002(MP-絵画-0086)残片



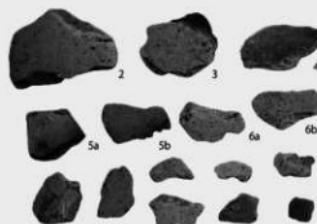
絵画008(MP-絵画-0069)残片



絵画009(MP-絵画-0076)残片



絵画014(MP-絵画-0087)残片



絵画015(MP-絵画-0021)残片



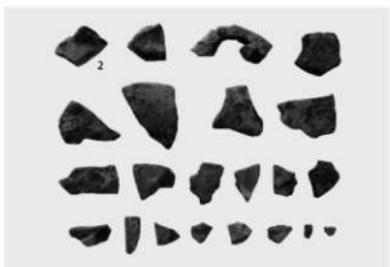
絵画016(MP-絵画-0088)残片



絵画019(MP-絵画-0065)残片



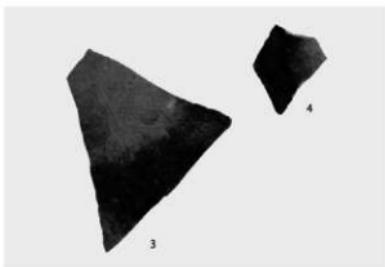
絵画022(MP-絵画-0026)残片



絵画024(MP-絵画-0012)残片



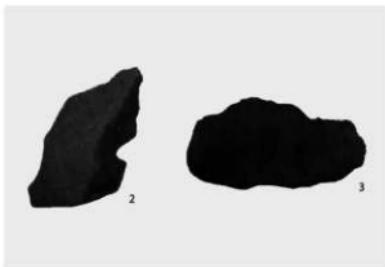
絵画048(MP-絵画-0010)残片



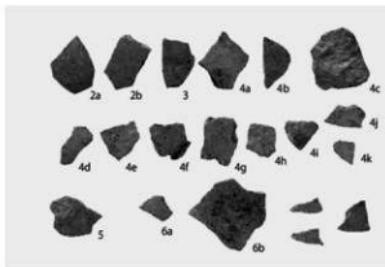
絵画050(MP-絵画-0003)残片



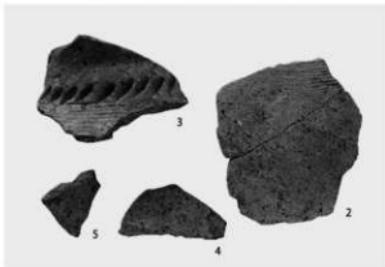
絵画066(MP-絵画-0082)残片



絵画085(MP-絵画-0101)残片



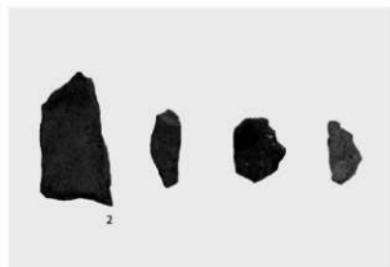
絵画089(MP-絵画-0020)残片



絵画090(MP-絵画-0022)残片



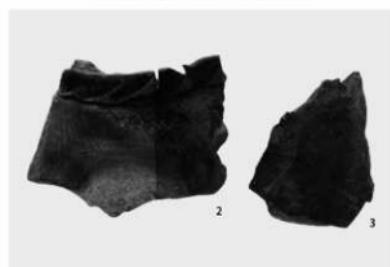
絵画094(MP-絵画-0004)残片



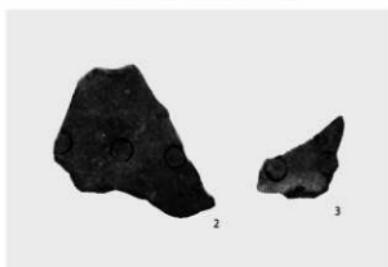
絵画095(MP-絵画-0120)残片



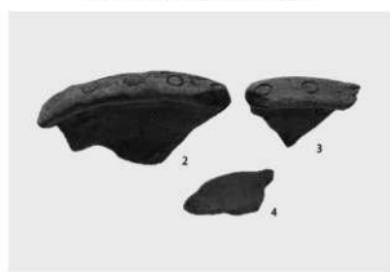
絵画101(MP-絵画-0154)残片



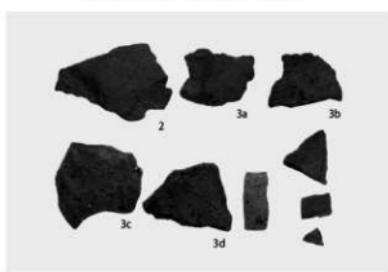
絵画102(MP-絵画-0131)残片



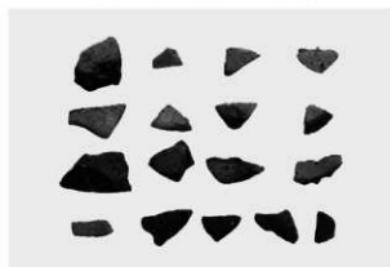
絵画115(MP-絵画-0140)残片



絵画119(MP-絵画-0116)残片



記号008(MP-記号-0071)残片



記号020(MP-記号-0036)残片



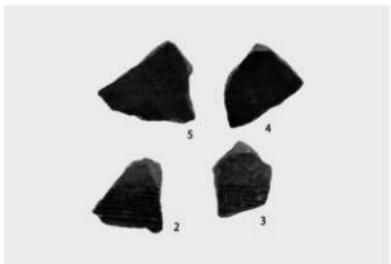
記号081(MP-記号-0114)残片



文様011(MP-文様-0068)残片



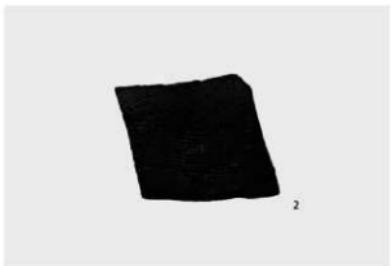
文様016(MP-文様-0011)残片



文様017(MP-文様-0090)残片



文様030(MP-文様-0020)残片



文様038(MP-文様-0043)残片

附

絵画土器一覧表

| 測量番号 | 管理番号 (Mコード) | 調査 次数 | 遺構名 | 層位 | 土色 | 取上 | No | 様式/ 時期 | 法量 | 備考 | 掲載 ページ |
|-------|----------------|--------------|---------|--------|--------|--------|-----|-----------|---|----|-----------|
| 絵画001 | MP-絵画-0008 | 8 | — | — | 暗褐色包含物 | — | — | IV-1 | 高80.6、幅径54.0、 厚1.6 | 20 | |
| | | 8 | 大溝 | 上層 | — | — | — | | | | |
| | | 8 | SD-01 | — | 暗黒褐色土 | — | — | | | | |
| | | 8 | 大溝 | 第2層 | 暗青灰色粘土 | — | — | | | | |
| | | 8 | — | 包含物 | — | — | — | | | | |
| | | 22 | — | 第1層 | 黑色土 | — | 4 | | | | |
| | | 22 | — | 第0層 | 黒褐色土 | — | 10 | | | | |
| | | 22 | — | 第Ⅱ層 | 黒褐色土 | — | 11 | | | | |
| | | 22 | 中世大溝 | 第1層 | 暗褐色土 | — | 30 | | | | |
| | | 22 | 中世大溝 | 第3層 | 灰粘 | — | 49 | | | | |
| | | 22 | 中世大溝 | 第3層 | 灰粘 | — | 52 | | | | |
| | | 22 | 中世大溝 | 第3層 | 灰粘 | — | 57 | | | | |
| | | 22 | 中世大溝 | 第4層 | 灰白色粘砂 | — | 63 | | | | |
| | | 22 | 中世大溝 | 第1~3層 | — | — | 104 | | | | |
| | | 22 | SK-101 | 第1(下)層 | 黑色粘質土 | 土-124 | 180 | | | | |
| | | 38 | SD-51 | — | — | — | — | | | | |
| | | 22 | 中世大溝 | 第3層 | 灰粘 | — | 53 | | | | |
| | | 22 | 中世大溝 | 第3~5層 | 灰黑粘 | — | 111 | | | | |
| 絵画002 | MP-絵画-0086-1 | 80 | SD-101 | 第6層 | 黒灰白色粘砂 | — | 185 | IV-1 | 長(29.5)、幅(27.0)、 厚0.8 | 20 | |
| | | 80 | SD-101B | 第9層 | 灰黑粘 | — | 226 | | | | |
| | | 80 | SD-101B | 第10層 | 黑粘 | — | 230 | | | | |
| | | 80 | SD-101B | 第10層 | 黑粘 | — | 231 | | | | |
| | | 80 | SD-101C | 第12層 | 黑粘 | — | 330 | | | | |
| | | 80 | — | — | 暗褐色粘質土 | — | 29 | | | | |
| | | 80 | SD-101 | 第5層 | 暗灰褐色 | — | 180 | | | | |
| | | 80 | SD-101B | 第9層 | 黑粘 | — | 226 | | | | |
| | | 80 | SD-101C | 第12層 | 黑粘 | — | 330 | | | | |
| | | MP-絵画-0086-4 | SD-101 | 第6層 | 黒灰色粘砂 | — | 176 | | | | |
| | | MP-絵画-0086-5 | SD-101 | 第7層 | 暗灰白色粘砂 | — | 150 | | | | |
| | | MP-絵画-0086-6 | SD-101 | 第5層 | 暗灰褐色粘砂 | — | 136 | | | | |
| | | MP-絵画-0086-7 | SD-101 | 第5層 | 暗灰褐色粘砂 | — | 180 | | | | |
| | | MP-絵画-0086-8 | SD-101 | 第7層 | 暗灰褐色粘砂 | — | 150 | | | | |
| | | MP-絵画-0086-8 | SD-101 | 第5層 | 暗灰褐色粘砂 | — | 160 | | | | |
| 絵画003 | MP-絵画-0061-1 | 59 | SD-1102 | 第2層 | — | 土-2298 | 391 | III-4 | 長(11.5)、幅(17.9)、 厚1.0 | 21 | |
| | | 59 | SD-1102 | 第2層 | — | 土-3207 | 391 | | | | |
| | | 59 | SD-1102 | 第2層 | 黑色粘質土 | その1 | 395 | | | | |
| | | 59 | SD-1102 | 第2層 | — | 土-2299 | 391 | | | | |
| 絵画004 | MP-絵画-0061-2 | 59 | SD-1102 | 第2層 | — | 土-1213 | 375 | V-1 | 長(10.0)、幅(8.0)、 厚0.8 | 21 | |
| | | 59 | SD-1102 | 第1層 | 黑色粘質土 | — | 327 | | | | |
| | | 59 | SD-1102 | 第1層 | 黑色粘質土 | — | 334 | | | | |
| 絵画004 | MP-絵画-0073-1 | 63 | SD-103B | 第2層(下) | 灰黑粘 | — | 249 | V-1 | 長(7.5)、幅(12.9)、 厚1.1 | 21 | |
| | MP-絵画-0073-2 | 63 | SD-103B | 第2層 | 灰黑粘 | — | 225 | | | | |
| | MP-絵画-0073-3 | 63 | SD-103A | 第1層(下) | 暗褐色粘質土 | — | 205 | | | | |
| 絵画005 | MP-絵画-0070-1 | 73 | SD-103 | 第3層 | 灰黑粘 | — | 135 | IV-1 | 高(13.8)、幅(11.0)、 厚0.9 | 22 | |
| | MP-絵画-0078-1 | 62 | SD-101 | 第4~6層 | 暗黄灰色土 | — | 128 | | | | |
| 絵画006 | MP-絵画-0078-2 | 62 | SD-101 | 第4~6層 | 灰黑粘 | — | 125 | IV-1 | 長(9.2)、幅(8.2)、厚0.8 長(10.5)、幅(8.8)、 厚1.0 | 22 | |
| | MP-絵画-0079-1 | 63 | SD-103B | 第1(下)層 | 暗褐色粘質土 | — | 136 | | | | |
| 絵画007 | MP-絵画-0079-2 | 63 | SD-103B | 第3層 | 灰黑粘 | — | 263 | IV + V | 長(5.7)、幅(5.3)、厚0.5 長(4.3)、幅(4.5)、厚0.5 | 23 | |
| | MP-絵画-0079-2 | 63 | SD-103B | 第3層 | 灰黑粘 | — | 263 | | | | |
| 絵画008 | MP-絵画-0069-1 | 72 | SD-107 | 第3層 | 灰黑粘 | — | 241 | V-1 | 長(10.8)、幅(9.3)、 厚0.8 | 23 | |
| | MP-絵画-0069-2 | 76 | SD-1107 | 第2(下)層 | 灰黑色粘質土 | — | 489 | | | | |
| | MP-絵画-0069-3 | 76 | SD-1107 | 第2(下)層 | 灰黑色粘質土 | — | 214 | | | | |
| | MP-絵画-0069-4 | 72 | SD-107 | 第3層 | 灰黑粘 | — | 226 | | | | |
| | MP-絵画-0069-5 | 72 | SD-107 | 第3層 | 灰黑粘 | — | 189 | | | | |
| | MP-絵画-0069-6 | 72 | SD-107 | 第3層 | 灰黑粘 | — | 235 | | | | |
| | MP-絵画-0069-7 | 76 | SD-1107 | 第1~2層 | 暗褐色粘土 | — | 213 | | | | |
| | MP-絵画-0069-7 | 76 | SD-1107 | 第2(下)層 | 灰黑色粘質土 | — | 214 | | | | |
| | MP-絵画-0069-8 | 72 | SD-107 | 第3層 | 灰黑粘 | — | 189 | | | | |
| | MP-絵画-0069-9 | 76 | SD-107 | 第3層 | 灰黑粘 | — | 226 | | | | |
| | MP-絵画-0069-9 | 76 | SD-107 | 第3層 | 灰黑粘 | — | 235 | | | | |

2. 遺物一覧表

| 掲載番号 | 管理番号 (Mコード) | 調査 次数 | 遺物名 | 層位 | 土色 | 取上 | No. | 様式 / 時期 | 法量 | 備考 | 掲載 ページ |
|-------|----------------|----------|----------|---------|----------------|-------|------|------------|---|----|-----------|
| 竪画009 | MP-絵画-0076-1 | 72 | SD-107 | 第3層 | 灰黒粘 | — | 241 | V-1 | 長(15.2), 幅(11.0), 厚0.6 長(5.9), 幅(8.7), 厚0.8 長(5.3), 幅(5.0), 厚0.5 | 24 | |
| | MP-絵画-0076-2 | 72 | SD-107 | 第3層 | 灰黒粘 | — | 237 | | | | |
| | MP-絵画-0076-3 | 72 | SD-107 | 第3層 | 灰黒粘 | — | 225 | | | | |
| | MP-絵画-0076-3 | 72 | SD-107 | 第3層 | 灰黒粘 | — | 225 | | | | |
| | MP-絵画-0074 | 69 | SD-1104 | 第3層 | 暗灰粘 | — | 1727 | IV | 長(6.8), 幅(5.3), 厚0.9 | 24 | |
| 竪画011 | MP-絵画-0098 | 3 | SD-02 | — | — | — | — | 中期 | 長(7.4), 幅(8.8), 厚0.5 | 24 | |
| 竪画012 | MP-絵画-0097-1 | 3 | — | 砂層(灰褐色) | — | — | — | — | 長(5.5), 幅(6.4), 厚0.7 | 25 | |
| 竪画012 | MP-絵画-0097-2 | 61 | SK-131 | 第2層 | — | 写-202 | 1038 | IV | 長(10.1), 幅(9.0), 厚0.7 | 25 | |
| 竪画012 | MP-絵画-0097-3 | 61 | — | — | 黒褐色土 | — | 253 | | 長(5.4), 幅(5.4), 厚0.8 | | |
| 竪画013 | MP-絵画-0075-1 | 69 | SD-1125 | 第5層 | 暗灰粘 | — | 1697 | | 長(17.1), 幅(12.0), 厚0.7 | | |
| | MP-絵画-0075-1 | 69 | SD-1125 | 第3(下層) | 暗灰粘 | — | 1805 | IV-2 | 長(17.3), 幅(8.1), 厚0.5 | 25 | |
| | MP-絵画-0075-2 | 69 | — | — | 黒褐色土Ⅱ | — | 1775 | | 長(17.3), 幅(8.1), 厚0.5 | | |
| | MP-絵画-0087-1 | 84 | SD-52 | — | 灰褐色粘質土 | — | 66 | | 長(18.9), 幅(20.1), 厚0.7 | | |
| | MP-絵画-0087-1 | 89 | SD-1114B | 第5層 | 灰色粘砂 | — | 387 | | 長(18.9), 幅(20.1), 厚0.7 | | |
| 竪画014 | MP-絵画-0087-1 | 93 | SD-2067 | 第1層 | 暗灰褐色質土 | — | 14 | IV-2? | 長(8.0), 幅(6.4), 厚0.8 | 26 | |
| | MP-絵画-0087-1 | 93 | — | — | 黒褐色粘質土 | — | 27 | | 長(12.6), 幅(17.9), 厚0.9 | | |
| | MP-絵画-0087-1 | 93 | SD-1114 | 第1層 | 暗褐色粘質土 | — | 318 | | 長(4.2), 幅(8.3), 厚0.7 | | |
| | MP-絵画-0087-2 | 93 | — | — | 黒褐色粘質土 | — | 20 | | 長(4.9), 幅(5.3), 厚0.8 | | |
| | MP-絵画-0087-3 | 93 | SD-1114 | 第1層 | 暗褐色粘質土 | — | 318 | | 長(4.1), 幅(30.1), 厚0.8 | | |
| 竪画015 | MP-絵画-0087-4 | 93 | — | — | 黒褐色粘質土 | — | 20 | V-1 | 高(14.1), 幅(30.1), 厚0.8 | 26 | |
| | MP-絵画-0087-5 | 93 | — | — | 黒褐色粘質土 | — | 20 | | 他に未接合箇所 8点あり | | |
| | MP-絵画-0021-1 | 49 | SD-103 | 第2層 | — | 土:236 | 162 | | 長(6.2), 幅(6.4), 厚0.4 | | |
| | MP-絵画-0021-1 | 49 | SD-103 | 第2層 | — | 土:235 | 162 | | 長(4.3), 幅(4.5), 厚0.3 | | |
| | MP-絵画-0021-1 | 49 | SD-103 | 第2層 | 黒粘 | — | 168 | | 長(2.8), 幅(5.1), 厚0.4 | | |
| 竪画015 | MP-絵画-0021-2 | 49 | SD-103 | 第2層 | 黒粘 | — | 169 | V-1 | 長(3.1), 幅(3.5), 厚0.3 | 26 | |
| | MP-絵画-0021-3 | 49 | SD-103 | 第2層 | 黒粘 | — | 172 | | 長(2.3), 幅(4.1), 厚0.3 | | |
| | MP-絵画-0021-4 | 49 | SD-103 | 第2層 | 黒粘 | — | 172 | | 他に未接合箇所 1点あり | | |
| | MP-絵画-0021-5 | 49 | SD-103 | 第2層 | 黒粘 | 土:287 | 185 | | 長(2.3), 幅(4.1), 厚0.3 | | |
| | MP-絵画-0021-6 | 49 | SD-103 | 第2層 | 黒粘 | — | 172 | | 他に未接合箇所 1点あり | | |
| 竪画016 | MP-絵画-0088-1 | 91 | SD-102 | 第2層 | 暗灰粘 | — | 156 | V | 長(19.8), 幅(14.9), 厚1.0 | 27 | |
| | MP-絵画-0088-1 | 91 | SD-101B | 第6(下層) | 黒灰色粘砂 | その1 | 327 | | | | |
| | MP-絵画-0088-1 | 91 | SD-101B | 第6(下層) | 黒灰色粘砂 | その4 | 355 | | | | |
| | MP-絵画-0088-2 | 91 | SK-103 | — | 黑色粘砂 | — | 536 | | | | |
| | MP-絵画-0088-2 | 91 | SE-01 | 第2層 | 黑色粘砂土 (灰粘土) | — | 540 | | | | |
| 竪画016 | MP-絵画-0088-2 | 91 | SD-101B | 第6(下層) | 黑色粘砂土 | その4 | 355 | V | 接合するが、 現在は個別に 管理 | 27 | |
| | MP-絵画-0088-2 | 91 | SK-103 | — | 黑色粘砂 | — | 536 | | | | |
| | MP-絵画-0088-3 | 91 | SE-01 | 第2層 | 黑色粘質土 (灰粘土) | — | 540 | | | | |
| | MP-絵画-0088-3 | 91 | SD-101B | 第6(下層) | 黑色粘砂 | その2 | 343 | | | | |
| | MP-絵画-0088-3 | 91 | SK-103 | — | 黑色粘砂 | — | 536 | | | | |
| 竪画017 | MP-絵画-0015-1 | 47 | SD-2105 | 第0層 | 暗灰褐色粘質土 | その1 | 273 | IV-1 | 長(8.0), 幅(10.1), 厚1.2 | 27 | |
| | MP-絵画-0015-2 | 47 | SD-2117 | 第1層 | 暗褐色粘土 | — | 327 | | 長(5.9), 幅(8.0), 厚0.9 | | |
| | MP-絵画-0015-3 | 77 | SD-4110 | 第2層 | 暗灰褐色粘質土 | — | 260 | | 長(5.9), 幅(4.6), 厚1.0 | | |
| | MP-絵画-0077-1 | 91 | SD-101B | 第5層 | 明褐色粘質土 | — | 213 | | 長(5.2), 幅(7.7), 厚0.8 | | |
| | MP-絵画-0077-2 | 83 | SD-1110 | 第2(下層) | 灰褐色ルート | — | 223 | | 長(7.4), 幅(5.1), 厚0.8 | | |
| 竪画018 | MP-絵画-0065-1 | 61 | SD-103B | 第5層 | 暗褐色粘質土 | — | 681 | IV-1 | 長(5.7), 幅(18.6), 厚0.9 | 28 | |
| | MP-絵画-0065-1 | 61 | SD-102B | 第6(下層) | 灰黒色粘質土 | — | 773 | | 長(7.2), 幅(9.7), 厚0.8 | | |
| | MP-絵画-0065-2 | 61 | — | — | 灰黄色粘砂 | — | 104 | | 長(5.6), 幅(5.2), 厚0.8 | | |
| 竪画020 | MP-絵画-0091 | 59 | Pt-1109 | — | — | — | 1211 | 中期 | 長(9.0), 幅(11.3), 厚1.0 | 28 | |
| 竪画019 | MP-絵画-0032-1 | 58 | SD-51 | 第3(下層) | 暗灰色粘砂 | — | 74 | IV | 長(9.0), 幅(11.3), 厚1.0 | 29 | |
| | MP-絵画-0032-2 | 58 | SD-51 | 第8層 | 灰黒粘 | — | 158 | | 長(9.4), 幅(7.6), 厚1.0 | | |

| 掲載番号 | 管理番号 (Mコード) | 調査 次数 | 遺構名 | 層位 | 土色 | 取上 | No | 様式/ 時期 | 法量 | 備考 | 掲載 ページ |
|-------|----------------|----------|----------|---------|----------|-------|------|------------------------|------------------------|------------------|-----------|
| 絵画022 | MP-絵画-0026-1 | 51 | SK-104 | 第1層 | 黒褐色土 | — | 22 | 長(9.3), 幅(6.6), 厚1.0 | | | 29 |
| | MP-絵画-0026-2 | 51 | SD-61 | — | 灰褐色粘質土 | — | 8 | 長(3.2), 幅(4.8), 厚1.1 | | | |
| | MP-絵画-0026-3 | 53 | SK-101A | 第2層 | 黒褐色砂質土 | — | 181 | V-I | 長(6.9), 幅(6.9), 厚0.9 | | |
| | MP-絵画-0026-4 | 51 | SD-60 | — | 灰褐色粘質土 | — | 8 | 長(4.7), 幅(4.3), 厚1.0 | | | |
| | MP-絵画-0026-5 | 51 | SD-57 | — | 灰褐色粘質土 | — | 8 | 長(9.6), 幅(11.0), 厚1.2 | | | |
| 絵画023 | MP-絵画-0033 | 61 | SD-102B | 第5(下)層 | 灰黒粘 | — | 678 | V-I | 長(7.0), 幅(11.0), 厚0.6 | | 30 |
| 絵画024 | MP-絵画-0012-1 | 33 | SK-120* | 第0(上)層 | 黒褐色粘質土 | — | 265 | N-I | 高41.0, 幅26.6, 厚0.9 | 後に未接合細片 21点あり | 30 |
| | MP-絵画-0012-2 | 33 | SD-115 | — | 黒褐色土Ⅱ | — | 265 | IV | 長(2.8), 幅(9.9), 厚0.8 | | |
| 絵画025 | MP-絵画-0043 | 69 | — | — | 黑色粘質土 | — | 181 | 中期? | 長(4.7), 幅(4.3), 厚0.7 | | 30 |
| 絵画026 | MP-絵画-0099 | 3 | SD-02 | — | 黒色1 | — | — | 中期 | 長(5.1), 幅(5.7), 厚0.7 | | 30 |
| 絵画027 | MP-絵画-0019 | 48 | — | — | 黑色粘質土 | — | 135 | 中期 | 長(3.9), 幅(2.5), 厚0.7 | | 31 |
| 絵画028 | MP-絵画-0084 | 62 | SD-101 | 第5(下)層 | 灰黒粘(植物) | — | 166 | IV | 長(4.3), 幅(5.3), 厚0.8 | | 31 |
| 絵画029 | MP-絵画-0007 | 22 | SK-52 | 第3層 | 灰褐色砂 | — | 88 | 中期 | 長(3.0), 幅(5.8), 厚0.7 | | 31 |
| 絵画030 | MP-絵画-0103 | 98 | SD-101 | 第11(下)層 | 黒褐色粘質土 | — | 185 | IV? | 長(5.3), 幅(5.0), 厚0.9 | | 31 |
| 絵画031 | MP-絵画-0029 | 53 | SK-101A | 第1層 | 黒褐色砂質土 | — | 55 | 中期 | 長(4.7), 幅(4.2), 厚0.4 | | 32 |
| 絵画032 | MP-絵画-0031 | 58 | SD-51 | 第4(下)層 | 茶灰色砂質土 | — | 79 | IV-I | 長(9.5), 幅(5.0), 厚1.1 | | 32 |
| 絵画033 | MP-絵画-0057 | 59 | — | — | 黒褐色土 | その1 | 52 | 中期 | 長(5.2), 幅(2.8), 厚0.7 | | 32 |
| 絵画034 | MP-絵画-0027 | 52 | SK-101 | 第3-6層 | 暗灰青粘 | — | 24 | IV-2 | 長(9.4), 幅(8.2), 厚0.9 | | 32 |
| 絵画035 | MP-絵画-0006 | 19 | SD-204 | 第5層 | 灰黒色粘砂 | — | 695 | IV | 長(10.8), 幅(8.1), 厚0.6 | | 33 |
| 絵画036 | MP-絵画-0066 | 59 | — | — | 黑色土 | — | 387 | 中期 | 長(7.0), 幅(7.2), 厚1.1 | | 33 |
| 絵画037 | MP-絵画-0030 | 58 | SD-51 | 第8層 | 灰黒粘 | — | 92 | IV | 長(8.2), 幅(8.3), 厚1.0 | | 33 |
| 絵画038 | MP-絵画-0083-1 | 52 | SK-101 | 第1(下)層 | 茶灰色粘質土 | — | 22 | 長(5.3), 幅(3.6), 厚0.8 | | | |
| 絵画039 | MP-絵画-0083-2 | 52 | SK-101 | 第2層 | 灰褐色粘質土 | — | 17 | IV-2 | 長(15.5), 幅(17.4), 厚1.0 | | 33 |
| 絵画040 | MP-絵画-0107 | 61 | SD-101B | 第5層 | 灰黒粘 | その2 | 422 | IV? | 長(2.5), 幅(2.4), 厚0.7 | | 34 |
| 絵画040 | MP-絵画-0106 | 98 | — | — | 黑色粘質土 | — | 92 | IV? | 長(2.3), 幅(3.2), 厚0.7 | | 34 |
| 絵画041 | MP-絵画-0155-1 | 16 | SD-1017 | — | — | — | 61 | IV | 長(5.6), 幅(7.5), 厚0.7 | | 34 |
| 絵画041 | MP-絵画-0155-2 | 16 | SD-1015 | — | 黑色土(下) | — | 74 | IV | 長(3.0), 幅(4.1), 厚0.7 | | 34 |
| 絵画042 | MP-絵画-0005-1 | 19 | 中世大溝 | 第5層 | 暗灰青粘 | — | 29 | 中期 | 長(4.2), 幅(5.3), 厚0.7 | | 34 |
| 絵画042 | MP-絵画-0005-2 | 19 | 中世大溝 | 第6層 | 暗灰色粘砂 | — | 40 | 長(8.5), 幅(7.8), 厚0.8 | | | |
| 絵画043 | MP-絵画-0024 | 50 | SD-108 | 第1層 | 黒褐色砂質土 | — | 47 | 中期 | 長(7.5), 幅(8.1), 厚0.8 | | 35 |
| 絵画044 | MP-絵画-0152 | 37 | — | 第1層 | 黒褐色土 | — | 81 | 中期 | 長(7.9), 幅(8.1), 厚0.8 | | 35 |
| 絵画045 | MP-絵画-0023 | 50 | SD-106 | 第3(上)層 | 灰黒色粘質土 | — | 164 | 中期 | 長(8.1), 幅(7.0), 厚0.7 | | 35 |
| 絵画046 | MP-絵画-0071 | 61 | SD-105 | 第2層 | 黒褐色粘質土 | — | 280 | IV | 長(5.3), 幅(4.6), 厚0.9 | | 35 |
| 絵画047 | MP-絵画-0025 | 50 | SD-108 | 第2層 | 灰灰色粘質土 | — | 257 | III | 長(5.9), 幅(8.8), 厚0.6 | | 36 |
| 絵画048 | MP-絵画-0010-1 | 23 | SK-113 | 第1層 | 黑粘 | — | 137 | | 長(13.7), 幅(19.9), 厚1.0 | | 36 |
| | 23 | SK-113 | 第4層 | 灰黒色粘質土 | — | 402 | II-4 | | 長(4.5), 幅(13.1), 厚1.3 | | |
| | MP-絵画-0010-2 | 23 | SK-113 | 第1層 | 黑粘 | け | 495 | | | | |
| 絵画049 | MP-絵画-0056 | 53 | SK-101A | 第2層 | 黒褐色砂質土 | — | 182 | 中期 | 長(5.8), 幅(5.3), 厚0.8 | | 36 |
| 絵画050 | MP-絵画-0003-1 | 13 | SD-006 | 第0層 | 黒褐色土 | — | 251 | | 長(15.4), 幅(11.5), 厚0.9 | | 36 |
| | SD-006C | 第7層 | 砂質土Ⅱ | 土-1792 | 382 | | | | | | |
| | 13 | SD-006 | 第0層 | 黒褐色土 | — | 251 | | 長(8.7), 幅(4.8), 厚0.7 | | | |
| | 13 | SD-006C | 第6-5層 | 微砂 | — | 342 | IV | 長(13.3), 幅(12.1), 厚0.9 | | | |
| 絵画051 | MP-絵画-0003-3 | 13 | SD-006C | 第7層 | 砂質土Ⅱ | — | 387 | | 長(5.4), 幅(5.1), 厚0.7 | | |
| 絵画051 | MP-絵画-0003-4 | 13 | SD-006C | 第7層 | 砂質土Ⅱ | — | 385 | | | | |
| 絵画052 | MP-絵画-0018 | 47 | SD-2117 | 第1層 | 暗灰灰褐色土 | — | 325 | IV | 長(7.2), 幅(5.1), 厚1.1 | | 37 |
| 絵画052 | MP-絵画-0102 | 98 | SD-101 | 第1層 | — | 土-113 | 146 | IV | 長(7.3), 幅(10.3), 厚1.1 | | 37 |
| 絵画053 | MP-絵画-0156 | 3 | SD-06 | 溝上層 | 黑粘Ⅰ | — | — | IV | 長(12.8), 幅(19.8), 厚1.3 | | 37 |
| 絵画054 | MP-絵画-0158 | 3 | SD-02 | — | 黑色砂質土 | — | — | 中期 | 長(5.5), 幅(4.7), 厚0.8 | | 37 |
| 絵画055 | MP-絵画-0157 | 3 | SD-07 | 包含層 | — | — | — | 中期 | 長(5.8), 幅(4.4), 厚0.9 | | 38 |
| 絵画056 | MP-絵画-0037 | 0 | — | — | — | — | 6 | 中期 | 長(12.9), 幅(11.8), 厚1.7 | | 38 |
| 絵画057 | MP-絵画-0093 | 69 | — | — | 黑色粘質土 | — | 271 | 中期 | 長(8.1), 幅(6.0), 厚0.9 | | 38 |
| 絵画058 | MP-絵画-0151 | 37 | — | 第1層 | 黒褐色土 | — | 49 | IV | 長(5.5), 幅(4.6), 厚0.7 | | 38 |
| 絵画059 | MP-絵画-0068 | 59 | — | — | 黑色粘土 | — | 54 | 中期 | 長(5.8), 幅(5.7), 厚1.0 | | 39 |
| 絵画060 | MP-絵画-0108 | 69 | SD-1123 | 第2層 | 黒褐色粘質土 | — | 1455 | IV-2 | 長(8.2), 幅(5.1), 厚0.8 | | 39 |
| 絵画061 | MP-絵画-0113 | 69 | SD-1103B | 第1層 | 黒褐色土 | — | 691 | IV-2* V-1 | 長(8.0), 幅(4.8), 厚0.8 | | 39 |
| 絵画062 | MP-絵画-0094 | 77 | — | — | 黑色粘質土 | — | 200 | 中期 | 長(5.1), 幅(7.6), 厚1.2 | | 39 |
| 絵画063 | MP-絵画-0095 | 76 | SD-1117 | 第2層 | 暗灰灰褐色粘質土 | — | 319 | 中期 | 長(3.0), 幅(17.3), 厚0.7 | | 40 |

2. 遺物一覧表

| 掲載番号 | 管理番号 (Mコード) | 調査 次数 | 遺物名 | 層位 | 土色 | 取上 | No | 様式 / 時期 | 法量 | 備考 | 掲載 ページ |
|-------|----------------|----------|----------|-----------------|---------|--------|------|------------|--------------------------|-----------------|-----------|
| 絵画064 | MP-絵画-0009 | 23 | - | - | 黒褐色粘質土 | - | 10 | IV? | 長(0.6)、幅(1.7), 厚1.0 | | 40 |
| 絵画065 | MP-絵画-0064 | 61 | SD-101B | 第3層 | 黒褐色粘砂 | - | 28 | IV | 長6.9、幅(2.0), 厚0.8 | | 40 |
| 絵画066 | MP-絵画-0082 | 16 | 包含層 | - | - | - | 287 | IV | 長(2.2)、幅(2.0), 厚0.6 | 他に未接合細片 4点あり | 40 |
| 絵画067 | MP-絵画-0121 | 59 | 麻土 | - | - | - | 1153 | IV? | 長(1.8)、幅(1.6), 厚0.7 | | 41 |
| 絵画068 | MP-絵画-0127 | 76 | - | - | 黒褐色粘質土 | - | 149 | 中期 | 長(4.3)、幅(5.3), 厚0.7 | | 41 |
| 絵画069 | MP-絵画-0125 | 33 | SD-109 | 第7層 | 灰褐色粘質土 | - | 362 | IV | 長(2.2)、幅(5.4), 厚0.7 | | 41 |
| 絵画070 | MP-絵画-0028 | 53 | SR-101A | 第4層 | 灰黒粘 | - | 252 | 中期 | 長(7.0)、幅(8.3), 厚0.9 | | 41 |
| 絵画071 | MP-絵画-0133 | 23 | SR-1101 | 第1層 | 灰白色砂 | - | 416 | IV-I | 長(5.0)、幅(4.5), 厚0.8 | | 42 |
| 絵画072 | MP-絵画-0123 | 19 | - | - | 黑色土Ⅱ | - | 90 | 中期 | 長(6.4)、幅(6.5), 厚0.8 | | 42 |
| 絵画073 | MP-絵画-0128 | 86 | SK-7101 | 第3b層 | 黒色砂 | - | 187 | 中期 | 長(7.1)、幅(6.3), 厚0.8 | | 42 |
| 絵画074 | MP-絵画-0122 | 23 | SR-1101 | 第1層 | 灰白色粘砂 | - | 416 | IV-I | 長(9.5)、幅(12.0), 厚1.0 | | 43 |
| 絵画075 | MP-絵画-0160 | 16 | SD-1017 | - | - | - | 61 | IV | 長(0.8)、幅(7.8), 厚1.1 | | 43 |
| 絵画076 | MP-絵画-0111-1 | 69 | - | - | 暗灰色粘質土 | - | 1672 | 中期 | 長(7.2)、幅(7.7), 厚1.0 | | 43 |
| 絵画077 | MP-絵画-0111-2 | 69 | - | - | 暗灰色粘質土 | - | 1799 | 中期 | 長(5.4)、幅(6.2), 厚0.9 | | 43 |
| 絵画078 | MP-絵画-0114 | 61 | SD-102B | 第5(下)層 | 灰黒粘 | - | 649 | IV-II | 長(4.2)、幅(4.5), 厚0.7 | | 43 |
| 絵画079 | MP-絵画-0118 | 91 | SD-103C | 第6層 | 灰黒粘 | - | 404 | V-I | 長(7.3)、幅(12.4), 厚1.8 | | 42 |
| 絵画080 | MP-絵画-0100 | 63 | SD-103B | 第2層 | 灰黒粘 | - | 232 | V | 長(0.3)、幅(7.6), 厚0.9 | | 44 |
| 絵画080 | MP-絵画-0085 | 65 | - | - | 黒褐色土Ⅱ | - | 268 | V | 長(6.1)、幅(4.6), 厚0.7 | | 44 |
| 絵画081 | MP-絵画-0126-1 | 72 | SD-107 | 第1(下)層 | - | 土-128 | 151 | V | 長(0.7)、幅(9.5), 厚0.6 | 44 | |
| | MP-絵画-0126-2 | 72 | SD-107 | 第1(下)層 | - | G-105 | 151 | | 長(4.0)、幅(7.1), 厚0.6 | | |
| | MP-絵画-0126-3 | 72 | SD-107 | 第1(下)層 | - | G-105 | 151 | | 長(5.5)、幅(5.6), 厚0.6 | | |
| 絵画082 | MP-絵画-0016 | 47 | SD-2101 | 第7層 | 灰黒色砂質土 | その3 | 143 | V-I | 長(8.7)、幅(10.3), 厚1.2 | | 44 |
| 絵画083 | MP-絵画-0072 | 61 | SD-101B | 第5層 | 灰黒粘 | 土-511 | 521 | V-I | 長(8.1)、幅(12.4), 厚0.8 | | 45 |
| 絵画084 | MP-絵画-0159 | 3 | SD-04-05 | - | - | - | - | V | 長(8.1)、幅(6.3), 厚0.5 | | 45 |
| 絵画085 | MP-絵画-0101-1 | 91 | SD-101B | 第6(下)層 | 黒灰色粘砂 | 土-2658 | 327 | W-I | 長(2.7)、幅(22.9), 厚0.9 | 45 | |
| | MP-絵画-0101-2 | 91 | SD-101B | 第6(下)層 | 黒灰色粘砂 | - | 328 | | 長(4.5)、幅(6.3), 厚0.6 | | |
| | MP-絵画-0101-3 | 91 | SD-101B | 第6(下)層 | 黒灰色粘砂 | その1 | 361 | | 長(3.8)、幅(7.4), 厚0.5 | | |
| | MP-絵画-0101-4 | 91 | SD-101B | 第6(下)層 | 黒灰色粘砂 | - | 327 | | 長(1.7)、幅(8.8), 厚0.9 | | |
| 絵画086 | MP-絵画-0096 | 3 | SD-06 | - | 黒粘I | - | - | IV | 長(8.2)、幅(5.1), 厚0.9 | | 46 |
| 絵画087 | MP-絵画-0034 | 61 | SD-102B | 西壁Sec.- 第10層 | - | - | 1623 | IV | 長(8.2)、幅(5.1), 厚0.9 | | 46 |
| 絵画088 | MP-絵画-0063 | 61 | SD-101 | 第1層 | 黒褐色土 | - | 129 | IV | 長(4.8)、幅(4.6), 厚0.8 | | 46 |
| 絵画089 | MP-絵画-0020-1 | 48 | SX-36 | - | 淡灰褐色粘質土 | - | 76 | IV-I | 高さ43.6、斜径29.2, 厚0.9 | 46 | |
| | | 48 | SX-1102 | - | - | - | 85 | | 他に未接合細片 3点あり | | |
| | | 48 | SX-1102 | - | 黒色粘土 | - | 149 | | 高さ43.6、斜径29.2, 厚0.9 | | |
| | | 48 | SX-1102 | - | - | - | 156 | | 他に未接合細片 3点あり | | |
| | | 48 | SX-1102 | 第1層 | 灰黒色粘質土 | - | 218 | | 高さ43.6、斜径29.2, 厚0.9 | | |
| | | 48 | SX-1102 | 第1層 | 灰黒色粘質土 | - | 219 | | 他に未接合細片 3点あり | | |
| | | 48 | SX-1102 | 土器部周辺 | - | - | 149 | | 長(5.9)、幅(4.4), 厚0.4 | | |
| 絵画090 | MP-絵画-0020-2 | 48 | SX-1102 | - | - | - | 76 | IV-I | 長(5.3)、幅(3.5), 厚0.7 | 47 | |
| | | 48 | SD-36 | - | - | - | 85 | | 長(8.1)、幅(5.4), 厚0.8 | | |
| | | 48 | SX-1102 | - | - | - | 252 | | 長(4.3)、幅(5.5), 厚0.6 | | |
| | | 48 | SX-1102 | 第1層 | 黒色粘質土 | - | 219 | | 長(2.9)、幅(3.6), 厚0.6 | | |
| | | 50 | SD-108 | 第1(上)層 | 黒褐色粘土 | - | 214 | | 他に未接合細片 1点あり | | |
| | | 50 | SD-108* | 第1(上)層 | 黒褐色粘土 | - | 215 | | 長(2.8)、幅(20.5), 厚1.1 | | |
| | | 50 | SD-109 | 第1(上)層 | 黒褐色粘土 | - | 222 | | 長(12.9)、幅(10.9), 厚0.8 | | |
| 絵画091 | MP-絵画-0022-1 | 50 | SD-108* | 第1(上)層 | 黒褐色粘土 | - | 252 | IV-I | 長(7.4)、幅(11.6), 厚0.8 | 47 | |
| | | 50 | SD-109 | 第1(上)層 | 黒褐色粘土 | - | 222 | | 長(4.3)、幅(8.6), 厚0.8 | | |
| | | 50 | SD-109 | 第2層 | 灰黒色粘砂 | その2 | 301 | | 長(5.7)、幅(4.6), 厚0.8 | | |
| | | 50 | SD-109 | 第1層 | 黒褐色粘土 | - | 252 | | 長(12.9)、幅(10.9), 厚0.8 | | |
| | | 50 | SD-109 | 第1(上)層 | 黒褐色粘土 | - | 215 | | 長(7.4)、幅(11.6), 厚0.8 | | |
| 絵画091 | MP-絵画-0058 | 65 | - | - | 黒褐色土 | - | 174 | V | 長(9.0)、幅(9.7), 厚0.7 | | 47 |
| 絵画091 | MP-絵画-0058 | 65 | - | - | 黒褐色土Ⅱ | - | 920 | V | 長(9.0)、幅(9.7), 厚0.7 | | 47 |

| 掲載番号 | 管理番号 (Mコード) | 調査 次数 | 遺構名 | 部位 | 土色 | 取上 | No | 様式 / 時期 | 法量 | 備考 | 掲載 ページ |
|-------|----------------|----------|----------|--------------------|--------|--------|-------|------------|--------------------------|----------------|-----------|
| 絵画092 | MP-絵画-0090 | 50 | 落ち込み | 第2層 | 灰黒色粘土 | — | 162 | 中期 | 長(5.8)、幅(2.0)、厚0.6 | | 47 |
| 絵画093 | MP-絵画-0013 | 33 | SK-120 | 第2層 | 灰粘 | ±-219 | 460 | IV-I | 長(16.0)、幅(22.0)、厚0.9 | | 47 |
| 絵画094 | SK-120 | 33 | 第2層 | 灰粘 | — | 492 | | | | | |
| | MP-絵画-0004-1 | 19 | — | — | 黑色土Ⅱ | — | 107 | | | | |
| | SD-102 | 19 | 第2層 | 黒褐色砂質土 | — | 216 | | | | | |
| | SD-102 | 19 | 第2層 | 黒褐色砂質土 | — | 1042 | V-2・3 | | | | 48 |
| 絵画095 | MP-絵画-0004-2 | 19 | SD-102 | 第2層 | — | ±-1241 | 350 | | 長(7.6)、幅(11.2)、厚0.7 | | |
| | MP-絵画-0004-3 | 19 | — | — | 黑色土Ⅱ | — | 107 | | 長(6.0)、幅(6.8)、厚0.6 | | |
| | SD-C-107 | 48 | — | — | 黑色粘質土 | — | 118 | | | | |
| | SD-C-107 | 48 | 第1層 | 灰色粘質土 (頭蓋骨ブロック) | — | 165 | V-3 | | 高24.2、幅20.0、 厚0.6 | に未接合細片 3点あり | 48 |
| 絵画096 | MP-絵画-0150 | 33 | SD-109 | 第5層 | 黑粘 | ±-501 | 275 | VI-3 | 高12.0、幅(8.6)、厚0.4 | | 49 |
| 絵画097 | MP-絵画-0162 | 69 | SD-1109 | 第5(下)層 | — | ±-7548 | 721 | VI-3 | 高14.7、幅(10.5)、 厚0.6 | | 49 |
| 絵画098 | MP-絵画-0149 | 37 | SK-2121 | 第7層 | 黑灰粘 | ±-705 | 416 | VI-3 | 高(2.9)、幅(20.0)、 厚0.6 | | 49 |
| 絵画099 | MP-絵画-0002 | 13 | SD-04 | 中層 | 黑粘 | — | 138 | VI-3 | 高(4.6)、幅(4.8)、厚0.8 | | 50 |
| 絵画100 | MP-絵画-0136 | 33 | SD-108 | 第1層 | 黑褐色土 | — | 276 | III-3 | 高(5.7)、幅(7.4)、厚0.8 | | 50 |
| 絵画101 | MP-絵画-0154-1 | 19 | SD-204 | 第5層 | 灰黑色粘土 | G-501 | 746 | | 長(5.3)、幅(5.6)、厚0.8 | | |
| | SD-204 | 19 | 第4(下)層 | 黑粘 | ±-4234 | 673 | | | | | |
| | SD-204 | 19 | 第4(下)層 | 黑粘 | ±-4246 | 673 | | | 口径20.0、高(13.6) | | |
| | SD-204 | 19 | — | — | — | 660 | IV | | | | 50 |
| 絵画101 | SD-204 | 19 | — | — | — | 698 | | | | | |
| | SD-204 | 19 | — | — | — | 704 | | | | | |
| | SD-204 | 19 | 第4(下)層 | 黑粘 | ±-4245 | 673 | | | 高(15.8)、幅(7.9)、 厚0.8 | | |
| | SD-204 | 19 | 第4(下)層 | 黑粘 | ±-4241 | 673 | | | 長(6.5)、幅(7.1)、厚0.8 | | |
| 絵画102 | MP-絵画-0154-4 | 19 | SD-204 | 第4(下)層 | 黑粘 | ±-4246 | 673 | | | | |
| | SD-006 | 13 | SD-006 | 第0-3層 | — | — | 331 | | 長(7.5)、幅(11.0)、 厚0.9 | | |
| | SD-204 | 19 | 第4(下)層 | 黑粘 | ±-4167 | 673 | | | | | |
| | SD-204 | 19 | 第4(下)層 | 黑粘 | — | 681 | IV | | 長(9.0)、幅(11.8)、 厚0.8 | | 50 |
| 絵画102 | SD-204 | 19 | 第5層 | 灰黑色粘土 | — | 705 | | | | | |
| | SD-204 | 19 | 第4(下)層 | 黑粘 | — | 742 | | | | | |
| | SD-204 | 19 | 第4(下)層 | 黑粘 | ±-4138 | 673 | | | 長(8.4)、幅(8.3)、厚0.9 | | |
| | SD-006 | 13 | SD-006 | 第0-3層 | — | — | 331 | | 長(5.7)、幅(3.3)、厚1.1 | | |
| 絵画103 | MP-絵画-0089 | 46 | SD-101 | 第4層 | 黑褐色粘質土 | — | 17 | IV | 長(5.7)、幅(3.3)、厚1.1 | | 51 |
| 絵画104 | MP-絵画-0092 | 59 | SD-3102 | 第1(下)層 | 黑色土 | — | 645 | 中層 | 長(5.8)、幅(4.8)、厚0.6 | | 51 |
| 絵画105 | MP-絵画-0161 | 13 | SD-006C | 第5層 | 粗砂 | — | 354 | IV | 長(4.8)、幅(3.5)、厚0.7 | | 51 |
| 絵画106 | MP-絵画-0135-1 | 22 | — | 第1(下)層 | 黑色土 | — | 16 | 中期 | 長(4.3)、幅(4.4)、厚0.8 | | 51 |
| 絵画106 | MP-絵画-0135-2 | 22 | SK-52 | 第1(下)層 | 暗褐色粘質土 | — | 107 | IV | 長(4.6)、幅(3.9)、厚0.8 | | 51 |
| 絵画107 | MP-絵画-0147 | 98 | — | — | 黑色砂質土 | — | 20 | IV? | 長(10.7)、幅(7.8)、厚1.3 | | 52 |
| 絵画108 | MP-絵画-0014-1 | 37 | SK-2101 | 第3層 | 黑褐色土 | — | 256 | IV | 長(10.3)、幅(10.8)、 厚1.6 | | 52 |
| 絵画108 | MP-絵画-014-2 | 53 | SK-101A | 第2層 | 暗褐色砂質土 | — | 169 | | 長(8.3)、幅(11.3)、厚1.4 | | |
| 絵画109 | SD-1114 | 89 | SD-1114 | 第3層 | 灰黑色粘土 | — | 309 | | | | |
| | SD-1114 | 89 | SD-1114 | 第2層 | — | ±-1240 | 297 | IV | 長(12.9)、幅(18.3)、 厚0.7 | | |
| | SD-1114 | 89 | SD-1114 | 第3層 | 灰黑色粘土 | — | 307 | | | | |
| | SD-1114B | 89 | SD-1114B | 第6層 | 暗灰粘 | — | 483 | | | | |
| 絵画109 | SD-1114 | 89 | SD-1114 | 第3層 | 灰黑色粘土 | — | 308 | | 長(10.2)、幅(6.0)、厚0.9 | | |
| | SD-1114B | 89 | SD-1114B | 第5層 | 黑色粘砂 | — | 387 | | 長(8.9)、幅(5.1)、厚0.9 | | |
| | SD-1114B | 89 | SD-1114B | 第6層 | 黑色粘土 | — | 150 | IV | 長(7.0)、幅(8.7)、厚0.9 | | 53 |
| | SD-1114B | 89 | SD-1114B | 第4(下)層 | 暗褐色砂質土 | — | 398 | | 長(8.2)、幅(7.2)、厚0.9 | | |
| 絵画110 | SD-1114B | 89 | SD-1114B | 第5層 | 黑色粘砂 | — | 387 | | 長(11.0)、幅(6.4)、厚1.0 | | |
| | SD-102B | 61 | SD-102B | 第4層 | 黑色粘砂 | — | 274 | | 長(8.8)、幅(7.9)、厚1.0 | | |
| | SD-102B | 61 | — | — | 黑色土 | — | 39 | IV | 長(7.5)、幅(8.8)、厚0.9 | | 53 |
| | SD-102B | 61 | — | — | 黑色土Ⅱ | — | 173 | | | | |
| 絵画111 | SD-102B | 61 | — | — | 黑色土Ⅱ | — | 166 | | 長(4.7)、幅(5.0)、厚0.6 | | |
| | SD-102B | 61 | — | — | 黑色土Ⅱ | — | 551 | IV | 長(9.4)、幅(9.4)、厚1.3 | | 54 |
| | SD-107 | 72 | SD-107 | 第2層 | 黑褐色粘土 | — | 162 | | 長(3.6)、幅(3.9)、厚1.0 | | |
| | SD-107 | 72 | SD-107 | 第2層 | 黑褐色粘土 | その1 | 170 | V | 長(7.9)、幅(10.6)、厚1.1 | | |
| 絵画112 | SD-107 | 72 | SD-107 | 第2層 | 黑褐色粘土 | — | 2 | | 長(3.3)、幅(2.9)、厚0.6 | | |
| | SD-107 | 72 | SD-107 | 第2層 | 黑褐色粘土 | — | 210 | | 長(9.3)、幅(7.9)、厚0.3 | | |
| | SK-106 | 61 | SK-106 | 第3層 | 黑色粘砂 | — | 471 | | 長(8.9)、幅(6.2)、厚1.1 | | |
| | SK-106 | 61 | — | — | 黑色土Ⅱ | — | 348 | V | 長(8.9)、幅(6.2)、厚1.1 | | 54 |
| 絵画113 | SK-106 | 61 | — | — | 黑色土Ⅱ | — | 411 | | 長(4.0)、幅(3.1)、厚0.5 | | |
| | SK-106 | 61 | — | — | 黑色粘土 | — | 466 | | 長(4.3)、幅(7.6)、厚0.6 | | |
| | SD-107 | 72 | SD-107 | 第2層 | 暗褐色粘土 | — | 54 | | 長(8.5)、幅(8.2)、厚0.6 | | |
| | SD-107 | 72 | SD-107 | 第2層 | 暗褐色粘土 | — | 58 | | 長(5.0)、幅(5.9)、厚0.6 | | |
| 絵画114 | SD-107 | 72 | SD-107 | 第2層 | 黑色粘質土 | — | 23 | 後期 | 長(2.8)、幅(3.3)、厚0.5 | | 54 |
| | SD-107 | 72 | SD-107 | 第2層 | 黑色粘質土 | — | 48 | | 長(5.5)、幅(7.3)、厚0.7 | | |
| | SD-107 | 72 | SD-107 | 第2層 | 黑色粘質土 | — | 1132 | V | 長(5.5)、幅(7.3)、厚0.7 | | 55 |
| | SD-107 | 72 | SD-107 | 第2層 | 黑色粘質土 | — | | | | | |

2. 遺物一覧表

| 掲載番号 | 管理番号 (Mコード) | 調査 次数 | 遺物名 | 層位 | 土色 | 取上 | % | 様式 / 時期 | 法量 | 備考 | 掲載 ページ | |
|-------|----------------|----------|---------|--------|---------------|-------|-----|-------------------------|------------------------|----|-----------|----|
| 絵画117 | MP-絵画-0119 | 91 | SD-101B | 第6(下)層 | 黒灰色粘土 その2 | 347 | V-2 | 口径14.6、長(11.2), 厚0.7 | | | 55 | |
| | MP-絵画-0142-1 | 69 | SD-1104 | 第2層 | 暗灰褐色粘質土 | — | 439 | 長6.0、幅(7.6), 厚0.6 | | | | |
| 絵画118 | MP-絵画-0142-2 | 69 | SD-1104 | 第2(下)層 | 暗灰褐色粘質土 | — | 714 | IV-2 | 長6.0、幅(8.2), 厚0.7 | | 56 | |
| | MP-絵画-0142-3 | 69 | — | — | 黒褐色土 | — | 242 | 長(3.5)、幅(4.0), 厚0.5 | | | | |
| 絵画119 | MP-絵画-0116-1 | 69 | SD-1109 | 第5層 | 黒色粘質土 (砂混) | — | 227 | 口径29.3、高(12.9), 厚0.9 | V | 56 | | |
| | | 69 | SD-1109 | 第5層 | — | ±2544 | 313 | | | | | |
| | | 69 | SD-1109 | 第5層 | — | ±2508 | 313 | | | | | |
| | | 69 | SD-1109 | 第5層 | — | ±2545 | 313 | | | | | |
| | | 69 | SD-1109 | 第5層 | — | ±2551 | 313 | | | | | |
| | | 69 | SD-1109 | 第5層 | — | G558 | 313 | | | | | |
| | | 69 | SD-1109 | 第5層 | — | G543 | 313 | | | | | |
| | | 69 | SD-1109 | 第5層 | — | ±2505 | 313 | | | | | |
| | | 69 | SD-1109 | 第5(下)層 | — | その2 | 422 | | | | | |
| | | 69 | SD-1109 | 第5層 | — | ±1595 | 313 | | | | | |
| 絵画120 | MP-絵画-0116-4 | 69 | SD-1109 | 第5層 | — | G544 | 313 | 長(7.1)、幅(14.3), 厚0.9 | | | 56 | |
| 絵画121 | MP-絵画-0144 | 69 | SD-1103 | 第1層 | 黒褐色土 | — | 383 | 後期 | 長(4.0)、幅(4.0), 厚0.5 | | | 56 |
| 絵画122 | MP-絵画-0139 | 63 | 落ち込み1 | 第2層 | 灰褐色 | — | 86 | V | 長(8.0)、幅(2.1), 厚0.9 | | | 57 |
| 絵画122 | MP-絵画-0055 | 53 | — | — | 黒褐色土 | — | 22 | 後期 | 長(5.5)、幅(2.3), 厚0.6 | | | 57 |
| 絵画123 | MP-絵画-0141-1 | 69 | — | — | 黒褐色土 | — | 288 | VI | 長(9.7)、幅(8.0), 厚0.6 | | | 57 |
| 絵画123 | MP-絵画-0141-2 | 69 | SD-1104 | 第2層 | — | ±266 | 780 | 長(8.0)、幅(7.7), 厚0.6 | | | 57 | |
| 絵画124 | MP-絵画-0115 | 69 | — | — | 黒褐色土 | — | 114 | VI-3 | 口径10.5、高(9.7), 厚0.5 | | | 57 |

記号土器 一覧表

| 記号番号 | 管理番号 (Mコード) | 調査 次数 | 遺物名 | 層位 | 土色 | 取上 | % | 様式 / 時期 | 法量 | 備考 | 掲載 ページ |
|-------|----------------|----------|---------|-----------|-------|-------|------|------------|--|--------|-----------|
| 記号001 | MP-記号-0106 | 20 | SK-215 | 第2(下)層 | 灰黒粘 | ±1200 | 705 | I-2 | 長(20.9)、幅(23.2), 厚0.8 | | 58 |
| 記号002 | MP-記号-0072 | 53 | SK-101A | 第4(上)層 | — | ±402 | 319 | II-2 | 高(29.1)、胴径21.1, 底径9.6 | | 58 |
| 記号003 | MP-記号-0102 | 37 | SK-2116 | 第4層 | — | ±401 | 1091 | III-2 | — | | 58 |
| 記号003 | MP-記号-0102 | 37 | SK-2116 | 第4層 | — | — | 1087 | III-3 | 口径22.6、高29.3, 胴径23.0 | | 58 |
| 記号004 | MP-記号-0103 | 37 | SK-2116 | 第4層 | 植物留 | — | 1085 | III-3 | 口径13.2、高(12.0), 厚0.8 | | 58 |
| 記号004 | MP-記号-0103 | 37 | SK-2116 | 第4層 | 植物留 | — | 1060 | III-3 | — | | 58 |
| 記号005 | MP-記号-0104-1 | 37 | SK-2114 | 第4層 | 黑粘 | — | 282 | III-3 | 高(32.2)、胴径25.0, 底径8.5 | 59 | |
| | | 37 | SK-2114 | 第3層 | 灰黑色粘土 | ±338 | 264 | | | | |
| | | 37 | SK-2114 | アゼSec.第5層 | 黑灰色粘土 | — | 307 | | | | |
| | | 37 | SK-2114 | 第3層 | 灰黑色粘土 | ±350 | 327 | | | | |
| | | 37 | SK-2114 | 第3層 | 灰黑色粘土 | — | 231 | | | | |
| | | 37 | SK-2114 | 第3層 | 灰黑色粘土 | ±340 | 264 | | | | |
| | | 37 | SK-2114 | 第3層 | 灰黑色粘土 | ±344 | 264 | | | | |
| | | 37 | SK-2114 | 第3層 | 灰黑色粘土 | — | 249 | | | | |
| | | 37 | SK-2114 | 第3層 | 灰黑色粘土 | ±337 | 264 | | | | |
| | | 37 | SK-2114 | 第4層 | 黑粘 | — | 282 | | 長径0.8、幅(3.8), 厚(0.3) | | |
| 記号006 | MP-記号-0101 | 33 | — | 第IV(上)層 | 黑色粘質土 | — | 630 | IV-I | 口径15.7、高16.9, 胴径11.4 | | 59 |
| 記号007 | MP-記号-0098 | 61 | SX-101 | 第1層 | — | ±101 | 490 | IV-I | 高(37.0)、胴径30.0, 底径18.2 | | 59 |
| 記号008 | MP-記号-0071-1 | 48 | SX-1102 | — | — | — | 85 | IV-I | 口径19.8、高(19.3), 厚0.6 長(4.1)、幅(5.9), 厚(0.4) | 59 | |
| | MP-記号-0071-2 | 48 | SD-36 | — | — | — | 76 | | | | |
| | MP-記号-0071-3 | 48 | SX-1102 | — | — | ±69.2 | 85 | | | | |
| 記号009 | MP-記号-0002 | 13 | SK-07 | 第1層 | 黑粘 | ±106 | 529 | IV-I | 口径12.0、高12.3, 胴径6.7 | 井戸供献土器 | 60 |
| 記号010 | MP-記号-0051 | 24 | SD-107 | 第3層 | 黑粘 | ±326 | 170 | VI-3 | 口径15.0、高20.7, 胴径21.0 | | 60 |
| 記号011 | MP-記号-0050 | 69 | SD-1109 | 第5層 | — | ±1505 | 313 | VI-I | 口径10.0、高18.8, 胴径15.0 | | 60 |
| 記号012 | MP-記号-0015 | 33 | SK-125 | 第3層 | — | ±350 | 493 | VI-2 | 口径9.0、高20.3, 胴径11.9 | 井戸供献土器 | 60 |
| 記号013 | MP-記号-0014 | 33 | SK-125 | 第3層 | — | ±355 | 493 | VI-2 | 口径10.1、高22.2, 胴径11.0 | 井戸供献土器 | 61 |
| 記号014 | MP-記号-0004 | 14 | SK-106 | 下層 | 黑粘 | ±d | 37 | VI-3 | 口径14.4、高19.3, 胴径12.4 | 井戸供献土器 | 61 |
| 記号015 | MP-記号-0074 | 62 | SD-101 | 第2層 | — | ±223 | 106 | VI-2 | 口径13.3、高24.4, 胴径14.0 | | 61 |
| 記号016 | MP-記号-0025 | 47 | SD-2101 | 第8層 | — | ±872 | 389 | V-I | 口径16.0、高31.4, 胴径22.8 | | 61 |
| 記号017 | MP-記号-0083 | 74 | SK-119 | 第3層 | — | ±329 | 662 | VI-3 | 口径12.9、高17.0, 胴径14.2 | 井戸供献土器 | 62 |

| 測量番号 | 管理番号 (Mコード) | 調査 次数 | 遺構名 | 層位 | 土色 | 取上 | No | 様式/ 時期 | 法量 | 備考 | 測量 ページ |
|-------|----------------|----------|---------|--------|-------|--------|------|-----------|---------------------------|-----------------------------|-----------|
| 記号018 | MP-記号-0084 | 76 | SD-1106 | 第2層 | - | 土-206 | 104 | V1-3 | 口径10.3、高16.4、 側壁11.6 | | 62 |
| 記号019 | MP-記号-0053 | 74 | SK-119 | 第5層 | - | 土-504 | 691 | V1-3 | 口径10.5、高17.6、 側壁15.0 | 井戸供献土器 | 62 |
| 記号020 | MP-記号-0036 | 33 | SK-125 | 第3層 | - | 土-330 | 420 | V1-2 | 口径10.5、高30.3、 側壁16.5 | 井戸供献土器、 他に未接合繩片 17点あり | 62 |
| | | 33 | SK-125 | 第3層 | - | - | 484 | | | | |
| 記号021 | MP-記号-0010 | 33 | SD-109 | 第5(下)層 | - | 土-5376 | 341 | V1-2 | 口径12.6、高(11.7)、 厚0.7 | | 63 |
| 記号022 | MP-記号-0049 | 69 | SD-1109 | 第5層 | - | 土-580 | 313 | V1-1 | 高20.0、側壁14.5、 底径13.8 | | 63 |
| 記号023 | MP-記号-0056 | 79 | SK-120 | 第5層 | - | 土-503 | 527 | V1-1 | 口径13.2、高28.2、 側壁17.3 | 井戸供献土器 | 63 |
| 記号024 | MP-記号-0001 | 13 | SD-04 | 中層 | 黒粘 | 土-06 | 144 | V1-2 | 高18.4、側壁13.7、 底径5.7 | | 63 |
| 記号025 | MP-記号-0012 | 33 | SK-125 | 第3層 | - | 土-356 | 493 | V1-2 | 口径10.4、高24.7、 側壁13.1 | 井戸供献土器 | 64 |
| 記号026 | MP-記号-0095 | 63 | SK-106 | 第2層 | - | 土-207 | 181 | V1-3 | 口径12.7、高19.9、 側壁19.5 | 井戸供献土器 | 64 |
| 記号027 | MP-記号-0118 | 74 | SK-118 | 第3層 | - | 土-301 | 529 | V1-1 | 口径16.9、高34.5、 側壁21.6 | 井戸供献土器 | 64 |
| 記号028 | MP-記号-0043 | 69 | SD-1109 | 第5(下)層 | - | 土-6562 | 548 | V1-2 | 口径10.3、高28.9、 側壁15.5 | | 64 |
| 記号029 | MP-記号-0044 | 69 | SD-1109 | 第5(下)層 | - | 土-6508 | 548 | V1-1 | 高22.0、側壁15.0、 厚0.5 | | 65 |
| 記号030 | MP-記号-0017 | 33 | SD-109 | 第5(下)層 | 黒粘 | - | 354 | V1-2 | 口径12.5、高20.8、 側壁15.0 | | 65 |
| 記号031 | MP-記号-0091 | 63 | SK-105 | 第2層 | - | 土-202 | 211 | V1-3 | 口径10.4、高21.1、 側壁12.0 | 井戸供献土器 | 65 |
| 記号032 | MP-記号-0009 | 33 | SK-133 | 第2(下)層 | - | 土-205 | 508 | V1-2 | 口径11.9、高18.3、 厚0.7 | 井戸供献土器 | 65 |
| 記号033 | MP-記号-0059 | 69 | SD-1109 | 第5(下)層 | - | 土-6502 | 548 | V1-1 | 口径11.0、高(21.9)、 側壁13.8 | | 66 |
| 記号034 | MP-記号-0057 | 69 | SD-1109 | 第6層 | - | 土-643 | 848 | V1-2 | 高(30.9)、側壁21.1、 底径7.1 | | 66 |
| 記号035 | MP-記号-0027 | 79 | SK-120 | 第6層 | - | 土-601 | 535 | V1-1 | 高29.6、側壁17.1、 厚0.6 | 井戸供献土器 | 66 |
| 記号036 | MP-記号-0040 | 33 | SK-133 | 第3層 | 黒粘 | 土-302 | 510 | V1-2 | 口径10.7、高19.4、 側壁12.0 | 井戸供献土器 | 66 |
| 記号037 | MP-記号-0011 | 33 | SK-114 | 第5層 | - | 土-504 | 476 | V1-3 | 口径12.9、高20.5、 側壁21.1 | 井戸供献土器 | 67 |
| 記号038 | MP-記号-0022 | 14 | SK-106 | 下層 | 黒粘 | 土-21 | 38 | V1-3 | 口径10.7、高20.1、 側壁11.1 | 井戸供献土器 | 67 |
| 記号039 | MP-記号-0097 | 63 | SK-106 | 第2層 | - | 土-210 | 181 | V1-3 | 口径10.7、高21.4、 側壁18.7 | 井戸供献土器 | 67 |
| 記号040 | MP-記号-0019 | 34 | SD-102 | 第3層 | 灰粘 | - | 56 | V1-4 | 高(20.7)、側壁20.5、 底径3.2 | | 67 |
| 記号041 | MP-記号-0088 | 34 | SD-103 | 第1層 | 黑色粘質土 | - | 65 | V1-4 | 口径10.7、高14.2、 側壁13.7 | | 68 |
| 記号042 | MP-記号-0038 | 33 | SK-125 | 第3層 | 黒粘 | 土-344 | 493 | V1-2 | 口径7.7、高22.6、 側壁14.2 | 井戸供献土器 | 68 |
| 記号043 | MP-記号-0081 | 69 | SK-1128 | 第2層 | - | 土-209 | 1840 | V1-3 | 口径9.0、高16.4、 側壁11.5 | 井戸供献土器 | 68 |
| 記号044 | MP-記号-0045 | 69 | SD-1109 | 第6層 | - | 土-620 | 848 | V1-2 | 口径11.9、高23.7、 側壁14.3 | | 68 |
| 記号045 | MP-記号-0005 | 14 | SK-101 | 最下層 | 黒粘 | 土-03 | 3 | V1-3 | 口径11.3、高22.1、 側壁18.4 | 井戸供献土器 | 69 |
| 記号046 | MP-記号-0078 | 62 | SD-101 | 第2層 | - | 土-242 | 106 | V1-3 | 口径8.6、高12.9、 側壁10.4 | | 69 |
| 記号047 | MP-記号-0024 | 49 | SK-111 | 第6層 | - | 土-601 | 143 | V1-3 | 口径11.1、高19.0、 側壁16.3 | 井戸供献土器 | 69 |
| 記号048 | MP-記号-0046 | 69 | SD-1109 | 第6層 | - | 土-602 | 848 | V1-2 | 口径10.5、高26.8、 側壁14.2 | | 69 |
| 記号049 | MP-記号-0089 | 34 | SD-103 | 第2層 | 黒粘 | - | 77 | V1-2 | 口径10.9、高24.2、 側壁13.8 | | 70 |
| 記号050 | MP-記号-0003 | 13 | SD-068 | 第4層 | 灰黒粘 | 土-401 | 335 | V1-1 | 口径12.4、高26.6、 側壁15.5 | | 70 |
| 記号051 | MP-記号-0062 | 69 | SD-1102 | 第2(下)層 | - | 土-1252 | 1250 | V1-1 | 口径10.2、高25.0、 側壁14.6 | | 70 |
| 記号052 | MP-記号-0023 | 37 | SK-2121 | 第7層 | 黒灰粘 | 土-703 | 416 | V1-3 | 口径14.0、高25.9、 側壁23.9 | 井戸供献土器 | 70 |
| 記号053 | MP-記号-0021 | 14 | SK-106 | 中層 | 黒粘 | 土-32 | 49 | V1-3 | 口径9.9、高14.6、 側壁10.3 | 井戸供献土器 | 71 |
| 記号054 | MP-記号-0116 | 91 | SD-101B | 第6(下)層 | - | 土-2687 | 361 | V1-2 | 口径10.2、高20.0、 側壁12.8 | | 71 |
| 記号055 | MP-記号-0054 | 74 | SK-119 | 第4層 | - | 土-401 | 684 | V1-3 | 口径13.0、高23.4、 側壁18.1 | 井戸供献土器 | 71 |
| 記号056 | MP-記号-0119 | 93 | SK-1120 | 第8層 | - | 土-802 | 306 | V1-2 | 高27.6、側壁19.3、 厚0.7 | 井戸供献土器 | 71 |
| 記号057 | MP-記号-0029 | 74 | SK-119 | 第6層 | - | 土-604 | 980 | V1-3 | 口径9.5、高20.9、 側壁11.1 | 井戸供献土器 | 72 |

2. 遺物一覧表

| 掲載番号 | 管理番号 (Mコード) | 調査 次数 | 遺構名 | 層位 | 土色 | 取上 | No | 様式 / 時期 | 法量 | 備考 | 掲載 ページ |
|-------|----------------|----------|---------|--------|---------------|--------|------|------------|---------------------------|-----------------|-----------|
| 記号058 | MP-記号-0052 | 74 | SK-119 | 第6層 | — | 土-602 | 980 | VI-3 | 口径12.4、高20.4、 胴径17.6 | 井戸供献土器 | 72 |
| 記号059 | MP-記号-0108 | 37 | SK-2122 | 第13層 | — | 土-1301 | 944 | VI-1 | 口径12.8、高27.5、 胴径16.0 | 井戸供献土器 | 72 |
| 記号060 | MP-記号-0064 | 14 | SK-101 | 中層 | 黒粘 | 土-05 | 17 | VI-3 | 高16.7、胴径16.3、 底径14.2 | 井戸供献土器 | 72 |
| 記号061 | MP-記号-0096 | 63 | SK-106 | 第2層 | — | 土-208 | 181 | VI-3 | 口径12.6、高21.9、 胴径19.5 | 井戸供献土器 | 73 |
| 記号062 | MP-記号-0026 | 79 | SK-120 | 第6層 | — | 土-603 | 535 | VI-1 | 口径12.0、高23.5、 胴径13.7 | 井戸供献土器 | 73 |
| 記号063 | MP-記号-0055 | 79 | SK-120 | 第5層 | — | 土-502 | 527 | VI-1 | 口径17.7、高27.5、 胴径13.4 | 井戸供献土器 | 73 |
| 記号064 | MP-記号-0080 | 69 | SK-1103 | 第4層 | — | 土-444 | 1489 | VI-2 | 口径11.1、高(20.1)、 胴径14.5 | | 73 |
| 記号065 | MP-記号-0020 | 37 | SK-2103 | 第6層 | 灰粘 | 土-601 | 274 | V-I | 口径13.3、高28.8、 胴径20.3 | 井戸供献土器 | 74 |
| 記号066 | MP-記号-0087 | 76 | SK-1108 | 第3層 | — | 土-302 | 411 | V-I | 口径11.5、高29.1、 胴径19.0 | 井戸供献土器 | 74 |
| 記号067 | MP-記号-0117 | 91 | SD-101B | 第6(下)層 | — | 土-2688 | 361 | V-2 | 口径2.2、高21.4、 胴径1.7 | | 74 |
| 記号068 | MP-記号-0094 | 63 | SK-106 | 第2層 | — | 土-206 | 181 | VI-3 | 口径1.0、高21.8、 胴径1.7 | 井戸供献土器 | 74 |
| 記号069 | MP-記号-0032 | 54 | SR-102A | 第3層 | — | 土-301 | 11 | VI-3 | 口径4.2、高24.9、 胴径19.9 | | 75 |
| 記号070 | MP-記号-0107 | 37 | SD-2101 | 第4層 | — | 土-402 | 42 | VI-2 | 口径11.6、高24.5、 胴径14.7 | | 75 |
| 記号071 | MP-記号-0109 | 37 | SK-2122 | 第25層 | — | 土-2503 | 1010 | VI-1 | 口径1.2、高28.0、 胴径15.2 | 井戸供献土器 | 75 |
| | | 37 | SK-2122 | 第26層 | 黒灰色粘質土 その1 | — | 1024 | | | | |
| 記号072 | MP-記号-0110 | 48 | SK-1114 | 第3層 | — | — | 408 | VI-2 | 口径10.5、高26.0、 胴径16.2 | 井戸供献土器 | 75 |
| 記号073 | MP-記号-0018 | 33 | SD-109 | 第4層 | 黒粘 | 土-401 | 238 | VI-1 | 口径13.0、高29.1、 胴径17.0 | | 76 |
| 記号074 | MP-記号-0016 | 33 | SK-125 | 第6層 | 黒粘ソフト | 土-603 | 506 | VI-2 | 口径11.5、高27.0、 胴径16.5 | 井戸供献土器 | 76 |
| 記号075 | MP-記号-0060 | 69 | SD-1109 | 第6層 | — | 土-613 | 848 | VI-1 | 高(6.2)、胴径16.9、 厚0.6 | | 76 |
| 記号076 | MP-記号-0008 | 33 | SD-109 | 第5層 | 黒粘 | 土-505 | 275 | VI-3 | 口径10.2、高17.3、 胴径11.0 | | 76 |
| 記号077 | MP-記号-0093 | 63 | SK-106 | 第2層 | — | 土-204 | 181 | VI-3 | 口径17.0、高32.4、 胴径17.8 | 井戸供献土器 | 77 |
| 記号078 | MP-記号-0092 | 63 | SK-106 | 第2層 | — | 土-203 | 181 | VI-3 | 口径14.9、高24.1、 胴径19.6 | 井戸供献土器 | 77 |
| 記号079 | MP-記号-0115 | 91 | SD-101B | 第6(下)層 | — | 土-2683 | 361 | V-2 | 口径10.8、高21.4、 胴径15.8 | | 77 |
| 記号080 | MP-記号-0073 | 62 | SD-101 | 第2層 | — | 土-211 | 106 | VI-2 | 口径10.4、高23.4、 胴径15.8 | | 77 |
| 記号081 | MP-記号-0114 | 91 | SD-101B | 第6(下)層 | — | 土-2670 | 361 | V-2 | 高17.6、胴径13.3、 底径13.6 | 他に未接合標片 4点あり | 78 |
| 記号082 | MP-記号-0120 | 40 | SD-101 | 第7層 | — | 土-702 | 273 | V-1 | 口径16.8、高7.9、 胴径7.5 | | 78 |
| 記号083 | MP-記号-0061 | 65 | SK-134 | 第2層 | — | 土-217 | 646 | V-1 | 高(8.8)、幅(4.3)、厚0.5 | | 78 |
| 記号084 | MP-記号-0007 | 33 | SK-133 | 第3層 | — | 土-303 | 510 | VI-2 | 口径10.5、高21.1、 胴径11.9 | 井戸供献土器 | 78 |
| 記号085 | MP-記号-0112 | 91 | SD-101B | 第6層 | — | 土-672 | 298 | V-2 | 口径10.9、高27.6、 胴径15.8 | | 79 |
| 記号086 | MP-記号-0048 | 69 | SD-1109 | 第5(下)層 | — | 土-7555 | 721 | VI-1 | 口径10.7、高20.0、 胴径11.9 | | 79 |
| 記号087 | MP-記号-0090 | 34 | SD-103 | 第2層 | 黒粘 | — | 120 | VI-2 | 高22.5、胴径13.7、 底径14.5 | | 79 |
| 記号088 | MP-記号-0100 | 14 | SK-102 | 最下層 | 黒粘 | 土-05 | 24 | VI-3 | 口径18.8、高22.4、 胴径20.0 | 井戸供献土器 | 79 |
| 記号089 | MP-記号-0066 | 14 | SK-106 | 下層 | 黒粘 | 土-4 | 37 | VI-3 | 口径13.3、高19.3、 胴径17.5 | 井戸供献土器 | 80 |
| 記号090 | MP-記号-0079 | 62 | SD-101 | 第1(下)層 | — | 土-1154 | 94 | VI-3 | 口径11.7、高15.8、 胴径12.8 | | 80 |
| 記号091 | MP-記号-0099 | 65 | SD-101N | 第1層 | — | 土-108 | 103 | VI-3 | 口径10.2、高16.1、 胴径13.6 | | 81 |
| | | 65 | SD-101N | 第1層 | 黒褐色土 | — | 91 | | | | |
| | | 65 | SD-101N | 第1層 | 黒褐色土 | — | 86 | | | | |
| 記号092 | MP-記号-0113 | 91 | SD-101B | 第6(下)層 | — | 土-1674 | 298 | V-2 | 口径13.8、高27.3、 胴径17.7 | | 81 |
| 記号093 | MP-記号-0105 | 24 | SD-107 | 第3層 | 黒粘 | — | 116 | VI-3 | 口径10.4、高19.8、 胴径16.0 | | 81 |
| | | 24 | SD-107 | 第2層 | 黑灰粘 | — | 98 | | | | |

土器文様一覧表

| 掲載番号 | 管理番号 (Mコード) | 調査 次数 | 遺構名 | 層位 | 土色 | 取上 | No | 様式 / 時期 | 法量 | 備考 | 掲載 ページ |
|-------|----------------|----------|--------|-----|-------|----|-----|------------|------------------|----|-----------|
| 文様001 | MP-文様-0012 | 82 | SK-217 | 第2層 | 灰黑色粘砂 | — | 270 | I-1 | 高3.6、胴径9.7 | | 82 |
| 文様002 | MP-文様-0054 | 82 | SK-206 | 第3層 | 灰黑粘 | — | 279 | I-1 | 高2.4、幅(6.5)、厚1.0 | | 82 |

附

| 測量番号 | 管理番号 (Mコード) | 調査 次数 | 測定名 | 層位 | 土色 | 取上 | No. | 様式 / 時期 | 法量 | 備考 | 測定 ページ |
|-------|----------------|----------|---------|----------------|---------|--------|-------|-----------------------|-------------------------|--------|-----------|
| 文様003 | MP-文様-0024 | 38 | SK-207 | 第1層 | 灰色砂 | — | 151 | I-1 | 長(5.9), 幅(7.2), 厚0.8 | | 82 |
| 文様004 | MP-文様-0035 | 37 | SK-4201 | 第2層 | 灰黑色砂質土 | — | 847 | I-1 | 長(7.8), 幅(6.1), 厚1.0 | | 82 |
| 文様005 | MP-文様-0008 | 17 | SK-01 | — | 黑色粘砂 | — | 14 | I-1 | 高(3.1), 長(7.5), 幅(6.4) | | 83 |
| 文様006 | MP-文様-0028 | 53 | SK-201 | — | 灰黑色 | — | 431 | I-1 | 高(4.2), 幅(12.2), 厚0.6 | | 83 |
| 文様007 | MP-文様-0005-1 | 14 | SK-201 | 下層 | — | — | 66 | | 長(5.9), 幅(6.1), 厚0.8 | | |
| | MP-文様-0005-2 | 14 | SK-201 | 下層 | — | — | 66 | I-1 | 長(5.3), 幅(4.7), 厚0.7 | | 83 |
| | MP-文様-0005-3 | 14 | SK-201 | 下層 | — | — | 66 | | 長(7.5), 幅(5.4), 厚0.9 | | |
| 文様008 | MP-文様-0047 | 44 | — | — | 暗青灰色粘質土 | その1 | 367 | I-1 | 長(4.1), 幅(5.2), 厚0.5 | | 83 |
| 文様009 | MP-文様-0082 | 37 | — | — | 暗青灰色粘質土 | — | 731 | I-1 | 長(5.6), 幅(4.4), 厚0.6 | | 84 |
| 文様010 | 20 | SK-217 | 第2層 | — | 暗青灰色粘質土 | — | 671 | I-2 | 高(10.3), 幅(11.4), 厚0.7 | | 84 |
| | 20 | SK-217 | 第2層 | — | 暗青灰色粘質土 | — | 666 | | 底付 | | |
| 文様011 | MP-文様-0068-1 | 19 | SK-1103 | 第6層 | 黑灰粘 | 土-602 | 868 | | 口径14.5, 高(12.3), 厚0.7 | | |
| | MP-文様-0068-1 | 19 | SK-1103 | 第5層 | 灰黑色粘砂 | — | 940 | | 長(11.7), 幅(19.3), 厚0.7 | | |
| | MP-絵画-0068-2 | 19 | SK-1103 | 第5層 | 灰黑色粘砂 | 土-502 | 939 | I-1 | 長(10.8), 幅(19.7), 厚0.6 | | 84 |
| | MP-絵画-0068-3 | 19 | SK-1103 | 第5層 | 灰黑色粘砂 | 土-502 | 939 | | 長(8.0), 幅(12.2), 厚0.5 | | |
| | MP-絵画-0068-4 | 19 | 中世大溝II | 第4層 | 黑粘 | — | 938 | | 長(4.5), 幅(5.0), 厚0.8 | | |
| | MP-絵画-0068-5 | 19 | 中世大溝II | 第4層 | 黑粘 | — | 938 | | 長(4.5), 幅(5.4), 厚0.6 | | |
| 文様012 | MP-文様-0088 | 26 | — | 第6層 | 黑褐色土 | — | 90 | I | 長(5.6), 幅(5.4), 厚0.6 | | 84 |
| 文様013 | MP-文様-0045 | 96 | SD-101 | 第6層 | 黑色粘砂 | 植物物 | 102 | II-1 | 長(10.5), 幅(13.9), 厚0.7 | | 85 |
| 文様014 | MP-文様-0072-1 | 14 | 前期住合跡 | — | — | — | 130 | | 長(6.4), 幅(8.5), 厚1.2 | | |
| | MP-文様-0072-2 | 22 | 中世大溝 | — | 灰黑色砂質土 | — | 178 | II | 長(7.3), 幅(8.8), 厚1.1 | | 85 |
| | MP-文様-0072-3 | 22 | SD-54 | 第4層 | 灰黑色 | — | 73 | | 長(4.1), 幅(8.2), 厚0.7 | | |
| 文様015 | MP-文様-0015 | 25 | SD-201 | 第3層 | 灰黑色砂質土 | — | 7 | I-1 | 高(2.9), 幅(10.6) | | 85 |
| 文様016 | 20 | SK-215 | 第2層 | 灰黑色 | — | 681 | | | | | |
| | 20 | SK-215 | 第2層 | 灰黑色 | — | 647 | | | | | |
| | 20 | SK-215 | 第2層 | 灰黑色 | — | 664 | I-2 | 口径9.6, 高(8.4), 底径4.8 | | 85 | |
| | 20 | SK-119 | 第1層 | 暗青色粘質土 | — | 563 | | | | | |
| | 20 | — | — | 黑色土 | — | 438 | | | | | |
| | 20 | SK-215 | 第1層 | 灰黑色粘質土 | — | 653 | | | 長(5.0), 幅(5.0), 厚0.5 | | |
| 文様017 | 33 | SD-202 | 第5層 | 灰黑色 | — | 1057 | | | 長(24.4), 幅(27.1), 厚0.9 | | |
| | 33 | SD-202 | 第4層 | 黑粘 | — | 1032 | | | 長(4.8), 幅(3.7), 厚0.7 | | |
| | MP-絵画-0090-2 | 33 | SD-202 | 第3層 | 灰黑色 | — | 966 | II-2 | 長(4.5), 幅(4.5), 厚0.8 | | 86 |
| | MP-絵画-0090-3 | 33 | SD-202 | 第3層 | 灰黑色 | — | 966 | | 長(4.3), 幅(4.8), 厚0.8 | | |
| | MP-絵画-0090-4 | 33 | SD-202 | 第5層 | 灰黑色 | — | 1057 | | 長(5.0), 幅(6.2), 厚0.8 | | |
| 文様018 | MP-文様-0013 | 23 | SK-123 | 第4層 | 炭灰層 | 土-401 | 340 | II-2 | 口径18.0, 高(13.1), 底径14.0 | | 86 |
| 文様019 | MP-文様-0044 | 76 | — | 東寺Sec. 第IV層 | — | — | 435 | III | 縫合部1.9, 高3.0, 底径1.8 | | 86 |
| 文様020 | MP-文様-0029 | 61 | SK-142 | 第4層 | 灰黑色粘砂 | 土-401 | 1578 | III-1 | 口径5.7, 高13.2, 底径14.0 | 井戸供献土器 | 86 |
| 文様021 | MP-文様-0021 | 37 | SK-2130 | 第10層 | 黑灰粘 | 土-1002 | 946 | III-3 | 口径4.7, 高9.7, 底径9.0 | 井戸供献土器 | 87 |
| 文様022 | 19 | SD-204 | 第5-a層 | 黑粘 | — | 806 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第7層 | 暗青色粘砂 | — | 711 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第7層 | 暗青色粘砂 | G-701 | 754 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第9層 | 黑粘(植物物) | — | 829 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第10層 | 黑粘 | — | 861 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第4下層 | 黑粘 | — | 647 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第5層 | 灰黑色粘砂 | — | 694 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第5層 | 灰黑色粘砂 | — | 704 | | | | | |
| | 19 | — | — | 黄褐色土 | — | 413 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第7層 | 暗青色粘砂 | — | 706 | III-3 | 口径9.3, 高13.7, 底径9.263 | | 87 | |
| | 19 | SD-204 | 第5層 | 灰黑色粘砂 | — | 697 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第9-4層 | 黑粘 | — | 812 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第9層 | 黑粘(植物物) | — | 807 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第9層 | 黑粘(植物物) | — | 844 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第9層 | 黑粘(植物物) | — | 813 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第9-1層 | 黑粘 | — | 809 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第5層 | 灰黑色粘砂 | G-504 | 749 | | | | | |
| | 19 | SD-204 | 第5層 | 灰黑色粘砂 | — | 710 | | | | | |
| 文様023 | MP-文様-0031 | 50 | SD-106 | 第3層 | 灰黑色砂質土 | — | 297 | III-3 | 口径9.7, 高18.0, 底径16.7 | | 87 |
| 文様024 | MP-文様-0016 | 33 | SK-124 | 第7層 | 灰黑色 | — | 793 | III-3 | 口径18.5, 高22.0, 底径17.6 | | 88 |
| 文様025 | MP-文様-0051 | 51 | SD-103 | 第4層 | 植物物 | その1 | 88 | III-1 | 縫合部1.4, 高2.1, 底径4 | | 88 |
| 文様026 | MP-文様-0010 | 76 | SK-1115 | 第1層 | 灰黑色粘砂 | — | 343 | III-3 | 縫合部4.2, 高4.4, 底径10.2 | | 88 |

2. 遺物一覧表

| 掲載番号 | 管理番号 (Mコード) | 調査 次数 | 遺物名 | 層位 | 土色 | 取上 | No | 様式 / 時期 | 法量 | 備考 | 掲載 ページ |
|-------|----------------|----------|----------|--------|-----------------|--------|------|------------|-----------------------------|--------|-----------|
| 文様027 | MP-文様-0027 | 51 | SD-103 | 第3層 | 黒粘 | 土-305 | 58 | Ⅲ-3 | 高6.8、幅径10.5、 厚0.6 | | 89 |
| 文様028 | MP-文様-0004 | 13 | SD-06C | 第6層 | 砂質土 | 土-629 | 346 | | | | |
| | | 13 | SD-06C | 第6・7層 | 礫砂 | — | 342 | | | | |
| | | 13 | SD-06C | 第7層 | 砂質土Ⅱ | — | 379 | IV-1 | 高(14.8)、幅径17.2 | | 89 |
| | | 13 | SD-06C | 第7層 | 砂質土Ⅱ | — | 385 | | | | |
| | | 13 | SD-06C | 第6層 | 砂質土 | — | 343 | | | | |
| 文様029 | MP-文様-0026 | 48 | SX-1102 | — | — | — | 85 | | | | |
| | | 48 | SX-1102 | 第1層 | 黒灰色粘質土 | — | 218 | IV-1 | 高(31.0)、幅径25.3、 底(5.3) | | 89 |
| | | 48 | SX-1102 | — | — | — | 156 | | | | |
| 文様030 | MP-文様-0020-1 | 52 | SX-101 | 第1(下)層 | 茶灰色粘質土 | — | 14 | | | | |
| | | 52 | SX-101 | 第3層 | — | — | 30 | | | | |
| | | 52 | SX-101 | 第3層 | — | — | 28 | | | | |
| | | 52 | SX-101 | 上層 | — | — | 26 | | | | |
| | | 52 | SX-101 | — | — | — | — | | | | |
| 文様031 | MP-文様-0020-2 | 52 | SX-101 | 第2<3>層 | — | — | 31 | | | | |
| | | 65 | SK-109 | 第1(下)層 | 暗灰褐色土 | — | 373 | | | | |
| | | 65 | SK-109 | 第2層 | 黑色砂質土 | — | 441 | | | | |
| | | 65 | SK-109 | 第3層 | 炭灰層 | — | 444 | IV-2 | 長(10.2)、幅(8.2)、厚0.6 | | 90 |
| 文様031 | MP-文様-0065-2 | 65 | SK-109 | 第1(下)層 | 暗灰褐色土 | — | 347 | | | | |
| | | 65 | SK-109 | Sec.2層 | — | — | 120 | | | | |
| | | 65 | — | — | 黑褐色土 | — | 120 | | | | |
| 文様032 | MP-文様-0049 | 76 | SD-1107 | — | 灰黒粘 | — | 221 | V | 長(7.5)、幅(11.0)、 厚0.8 | | 90 |
| | | 76 | SD-1107 | 第2(下)層 | 灰黑色粘質土 | — | 199 | | | | |
| 文様033 | MP-文様-0064-1 | 33 | SK-159 | 第2層 | 炭灰層 | — | 743 | | | | |
| | | 69 | — | — | 暗灰色粘質土 (炭灰層) | — | 1641 | | | | |
| | | 69 | — | — | 黑褐色土Ⅱ | — | 1775 | | | | |
| | | 33 | SK-159 | 第2層 | 炭灰層 | — | 743 | | | | |
| | | 33 | SK-159 | 第2層 | 炭灰層 | — | 743 | IV-2 | 長(6.4)、幅(4.9)、厚0.7 | | 91 |
| 文様033 | MP-文様-0064-3 | 69 | SD-1125 | Sec.2層 | 暗灰色粘質土 | — | 1861 | | | | |
| | | 33 | SK-111 | 第1層 | 暗褐色土 | — | 879 | | | | |
| | | 69 | SD-1104C | 第3層 | 灰黒粘 | — | 1962 | | | | |
| | | 33 | SK-108 | 第1層 | 黑褐色土 | — | 169 | | | | |
| | | 19 | SD-204 | 第5層 | 灰黑色粗砂 | G-503 | 748 | IV | 高(21.2)、幅(13.1)、 厚0.8 | | 91 |
| 文様034 | MP-文様-0042 | 19 | SD-204 | 第5層 | 灰黑色粗砂 | — | 730 | | | | |
| | | 69 | SD-1109 | 第5(下)層 | — | 土-7510 | 721 | V | 口径3.5、高10.6、 底(2.9) | | 92 |
| 文様035 | MP-文様-0048 | 69 | SD-1109 | — | — | — | 308 | V | 長(0.4)、幅(0.6)、 厚1.6 | | 92 |
| 文様036 | MP-文様-0014 | 13 | SD-06 | 崩壊土 | — | — | 308 | V | 口径11.2、高12.5、 幅径12.4 | | 92 |
| 文様037 | MP-文様-0022 | 37 | SX-2101 | 第8層 | 灰黑色粘砂 | — | 305 | V | 口径11.2、高12.5、 幅径12.4 | | 92 |
| 文様038 | MP-文様-0043-1 | 24 | SD-107 | 第4層 | 植物層 | — | 189 | V | 長(11.0)、幅(15.2)、 厚1.1 | | 92 |
| | | 24 | SD-107 | 第2層 | 黑灰粘 | — | 100 | | | | |
| 文様039 | MP-文様-0043-2 | 24 | SD-107 | 第2層 | 黑灰粘 | — | 102 | | | | |
| | | 14 | SK-102 | 下層 | 黒粘 | 土-05 | 27 | VI-3 | 口径1.6、高19.2、 幅径14.4 | 井戸供獻土器 | 93 |
| 文様040 | MP-特種-0106 | 13 | SD-02 | 砂層 | — | 土-3 | 72 | | | | |
| | | 13 | SD-02 | 砂層 | — | 土-13 | 72 | | | | |
| | | 13 | SD-02 | 砂層 | — | 土-15 | 72 | | | | |
| | | 13 | SD-02 | 砂層 | — | 土-16 | 72 | | | | |
| | | 13 | SD-02 | 砂層 | — | 土-20 | 72 | | | | |
| 文様041 | MP-文様-0007 | 14 | SK-106 | 上層 | 黒粘 | — | 53 | VI-3 | 長(7.7)、幅(11.4)、厚1.1 | | 93 |
| | | 91 | SD-101B | 第6(下)層 | 黒灰色粘砂 | — | 346 | VI-3 | 口径6.8、高10.4、 幅径7.0, | | 94 |
| 文様043 | MP-文様-0002 | 91 | SD-101B | 第6(下)層 | — | 土-664 | 298 | | | | |
| | | 91 | SD-103 | 第2(下)層 | — | G-261 | 185 | VI-3 | 口径7.7、高9.2、 幅径7.5 | | 94 |
| 文様044 | MP-文様-0040-1 | 40 | SD-101 | 第4(上)層 | 灰褐色粘砂 | — | 179 | VI-3 | 長(7.7)、幅(10.6)、 厚0.7 | | 94 |
| | | 40 | SD-101 | 第4(上)層 | — | — | 198 | | | | |
| 文様045 | MP-文様-0040-2 | 86 | — | — | 暗褐色粘質土 | — | 135 | | 長(5.5)、幅(8.2)、厚0.6 | | 94 |
| | | 99 | SD-8101 | 第1層 | 黒褐色粘質土 | その1 | 65 | VI-3 | 長(5.1)、幅(5.2)、厚1.5 | | 95 |
| 文様046 | MP-文様-0067 | 74 | SK-119 | 第1層 | — | 土-150 | 616 | VI-3 | 口径3.3、高13.0、 幅径16.0、厚0.7 | | 95 |
| | | 59 | — | — | 黑褐色土 | その1 | 52 | VI-3 | 長(5.0)、幅(6.0)、厚0.6 | | 95 |

註 法量の()は現存値、非復元値を表す。

附

【論文】

久野邦雄「唐古・鍵遺跡出土の絵画土器について」『考古学雑誌』第 66 卷第 1 号 日本考古学会 1980

【報告書】

田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 I —範囲確認調査— 遺構・主要遺物編』田原本町埋蔵文化財調査報告書第 5 集 2009

田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 I —範囲確認調査— 写真図版編』田原本町埋蔵文化財調査報告書第 5 集 2009

田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 I —範囲確認調査— 特殊遺物・考察編』田原本町埋蔵文化財調査報告書第 5 集 2009

【概報】

田原本町教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所『昭和 52 年度 唐古・鍵遺跡発掘調査概報』1978

田原本町教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所『昭和 54 年度 唐古・鍵遺跡第 6・7・8・9 次発掘調査概報』1980

田原本町教育委員会『昭和 57 年度 唐古・鍵遺跡第 13・14・15 次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要 1』1983

田原本町教育委員会『昭和 58 年度 唐古・鍵遺跡第 16・18・19 次発掘調査概報 黒田大塚古墳第 1 次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要 2』1984

田原本町教育委員会『昭和 59 年度 唐古・鍵遺跡第 20 次発掘調査概報 黒田大塚古墳第 2 次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要 3』1986

田原本町教育委員会『昭和 60 年度 唐古・鍵遺跡第 22・24・25 次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要 4』1986

田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡第 21・23 次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要 6』1987

田原本町教育委員会『昭和 61 年度 唐古・鍵遺跡第 26 次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要 7』1987

田原本町教育委員会『昭和 62・63 年度 唐古・鍵遺跡第 32・33 次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要 11』1989

田原本町教育委員会『平成 4 年度 唐古・鍵遺跡第 52 次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要 13』1993

田原本町教育委員会『平成 8 年度 唐古・鍵遺跡第 61 次発掘調査概報』『田原本町埋蔵文化財調査概要 16』1997

【年報】

田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 1 1988・1989 年度』1990

田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 2 1990 年度』1991

3. 文献（発掘調査関係）

- 田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 3 平成 3 年度』1992
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 4 1992・1993 年度』1994
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 5 1994・1995 年度』1996
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 6 1996 年度』1997
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 7 1997 年度』1998
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 8 1998 年度』1999
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 9 1999 年度』2000
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 10 2000 年度』2001
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 11 2001 年度』2002
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 12 2002 年度』2003
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 13 2003 年度』2004
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 14 2004 年度』2006
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 21 2011 年度』2013

【図録等】

- 飯田恒男『大和唐古石器時代遺物図集』1929
田原本町『唐古・鍵遺跡発掘調査 50 周年記念 唐古・鍵ムラの弥生人』1986
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館『唐古・鍵弥生遺跡調査 50 年史』『奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・特別陳列解説』1986
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・田原本町教育委員会『平成 8 年度春季特別展 弥生の風景 唐古・鍵遺跡の発掘調査 60 年』1996
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館『唐古・鍵遺跡』『橿原考古学研究所 50 周年記念特別展 石舞台から藤ノ木古墳』1988
田原本町教育委員会『唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録』2004
田原本町教育委員会『たわらもと 2005 発掘速報展』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.1 2005
田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡と周辺の弥生遺跡』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.2 2005
田原本町教育委員会『ヤマト王権はいかにして始まったか～弥生の王都 唐古・鍵～』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.6 2007
田原本町教育委員会『弥生デザイン』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.8 2008
田原本町教育委員会『弥生グラフィティー』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.10 2009
田原本町教育委員会『消えた古墳』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.12 2011
田原本町教育委員会『弥生エッセンス～その技と美～』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.13 2011
田原本町教育委員会『村を守る－乱世の考古学－』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.14 2012
田原本町教育委員会『弥生遺産』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.16 2013
田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 Vol.1 概説編』田原本の遺跡 1 1999
田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 Vol.2 土器編』田原本の遺跡 2 1998

附

- 田原本町教育委員会『2000年の時間を超えて 唐古・鍵遺跡 Vol.3 概説編 2』田原本の遺跡 3 2000
田原本町教育委員会『弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～』田原本の遺跡 4 2006
田原本町教育委員会『弥生の王都 唐古・鍵』田原本の遺跡 6 2013
田原本町教育委員会『ミュージアムコレクション Vol.1』2007
田原本町教育委員会『ミュージアムコレクション Vol.2』2009
田原本町教育委員会『ミュージアムコレクション Vol.3』2010

唐古・鍵遺跡
考古資料目録 I
—土器編 1 (絵画・記号・文様) —

平成 27 年 3 月 31 日

編集・発行／田原本町教育委員会

奈良県磯城郡田原本町大字坂手 348-1

印刷・製本／株式会社 明新社

奈良県奈良市南京終町 3-464